

令和2年度

埼玉県政世論調査結果の概要

県政世論調査は、県政の重要課題に対する県民の関心、意識、要望などを把握し、施策の立案及び推進の資料として活用するため、昭和43年度から毎年度実施しています。

今年度は、課題調査として「県民の環境への関心と行動について」「川の再生について」の2つのテーマと、定期調査（時系列項目）として「生活意識」「日常生活」「県政への要望」について調査を行いました。

【目 次】

○ 調査のあらまし	3
I 調査結果のポイント	5
II 調査結果（単純集計結果）	15
1 生活意識	17
2 日常生活	29
3 県政への要望	61
4 県民の環境への関心と行動について	67
5 川の再生について	74
（参考資料）世論調査実施状況	82

＜本調査の内容及び結果についてのお問い合わせ先＞

埼玉県県民生活部広聴広報課 広聴・知事への提案担当

電話 048-830-2850（直通）

○ 調査のあらまし

1 調査の目的

県民の県政に対する要望、意見及び県民の生活意識などを把握し、県政推進のための資料とする。

2 調査の項目

この調査の項目は次のとおりである。

- ア 生活意識（昨年と比べた暮らし向き、生活程度、生活全体の満足度、住みよさ、埼玉県に魅力を感じるか）
- イ 日常生活
- ウ 県政への要望
- エ 県民の環境への関心と行動について
- オ 川の再生について

3 調査の設計

この調査は次のように設計した。

- ア 調査地域 埼玉県全域
- イ 調査対象 満18歳以上の個人
- ウ 標本数 5,000
- エ 抽出方法 住民基本台帳による層化二段無作為抽出法
- オ 調査方法 郵送法（郵送配布、郵送回収・インターネット回収併用）
（令和元年までは、調査員による個別面接聴取法）
- カ 調査時期 令和2年8月8日～8月28日
- キ 調査実施委託機関 株式会社 マーケティング・サービス

4 回収結果

- （ア）有効回収数（率） 2,834（56.7%）
- （イ）調査不能数（率） 2,166（43.3%）

5 回答者の属性

（1）性別

総数	男性	女性	無回答
2,834	1,226	1,545	63
100.0	43.3	54.5	2.2

（2）年代別

総数	18・19歳	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答
2,834	34	226	349	513	471	443	744	54
100.0	1.2	8.0	12.3	18.1	16.6	15.6	26.3	1.9

（上段は人：下段は%）

6 調査結果の見方

- （1）結果は、百分率で表示し、小数第2位を四捨五入した。四捨五入の結果、個々の比率の合計と全体またはカテゴリーを小計した数値が一致しないことがある。なお、回答者を絞った質問では、質問該当者を100%とするのを原則とした。
- （2）問1「昨年と比べた暮らし向き」における『苦しくなった（計）』のように、「少し苦しくなった」と「苦しくなった」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢への回答者の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているので、内訳となるそれぞれの選択肢の比率の合計と合致しないことがある。

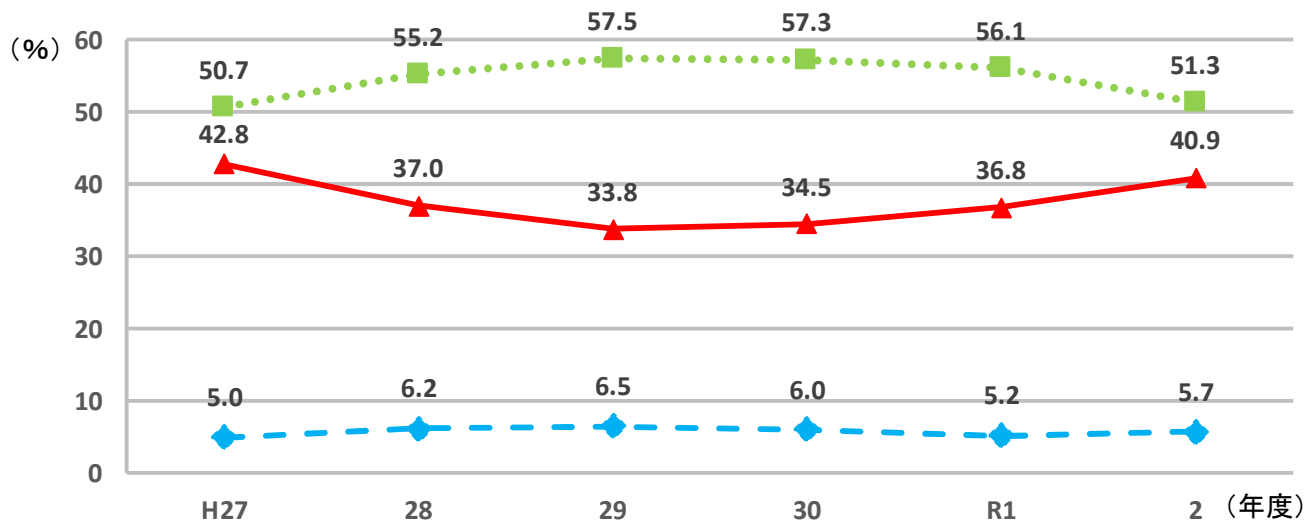
- (3) 図表中の「-」は回答者が皆無のもの、「0.0」は回答者の割合が0.05%未満のため四捨五入の結果0.0%となったものである。
- (4) 一人の対象者に2つ以上の回答を認めた質問では、回答の合計を回答者（n）で割った比率を算出しており、通常その百分率の合計は、100%を超える。また、この回答の合計数をM.T.（Multiple Totalの略）として表示した。
- (5) 調査票上のFはFace Sheetの略で、回答者の基本的属性についての質問である。
- (6) 調査手法として、令和元年度までは「個別面接聴取法」で実施されていたが、今回の令和2年度より「郵送法（郵送配布、郵送返送・インターネット回収併用）」に変更したので、今回の令和2年度の結果を、前年度以前の結果と比較する場合には留意が必要となる。

I 調査結果のポイント

1 定期調査（生活意識）

昨年と比べた暮らし向き

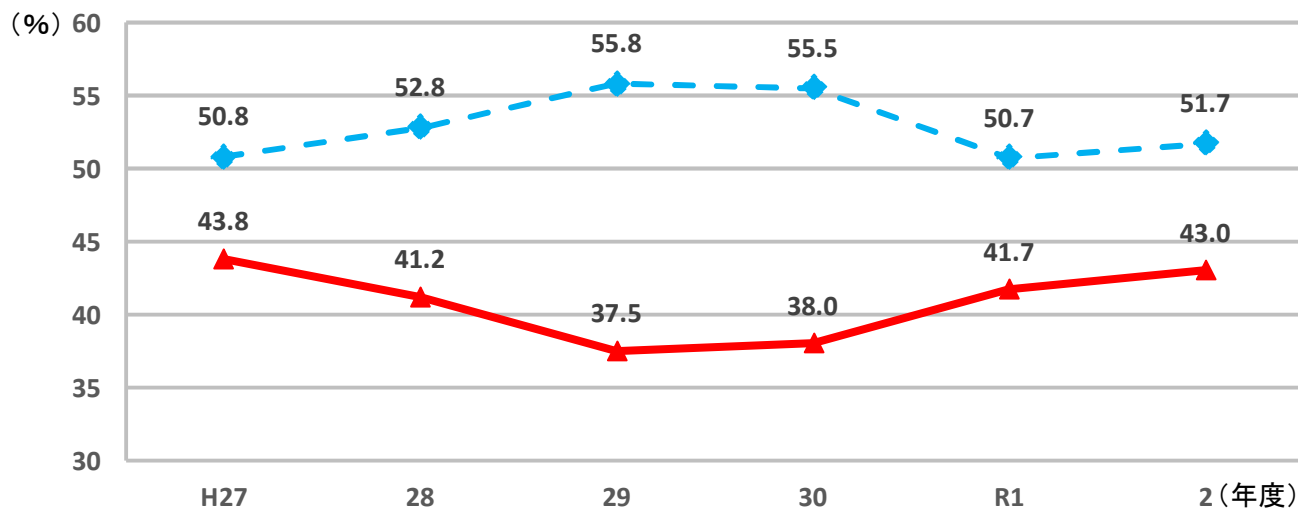
- ・『楽になった(計)』は昨年と比べて横ばい
- ・『苦しくなった(計)』は4.1p増加
- ・「変わらない」は4.8pの減少



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

生活全体の満足度

- ・6年連続で『満足(計)』が『不満(計)』を上回っている

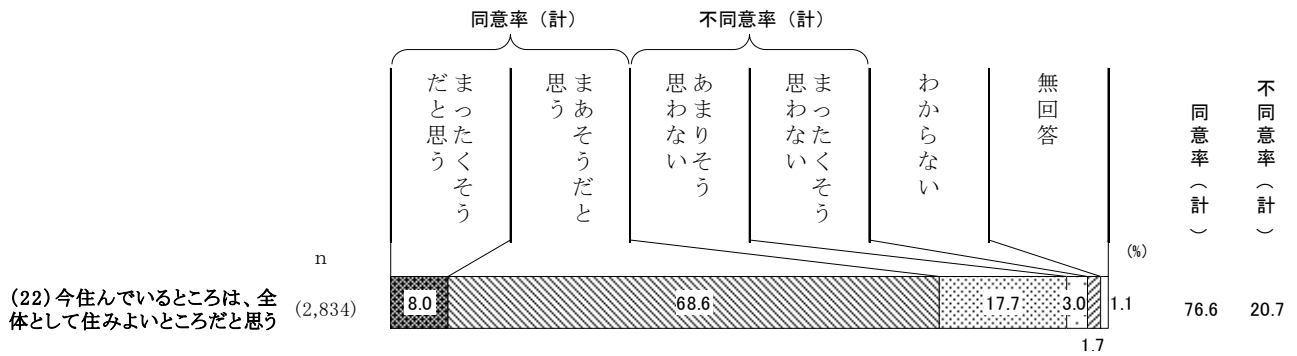


※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

住みよさ

1 あなたは、日ごろの生活の中で今お住まいの地域について、どのように感じていますか。

- ・「今住んでいるところは、全体として住みよいところだと思う」について、『同意率（計）』（76.6%）が7割台半ばを超えている

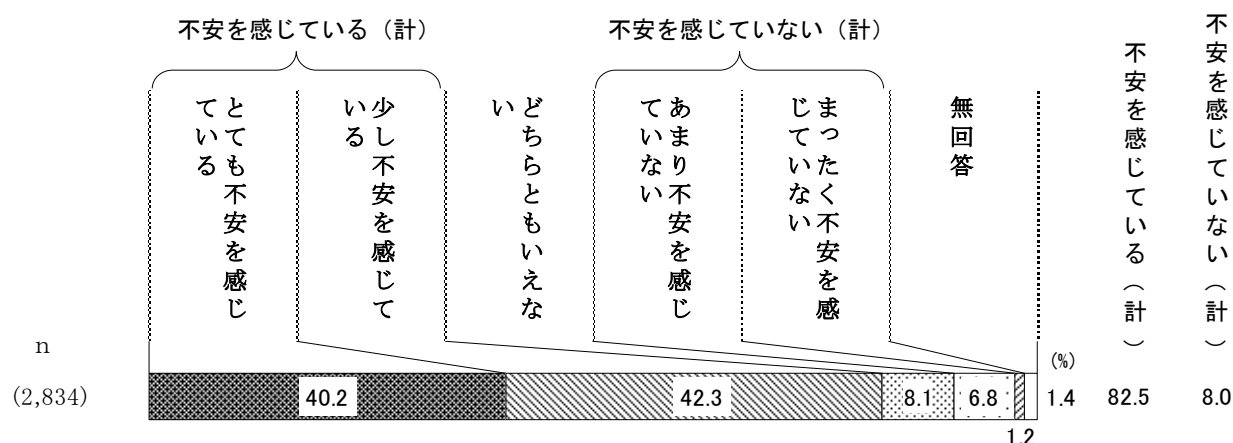


2 定期調査（日常生活）

新型コロナウイルス感染症への不安

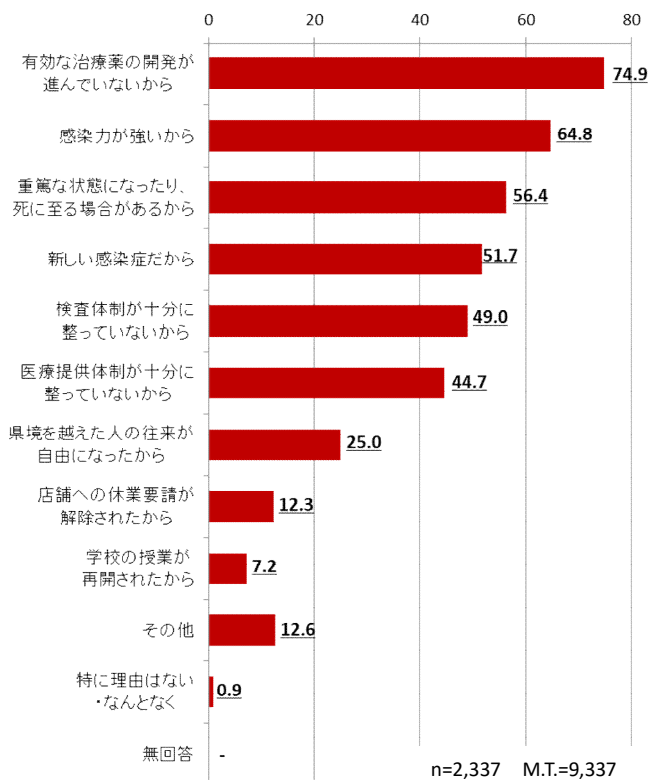
1 あなたは、ご自分が新型コロナウイルス感染症に感染するのではないかと不安を感じていますか。

・『不安を感じている（計）』（82.5%）が8割強



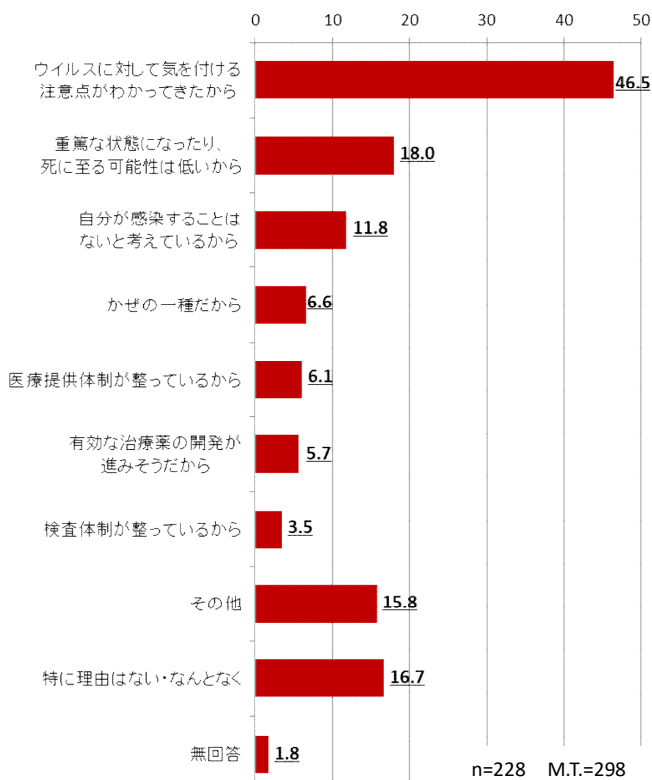
2 あなたは、なぜ不安を感じるのですか。

・「有効な治療薬の開発が進んでいないから」（74.9%）が7割台半ば



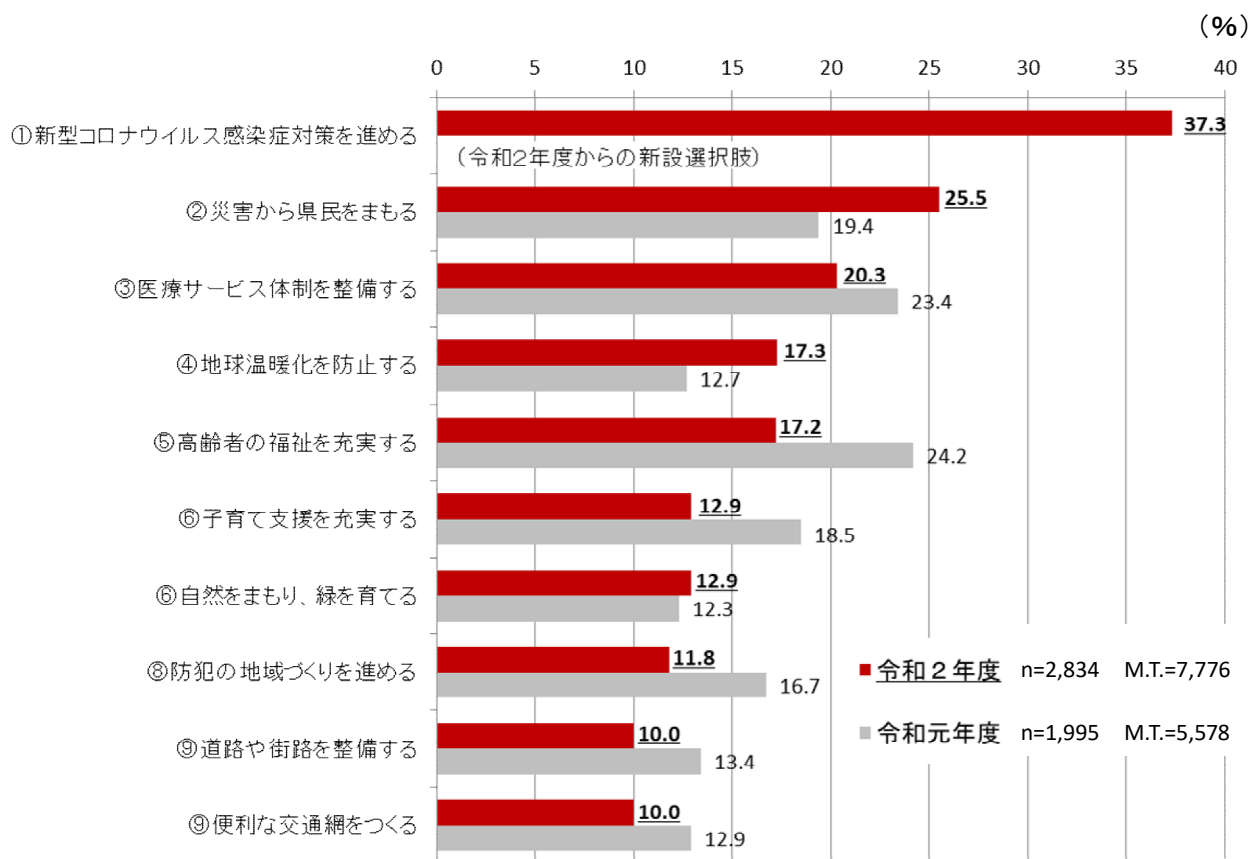
3 あなたは、なぜ不安を感じないのですか。

・「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」（46.5%）が4割台半ばを超える



3 定期調査（県政への要望）

- ・ 下記は、令和2年度の上位10項目を比率順に並べたグラフである
- ・ 新設選択肢の「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が第1位
- ・ 「災害から県民をまもる」が6.1p増加して第2位となった



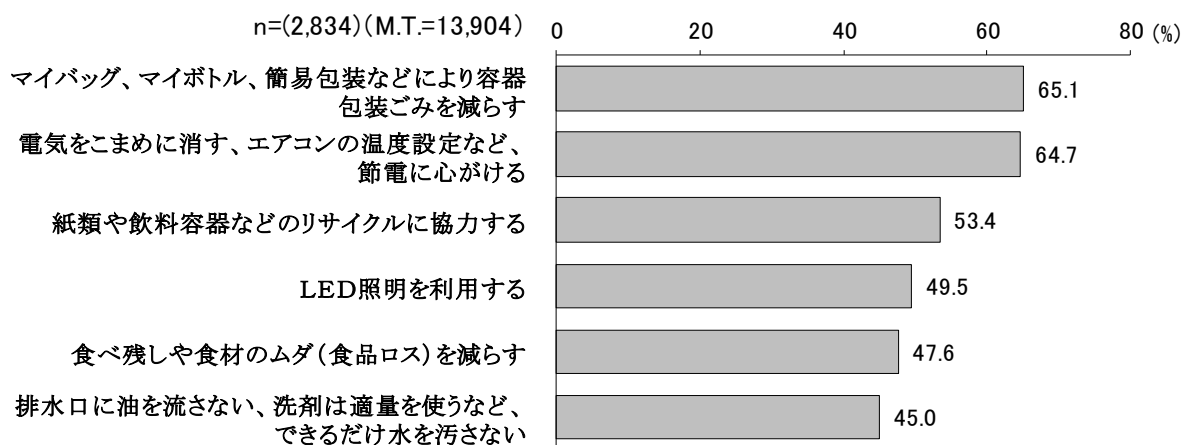
※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

4 課題調査

県民の環境への関心と行動について

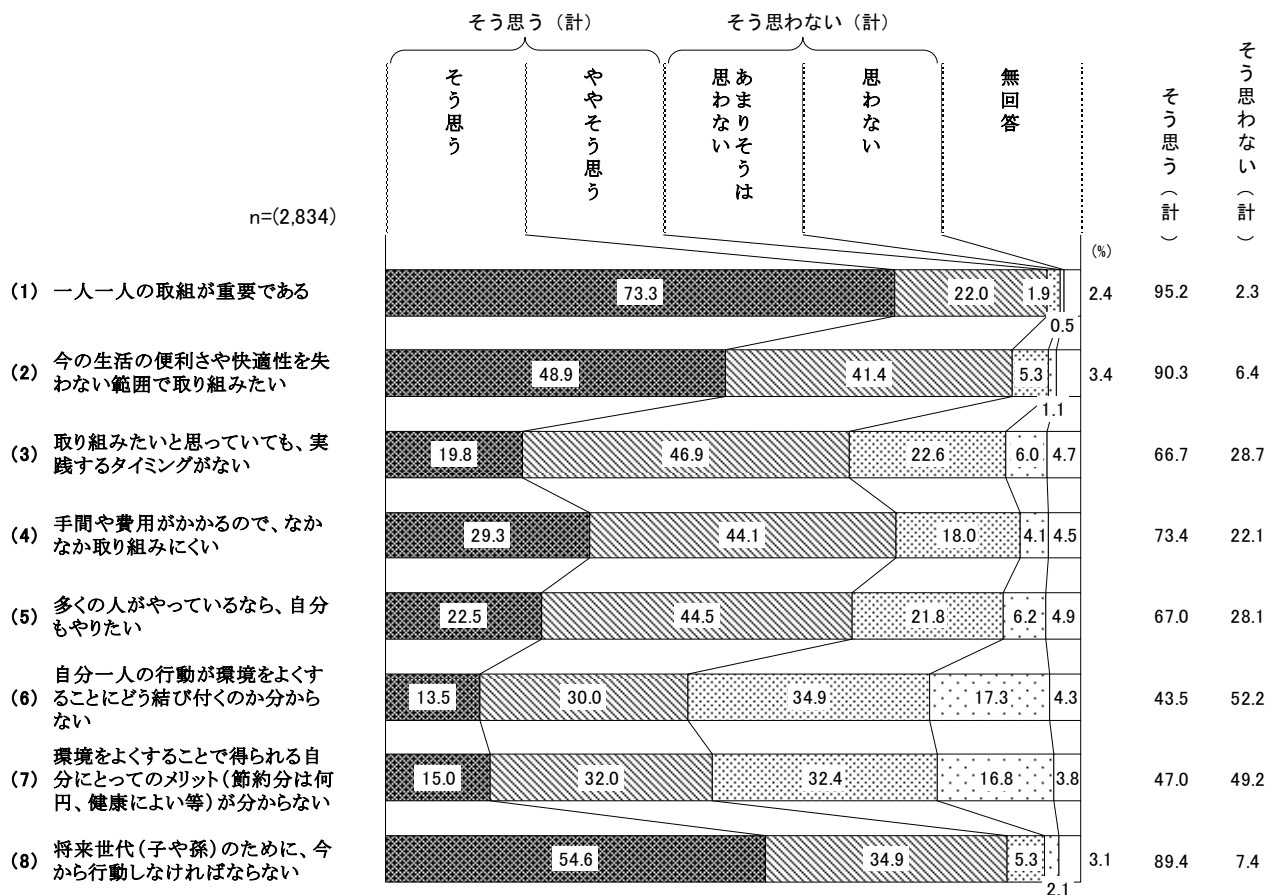
1 次の環境への取組について、あなたのご家庭で取り組んでいるものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている場合には、その影響がないものとして、お答えください。

- ・下記は、上位6項目のグラフである
- ・「マイバッグ、マイボトル、簡易包装などにより容器包装ごみを減らす」が65.1%、「電気をこまめに消す、エアコンの温度設定など、節電に心がける」が64.7%



2 環境に対する取組について、次のような意見や考えがあります。それぞれについて、あなたの考えや意見に最も近いものに○をつけてください。

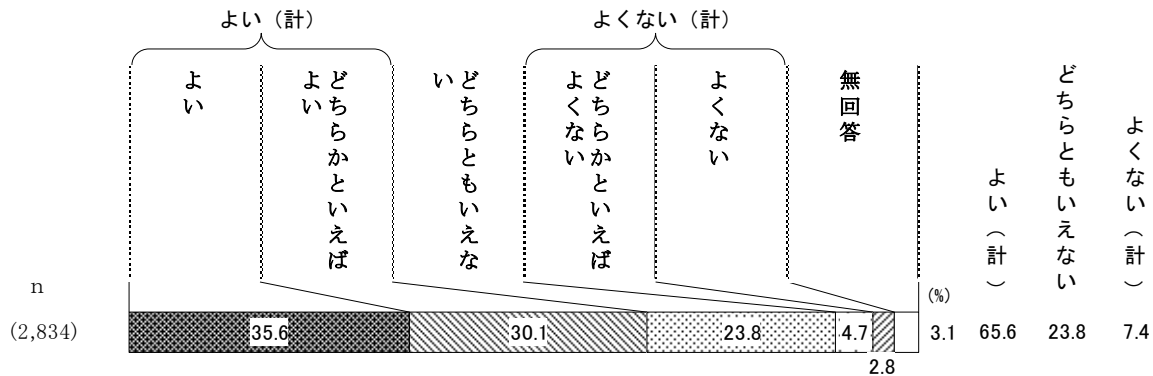
- ・「一人一人の取組が重要である」の『そう思う（計）』が95.2%、「今の生活の便利さや快適性を失わない範囲で取り組みたい」の『そう思う（計）』が90.3%



川の再生について

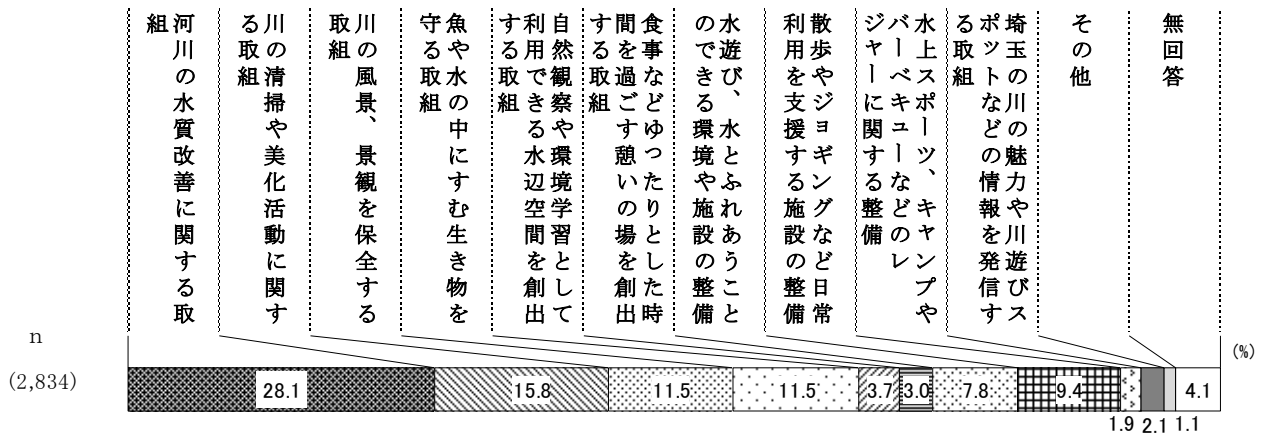
1 あなたは、地域の資源として河川空間を有効活用する取組について、どのように思いますか。

・「よい」(35.6%) が3割台半ばで最も多く、『よい(計)』だと65.6%



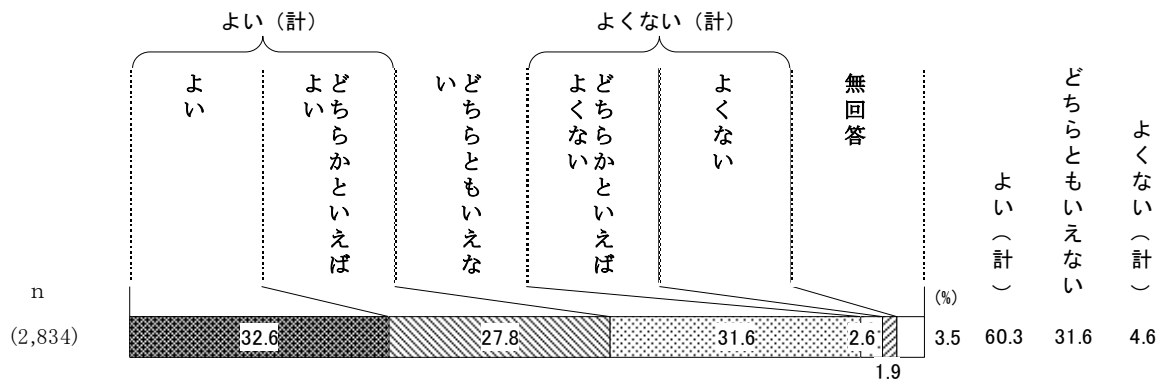
2 県が行う「川の再生」の取組で、あなたが最も重点を置いたらよいと思うものを、次の中から1つだけ選んでください。

・「河川の水質改善に関する取組」(28.1%) が2割台後半で最も多く、「川の清掃や美化活動に関する取組」(15.8%) が1割台半ばで続く



3 あなたは、県が進める「川の再生」の取組全般について、どのように思いますか。

・「よい」(32.6%) が3割強と最も多く、『よい(計)』だと60.3%



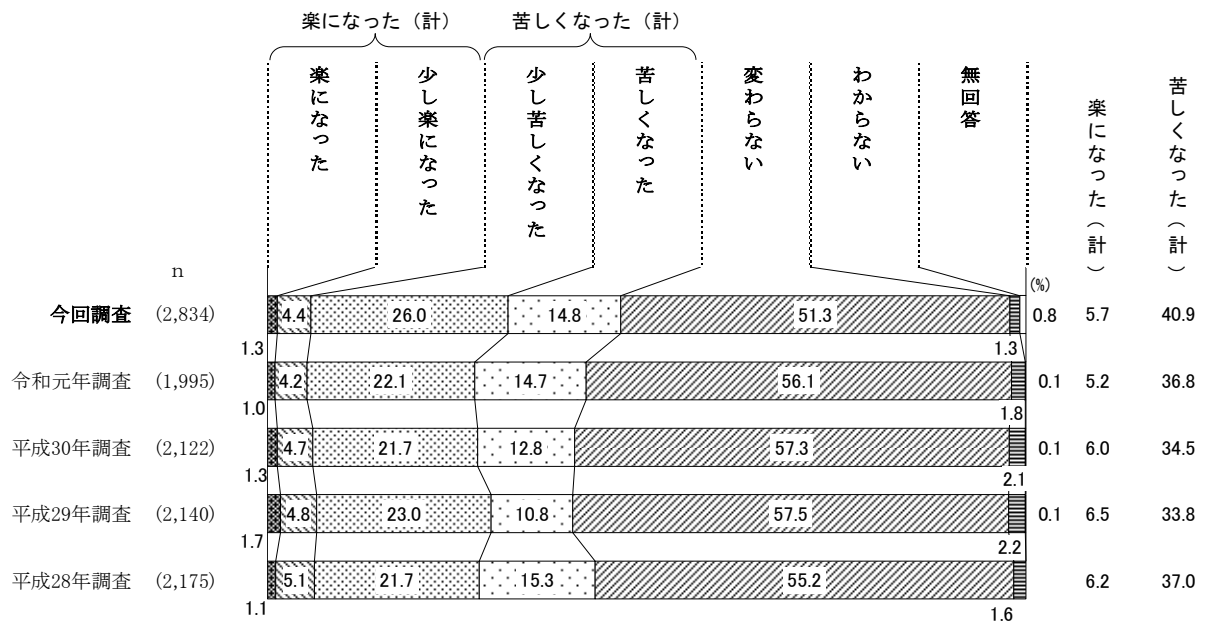
Ⅱ 調査結果（単純集計結果）

1. 生活意識

(1) 昨年と比べた暮らし向き

◇「変わらない」51.3%、『苦しくなった（計）』40.9%、『楽になった（計）』5.7%

問1 最初に、あなたの生活意識についておたずねいたします。お宅の暮らし向きは、昨年の今ごろと比べて楽になりましたか、それとも、苦しくなりましたか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

暮らし向きが「楽になった」（1.3%）と「少し楽になった」（4.4%）を合わせた『楽になった（計）』は5.7%となっている。一方で、「苦しくなった」（14.8%）と「少し苦しくなった」（26.0%）を合わせた『苦しくなった（計）』（40.9%）は4割を超えている。「変わらない」（51.3%）は5割強で、『苦しくなった（計）』を10.4ポイント上回っている。

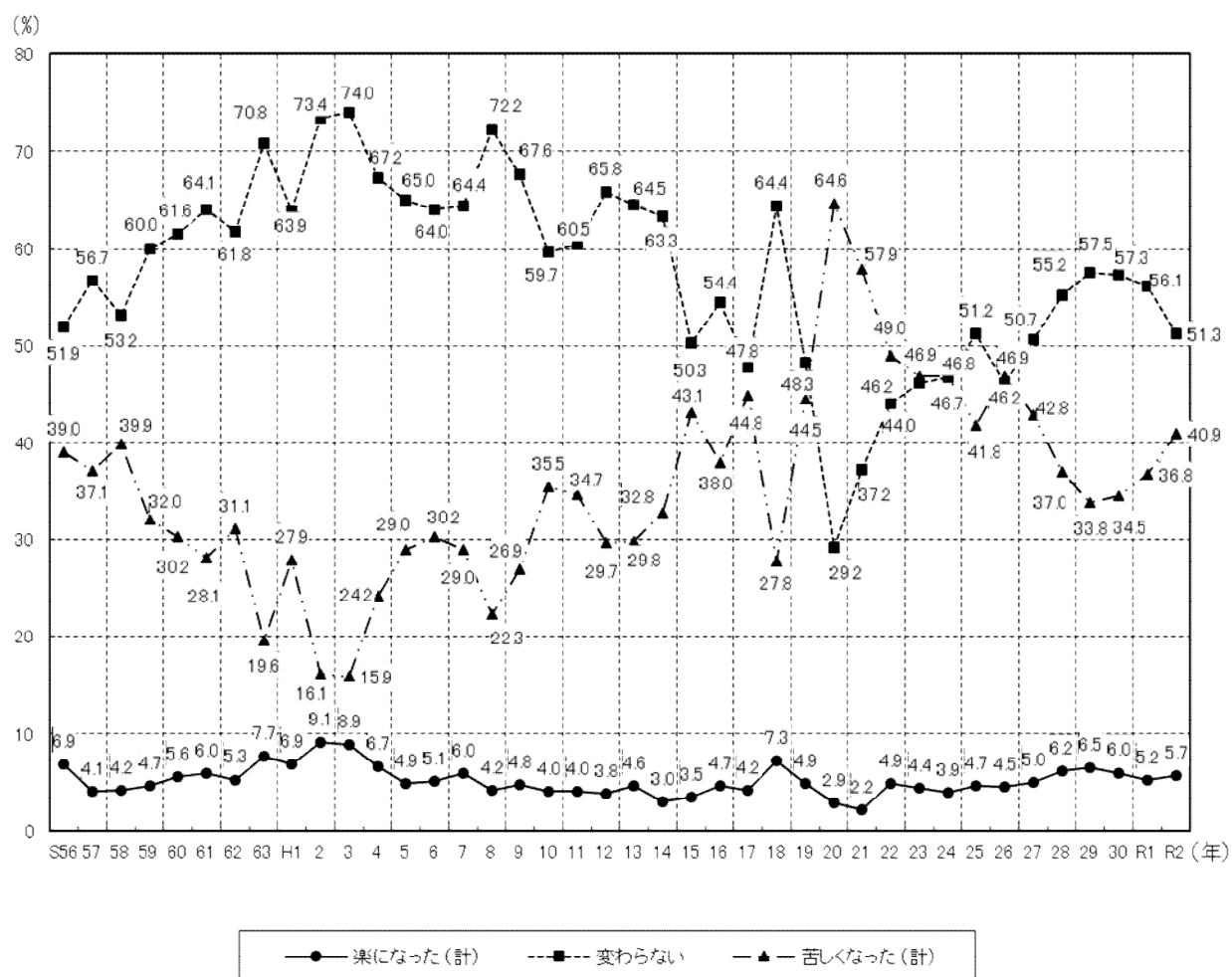
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『苦しくなった（計）』が4.1ポイント増加している一方で、「変わらない」は4.8ポイント減少している。

【経年比較】

この調査を開始した昭和56年以降の推移をみると、『苦しくなった（計）』は最も高かった平成20年（64.6%）からの減少傾向に対し、平成30年調査から3年連続で増加に転じた。平成27年調査から6年連続で「変わらない」が『苦しくなった（計）』を上回ったが、直近4年間でみると、「変わらない」は3年連続で減少傾向にある。

○昨年と比べた暮らし向き・昭和56年以降の推移



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

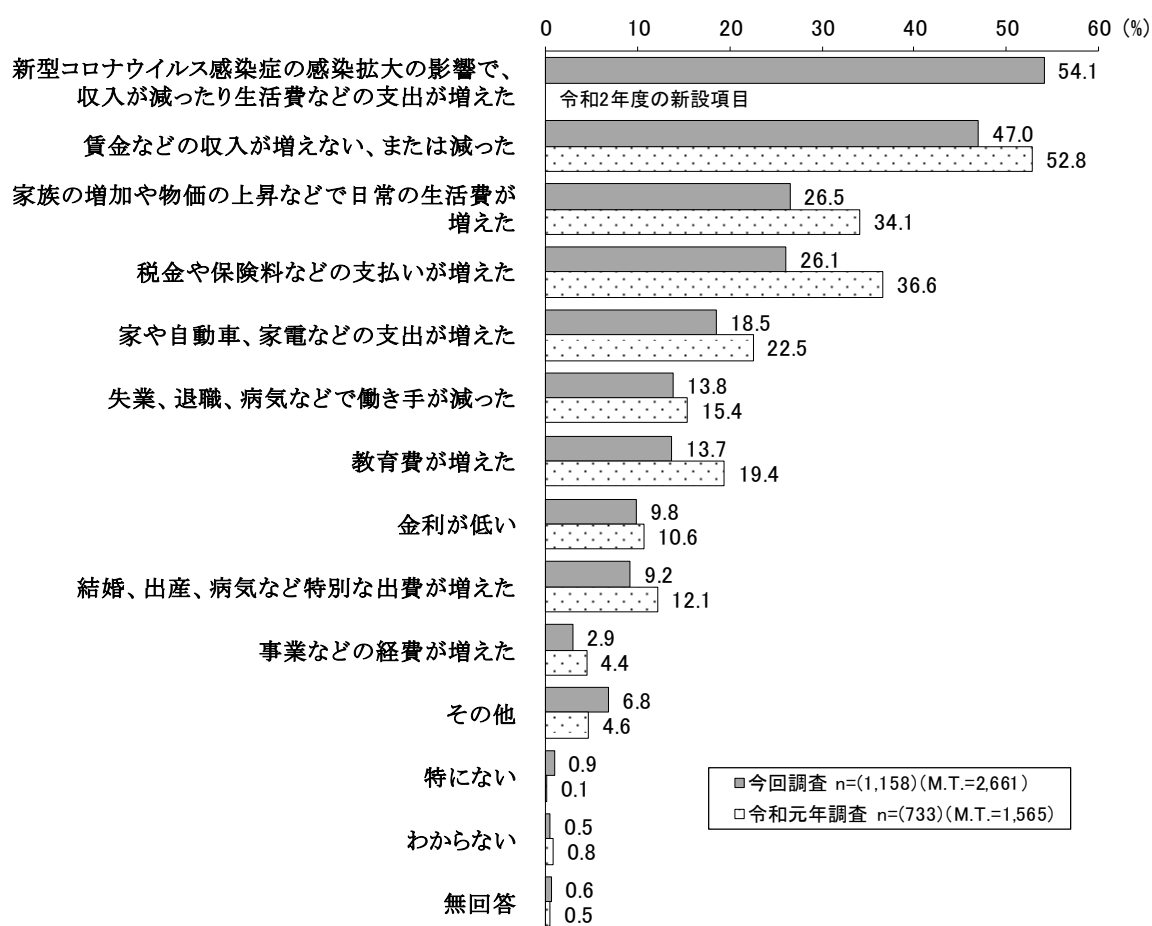
（１－１）暮らし向きが苦しくなった理由

◇「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、収入が減ったり生活費などの支出が増えた」が54.1%と最も高い

（問１で「３．少し苦しくなった」または「４．苦しくなった」とお答えの方に）

問１－１ その理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。

（○はいくつでも）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

暮らし向きが苦しくなった理由は、「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、収入が減ったり生活費などの支出が増えた」（54.1%）が5割台半ばと最も高く、次いで「賃金などの収入が増えない、または減った」（47.0%）が4割台半ばを超えて続き、以下「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」（26.5%）、「税金や保険料などの支払いが増えた」（26.1%）、「家や自動車、家電などの支出が増えた」（18.5%）などとなっている。

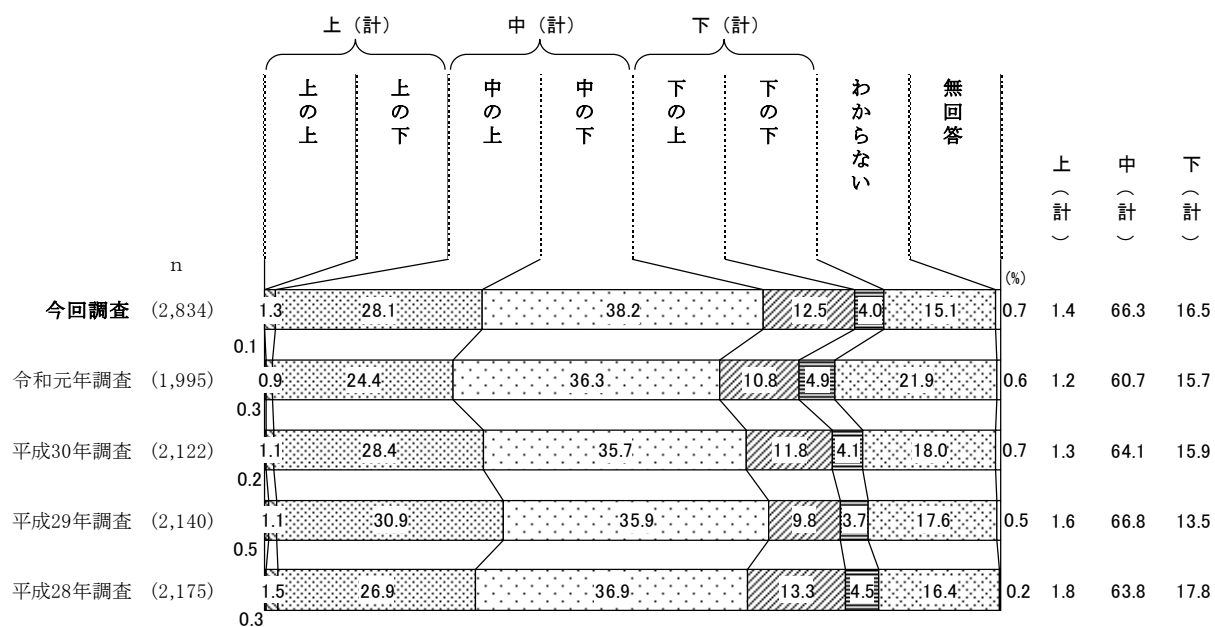
【過去調査との比較】

今回調査で「新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、収入が減ったり生活費などの支出が増えた」を新規に追加し、そこに5割台半ばの反応があったことも影響し、令和元年調査と比べて、「税金や保険料などの支払いが増えた」（10.5ポイント減）、「家族の増加や物価の上昇などで日常の生活費が増えた」（7.6ポイント減）、「教育費が増えた」（5.7ポイント減）など、ほとんどの項目で令和元年調査の比率を下回っている。

（２）生活程度

◇『中（計）』が66.3%。一方『下（計）』は16.5%

問２ お宅の現在の生活程度は、世間一般からみて、この中のどれに属すると思いますか。
(○は1つだけ)



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

世間一般からみた生活程度は、「中の下」(38.2%) が最も多く、次いで「中の上」(28.1%) となっている。両者を合わせた『中(計)』(66.3%) は6割台半ばを超えている。同様に「下の上」(12.5%) と「下の下」(4.0%) を合わせた『下(計)』(16.5%) は1割台半ばを超えて、「上の上」(0.1%) と「上の下」(1.3%) を合わせた『上(計)』は1.4%となっている。

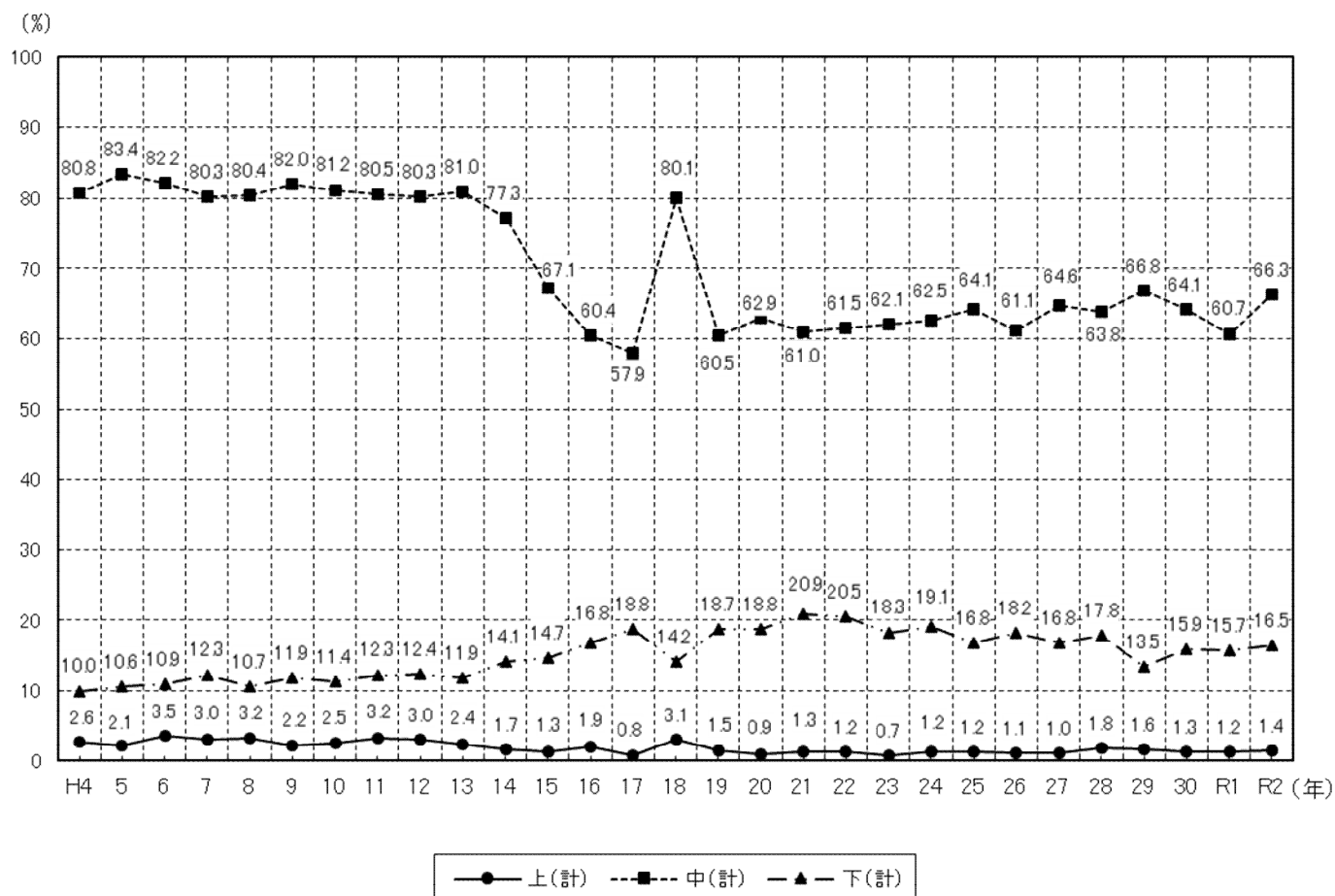
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『中(計)』が5.6ポイント増加している。

【経年比較】

平成19年以降、『中（計）』が6割台で推移している中、平成30年調査からは2年連続で減少していたが今回調査で増加に転じた。

○生活程度・平成4年以降の推移



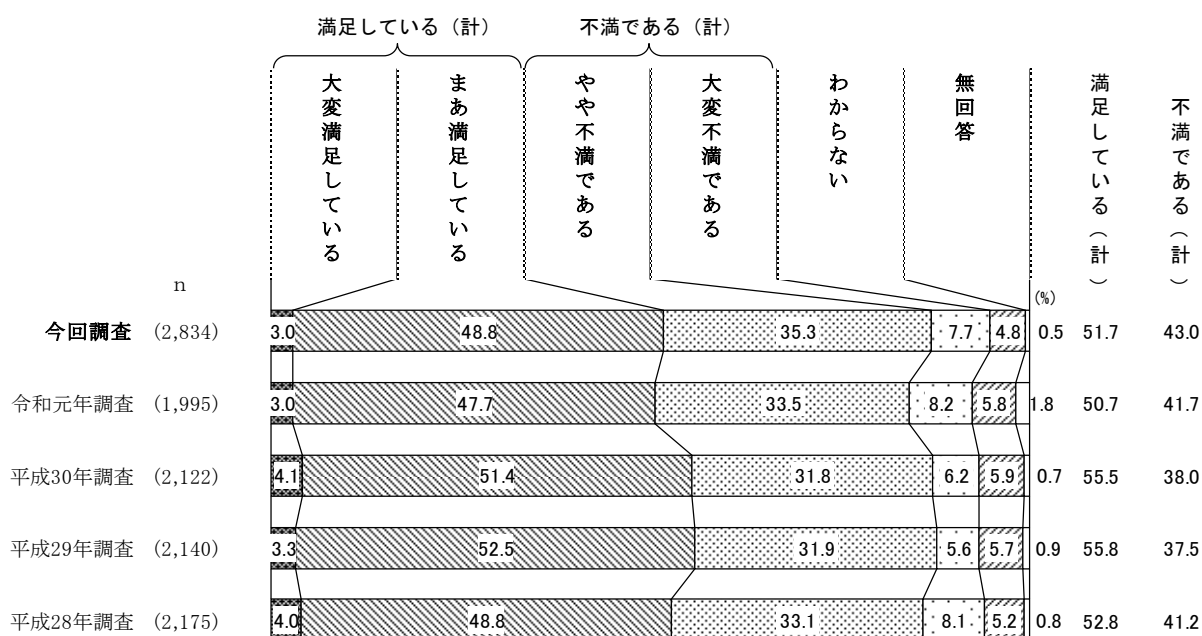
※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

(3) 生活全体の満足度

◇『満足している（計）』は51.7%、『不満である（計）』は43.0%

問3 あなたは、現在の生活について、全体としてどの程度満足していますか。

(○はひとつだけ)



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

生活全体に対する満足度は、「まあ満足している」が48.8%で最も多く、次いで、「やや不満である」が35.3%となっている。「大変満足している」(3.0%)と「まあ満足している」(48.8%)を合わせた『満足している(計)』(51.7%)は5割強、「大変不満である」(7.7%)と「やや不満である」(35.3%)を合わせた『不満である(計)』(43.0%)は4割強となっている。『満足している(計)』が『不満である(計)』を8.7ポイント上回っている。

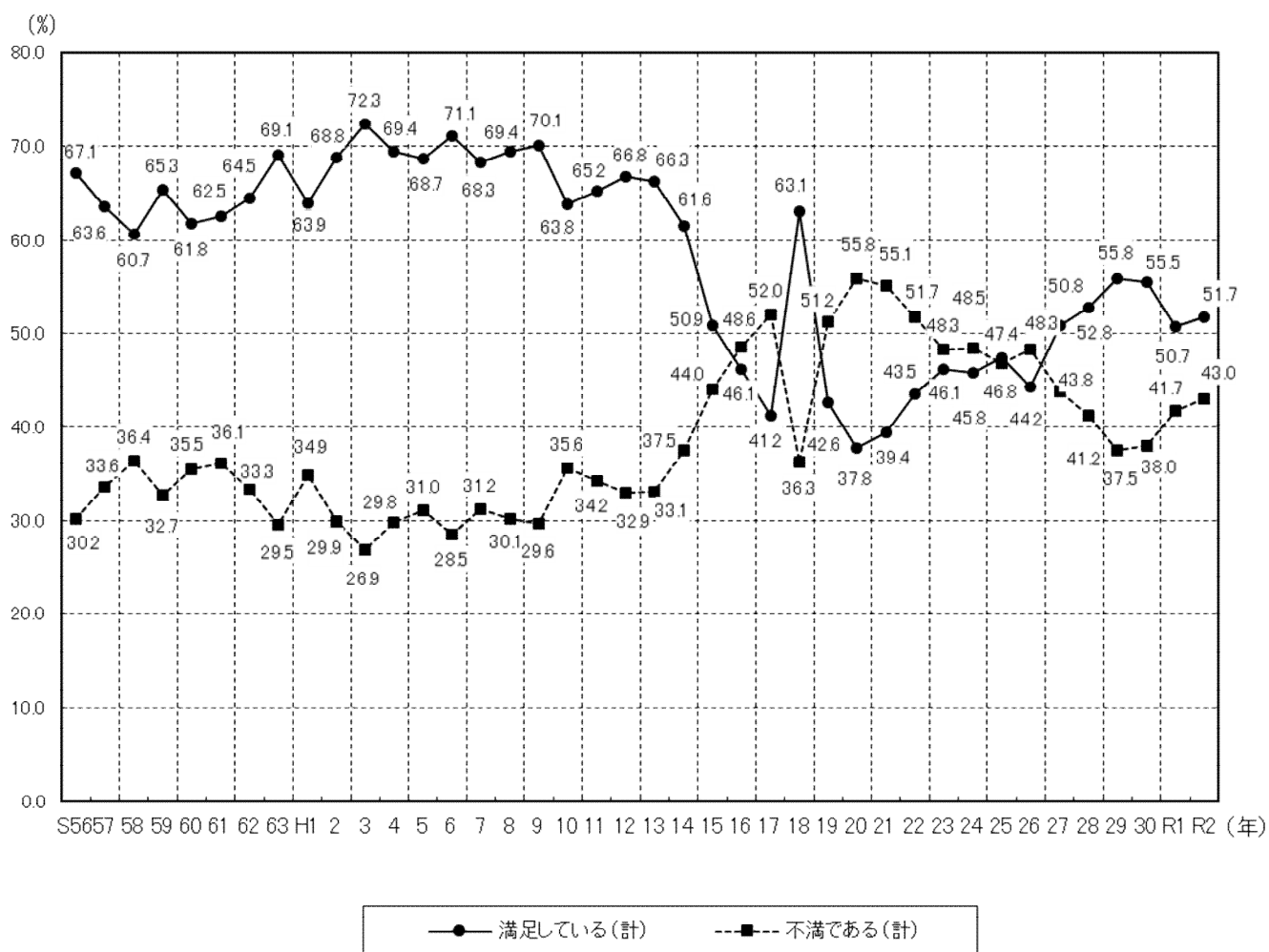
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『満足している(計)』は1.0ポイント増加し、『不満である(計)』も1.3ポイント増加している。

【経年比較】

昭和56年以降の推移をみると、平成19年以降『不満である（計）』の割合が『満足している（計）』をおおむね上回る傾向にあったが、『満足している（計）』の割合が平成27年調査（50.8%）で5割を超えて逆転した。今回調査でも、『満足している（計）』（51.7%）が『不満である（計）』（43.0%）を上回る傾向が6年連続となっているが、『不満である（計）』は平成30年以降3年連続で増加している。

○生活全体の満足度・昭和56年以降の推移



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

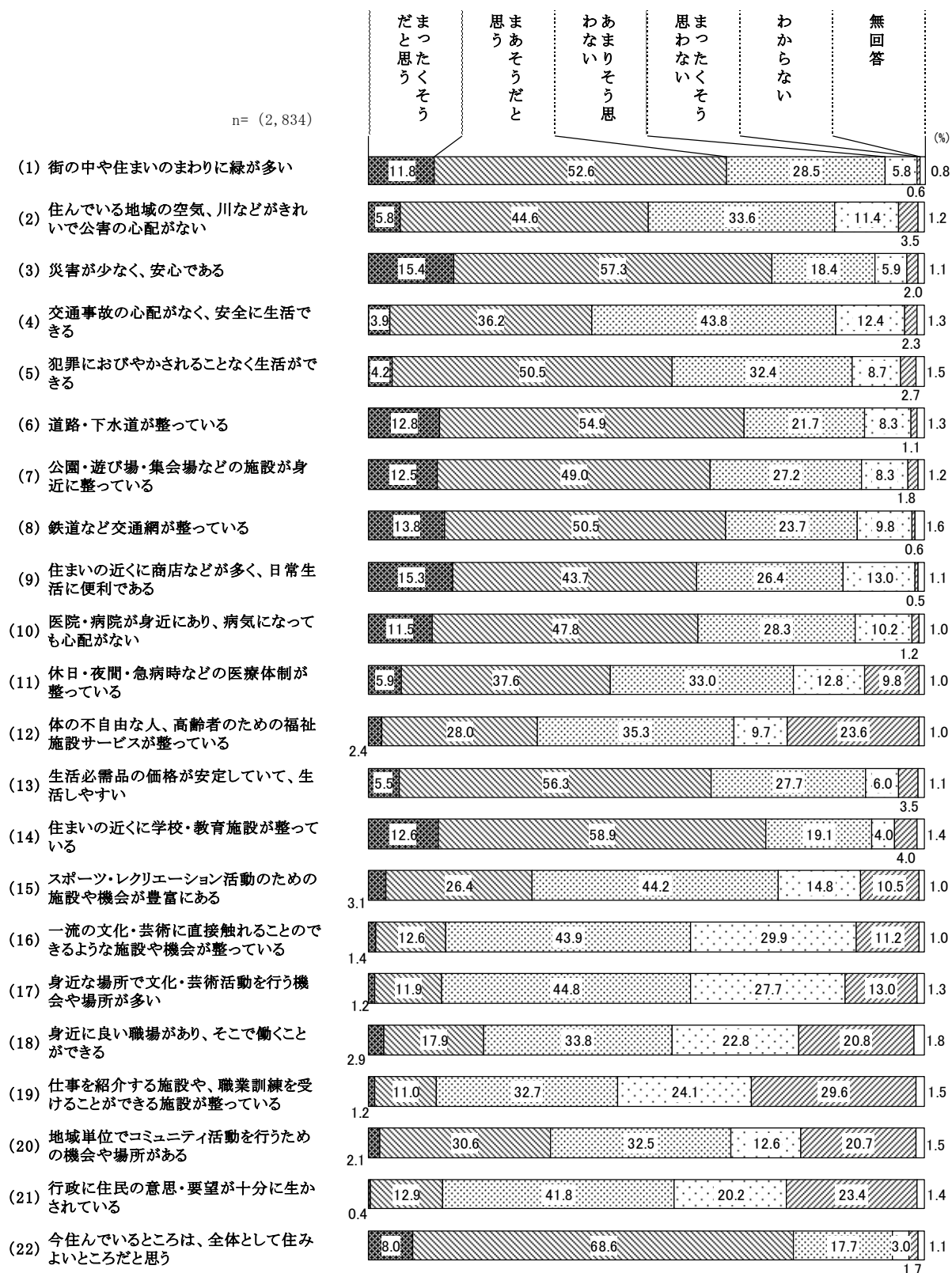
(4) 住みよさ

◇同意率が最も高いのは「災害が少なく、安心である」(72.7%)

問4 あなたは、日ごろの生活の中で今お住まいの地域について、どのように感じていますか。

(1) から (22) のそれぞれについて、そう思うものをお選びください。

(各項目それぞれ〇は1つつ)



日ごろの生活の中で、今住んでいる地域の評価を22の項目（個別評価項目21、全体評価項目1）に分けて質問した。分析に当たっては、『そうだと思う（計）』（「まったくそうだと思う」＋「まあそうだと思う」）と『そう思わない（計）』（「まったくそう思わない」＋「あまりそう思わない」）の分類と、平均点（「まったくそうだと思う」にプラス2、「まあそうだと思う」にプラス1、「あまりそう思わない」にマイナス1、「まったくそう思わない」にマイナス2、「わからない」に0の得点）の算出を行った。

【個別評価の21項目について】

①同意率・不同意率の比較

『そうだと思う（計）』（以下「同意率」という。）の高い項目

1位	災害が少なく、安心である	72.7%
2位	住まいの近くに学校・教育施設が整っている	71.5%
3位	道路・下水道が整っている	67.7%
4位	街の中や住まいのまわりに緑が多い	64.4%
	鉄道など交通網が整っている	64.4%

『そう思わない（計）』（以下「不同意率」という。）の高い項目

1位	一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	73.8%
2位	身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	72.6%
3位	行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	62.0%
4位	スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある	59.0%
5位	仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けることができる施設が整っている	56.8%

②平均点の比較

平均点は、プラス評価が10項目で、マイナス評価が10項目となっている。（残り1項目は「0.00」）

順位	プラス評価項目	平均点	順位	マイナス評価項目	平均点
1位	災害が少なく、安心である	0.59	12位	休日・夜間・急病時などの医療体制が整っている	-0.09
2位	住まいの近くに学校・教育施設が整っている	0.58	13位	体の不自由な人、高齢者のための福祉施設サービスが整っている	-0.22
3位	道路・下水道が整っている	0.43	14位	地域単位でコミュニティ活動を行うための機会や場所がある	-0.23
4位	街の中や住まいのまわりに緑が多い	0.36	15位	交通事故の心配がなく、安全に生活できる	-0.25
5位	鉄道など交通網が整っている	0.35	16位	スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある	-0.42
6位	公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている	0.31	17位	身近に良い職場があり、そこで働くことができる	-0.57
7位	生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい	0.28	18位	仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けることができる施設が整っている	-0.69
8位	住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利である	0.22		行政に住民の意思・要望が十分に生かされている	-0.69
	医院・病院が身近にあり、病気になっても心配がない	0.22	20位	身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い	-0.87
10位	犯罪におびやかされることなく生活ができる	0.09	21位	一流の文化・芸術に直接触れることのできるような施設や機会が整っている	-0.89
11位	住んでいる地域の空気、川などがきれいで公害の心配がない	0.00			

（注）平均点＝「まったくそうだと思う」にプラス2、「まあそうだと思う」にプラス1、「あまりそう思わない」にマイナス1、「まったくそう思わない」にマイナス2、「わからない」を0とした。

□全体評価項目について

「今住んでいるところは全体として住みよいところだと思う」は同意率76.6%、平均点0.62点で、同意率と平均点は個別評価項目のすべての項目を上回っている。

【全体評価項目】

- (22) 今住んでいるところは、全体として住みよいところだと思う

【個別評価21項目】

- (3) 災害が少なく、安心である

- (14) 住まいの近くに学校・教育施設が整っている

- (6) 道路・下水道が整っている

- (1) 街の中や住まいのまわりに緑が多い

- (8) 鉄道など交通網が整っている

- (13) 生活必需品の価格が安定していて、生活しやすい

- (7) 公園・遊び場・集会場などの施設が身近に整っている

- (10) 医院・病院が身近にあり、病気になっても心配がない

- (9) 住まいの近くに商店などが多く、日常生活に便利である

- (5) 犯罪におびやかされることなく生活ができる

- (2) 住んでいる地域の空気、川などがきれいで公害の心配がない

- (11) 休日・夜間・急病時などの医療体制が整っている

- (4) 交通事故の心配がなく、安全に生活できる

- (20) 地域単位でコミュニティ活動を行うための機会や場所がある

- (12) 体の不自由な人、高齢者のための福祉施設サービスが整っている

- (15) スポーツ・レクリエーション活動のための施設や機会が豊富にある

- (18) 身近に良い職場があり、そこで働くことができる

- (16) 一流の文化・芸術に直接触れることができるような施設や機会が整っている

- (21) 行政に住民の意思・要望が十分に生かされている

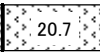
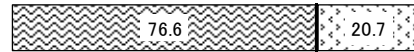
- (17) 身近な場所で文化・芸術活動を行う機会や場所が多い

- (19) 仕事を紹介する施設や、職業訓練を受けられる施設が整っている

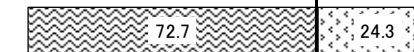
同意率 (%)

不同意率 (%)

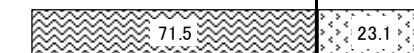
平均点



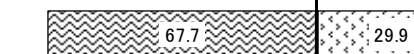
0.62



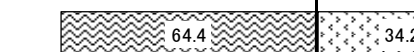
0.59



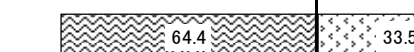
0.58



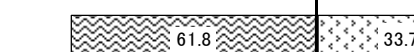
0.43



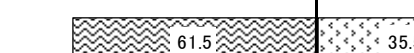
0.36



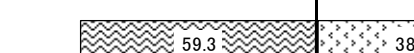
0.35



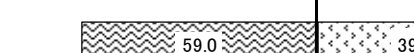
0.28



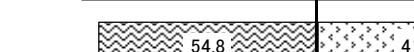
0.31



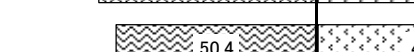
0.22



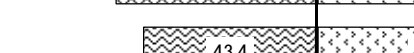
0.22



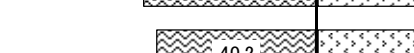
0.09



0.00



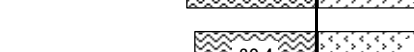
-0.09



-0.25



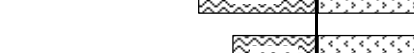
-0.23



-0.22



-0.42



-0.57



-0.89



-0.69



-0.87

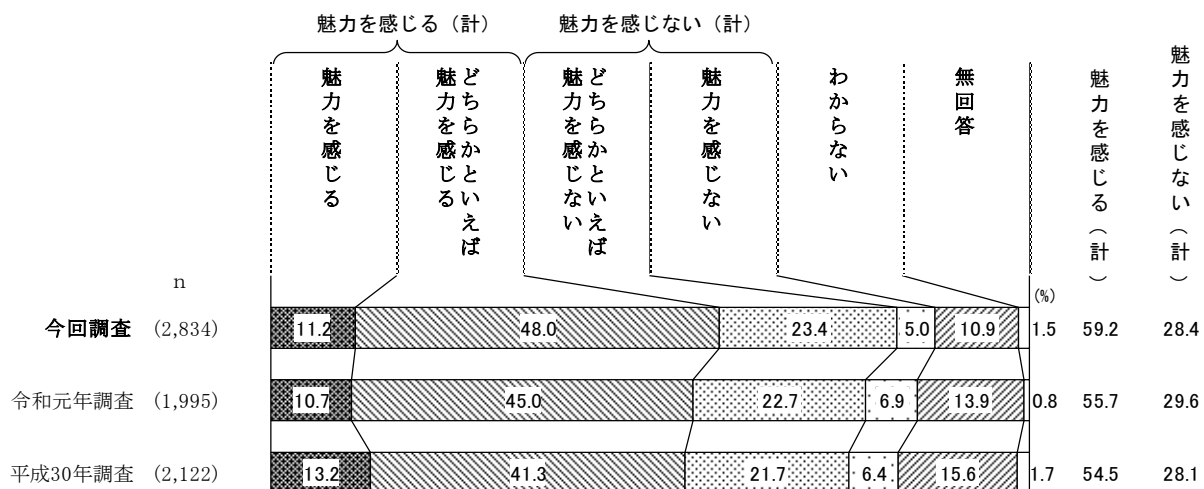


-0.69

（５）埼玉県に魅力を感じるか

◇『魅力を感じる（計）』は59.2%、『魅力を感じない（計）』は28.4%

問５ あなたは、埼玉県に魅力を感じますか。（○はひとつだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県に魅力を感じるかは、「どちらかといえば魅力を感じる」（48.0%）が5割弱で最も多く、次いで「どちらかといえば魅力を感じない」（23.4%）が2割強で多くなっている。

「魅力を感じる」（11.2%）と「どちらかといえば魅力を感じる」（48.0%）を合わせた『魅力を感じる（計）』（59.2%）は約6割で、「魅力を感じない」（5.0%）と「どちらかといえば魅力を感じない」（23.4%）を合わせた『魅力を感じない（計）』（28.4%）は3割弱となっており、『魅力を感じる（計）』が『魅力を感じない（計）』を30.8ポイント上回っている。

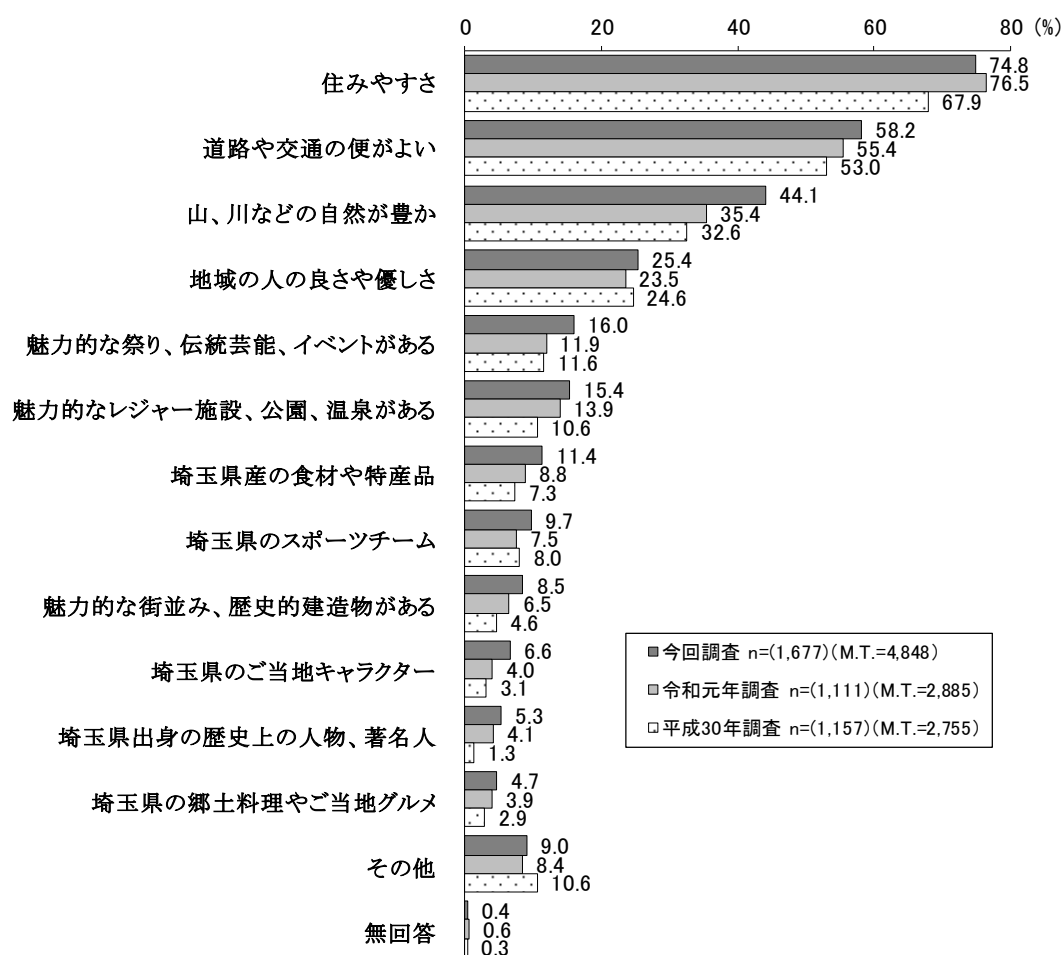
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『魅力を感じる（計）』が3.5ポイント増加、『魅力を感じない（計）』が1.2ポイント減少している。

（５－１）埼玉県で魅力を感じるもの

◇「住みやすさ」が74.8%でトップ、「道路や交通の便がよい」が58.2%で次点

（問5で「1. 魅力を感じる」または「2. どちらかといえば魅力を感じる」とお答えの方に）
 問5－１ あなたが埼玉県で魅力を感じるものは何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（〇はいくつでも）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県で魅力を感じるものは、「住みやすさ」（74.8%）が7割台半ばと最も高く、次いで「道路や交通の便がよい」（58.2%）が6割弱で続き、以下「山、川などの自然が豊か」（44.1%）、「地域の人の良さや優しさ」（25.4%）、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」（16.0%）、「魅力的なレジャー施設、公園、温泉がある」（15.4%）などとなっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、「山、川などの自然が豊か」（8.7ポイント増）、「魅力的な祭り、伝統芸能、イベントがある」（4.2ポイント増）、「道路や交通の便がよい」（2.8ポイント増）、「埼玉県産の食材や特産品」（2.6ポイント増）などが増加している。

2. 日常生活

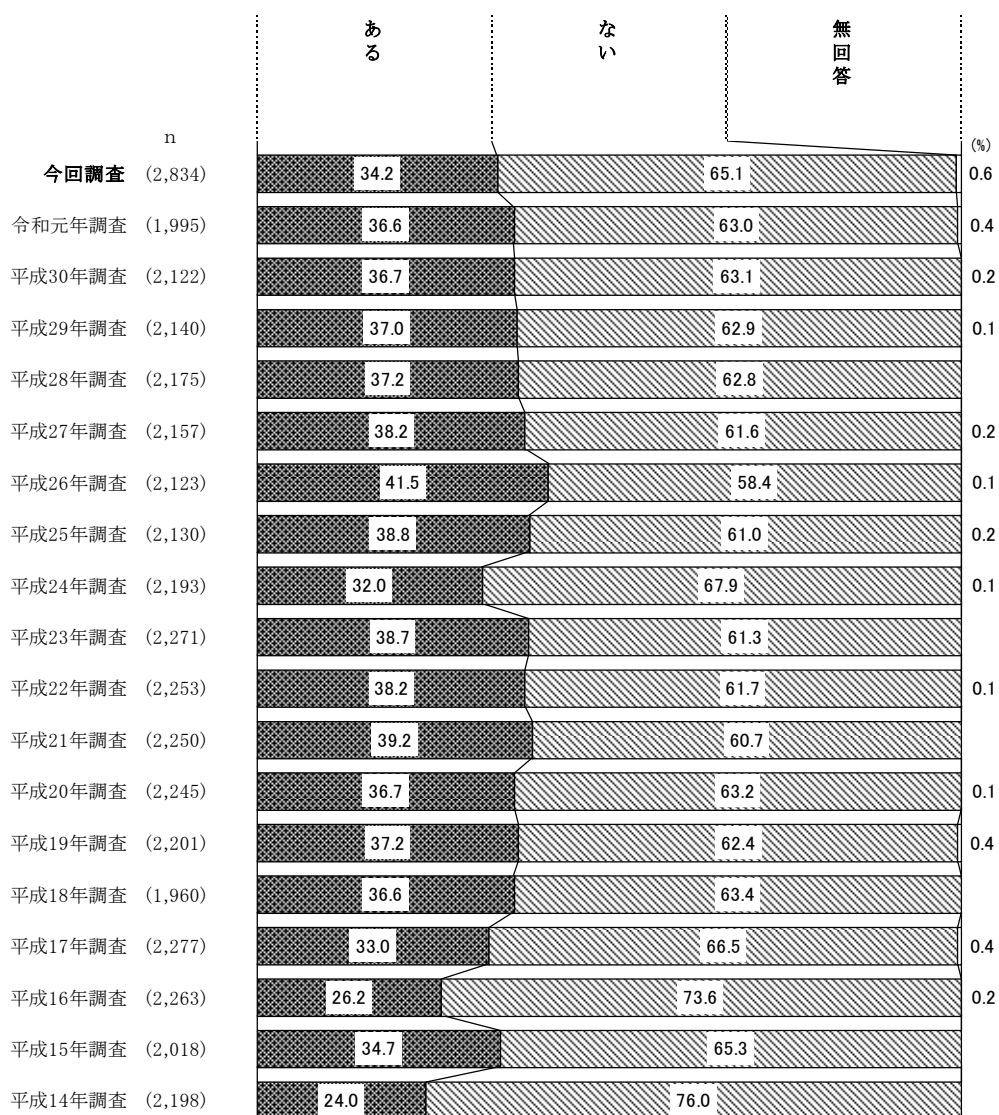
(1) 地域社会活動への参加経験

◇参加経験が「ある」34.2%、「ない」65.1%

問6 次に、あなたの日常生活に関連することについておたずねいたします。

(1) あなたは、過去1年間に、自治会活動（清掃活動や防犯パトロール、地域運動会への参加など）やPTA活動、子供会活動、学校応援団（読み聞かせボランティアなど）、障がい者や高齢者の方々のための活動、青少年健全育成のための活動、みどりと川の再生活動など、地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことがありますか。

（○はひとつだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

過去1年間に地域活動やNPO・ボランティア活動に参加したことが「ある」（34.2%）は3割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べると、「ある」は2.4ポイント減少し、「ない」は2.1ポイント増加している。

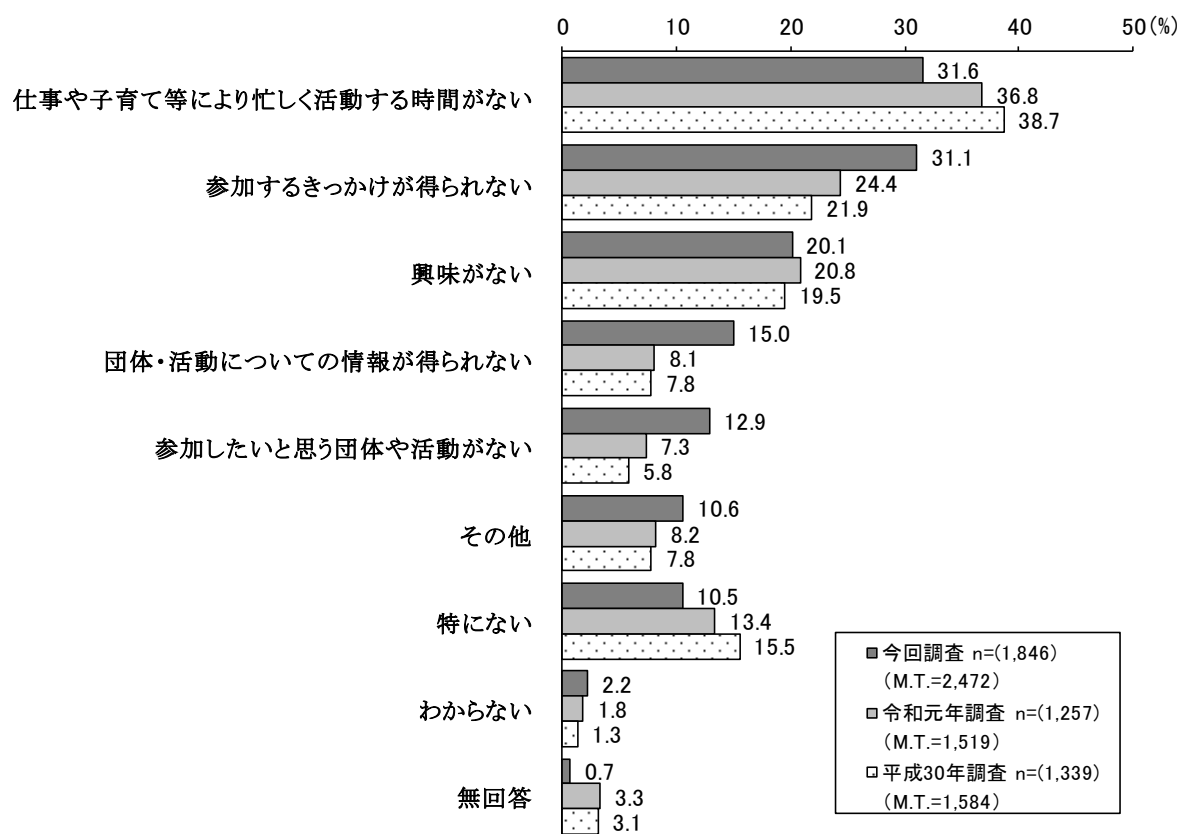
(1-1) 地域社会活動への不参加の理由

◇「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」と「参加するきっかけが得られない」の2項目が3割強で並んで上位

(問6(1)で「2. ない」と答えた方に)

問6(1)-1 その理由は何ですか。次の中から2つまで選んでください。

(○は2つまで)



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

地域活動やNPO・ボランティア活動への不参加の理由は、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」(31.6%)と「参加するきっかけが得られない」(31.1%)の2項目がともに3割強の僅差で並んで上位で、以下「興味がない」(20.1%)、「団体・活動についての情報が得られない」(15.0%)、「参加したいと思う団体や活動がない」(12.9%)となっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、「参加するきっかけが得られない」(6.7ポイント増)、「団体・活動についての情報が得られない」(6.9ポイント増)、「参加したいと思う団体や活動がない」(5.6ポイント増)などが増加し、「仕事や子育て等により忙しく活動する時間がない」が5.2ポイント減少している。

（２）文化芸術活動の経験

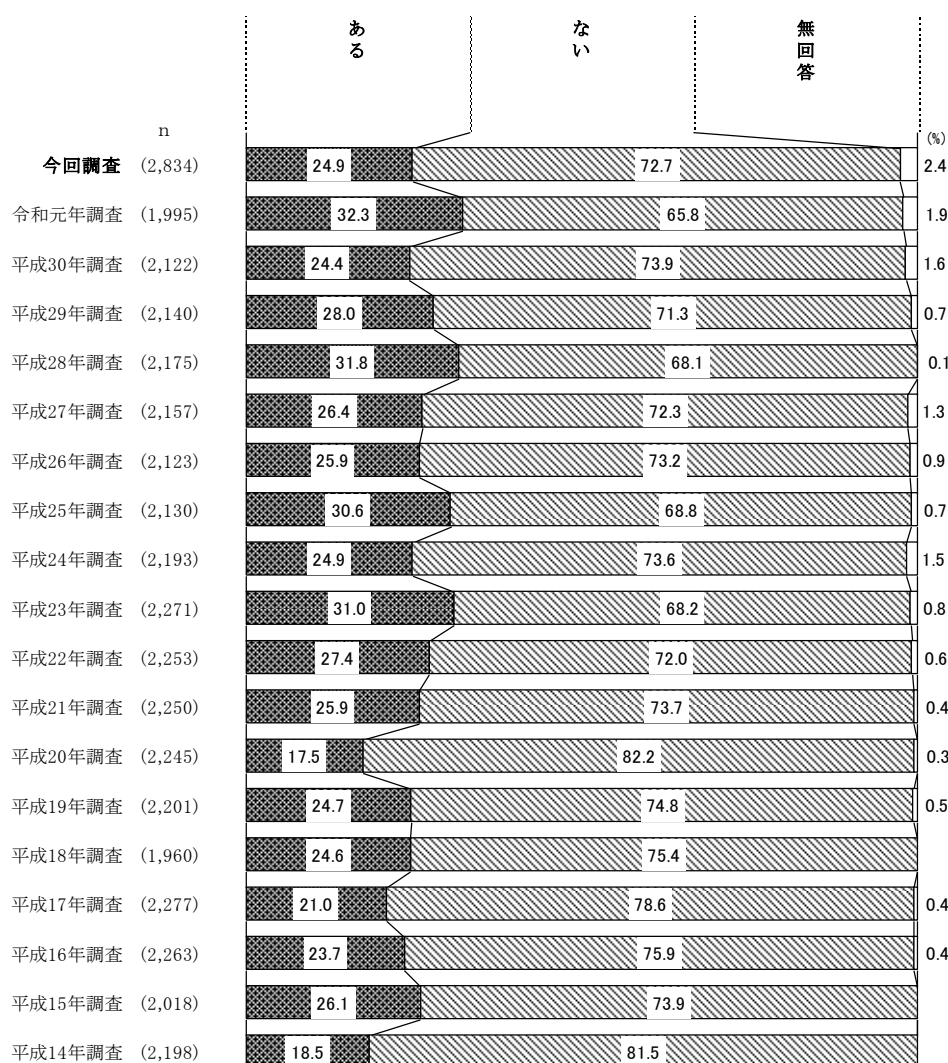
◇文化芸術活動の経験が「ある」24.9%、「ない」72.7%

問６（２）あなたは、この１年間に、文化芸術活動（※）を行ったことがありますか。

（趣味、クラブ・サークル活動、体験教室、習いごとなどで行う活動も含みます。）

※文化芸術活動とは、以下のような分野での活動（例示）です。（○は１つだけ）

- ・音楽（ポップス、ロック、ジャズ、演歌、クラシック、楽器演奏など）
- ・美術（絵画、彫刻、工芸、陶芸など）
- ・写真（風景、人物写真など）
- ・文芸（小説、詩、俳句、短歌など）
- ・生活文化（書道、茶道、華道、盆栽など）
- ・国民娯楽（囲碁、将棋など）
- ・舞踊（バレエ、ダンス、よさこいなど）
- ・伝統芸能（和太鼓、民謡、民舞、日本舞踊、獅子舞、歌舞伎、地域のお祭りなど）
- ・演劇（現代劇、ミュージカルなど）
- ・演芸（落語、漫談、漫才など）
- ・伝統工芸、文化財の継承・保存
- ・映画・漫画・アニメ・CGなどのメディア芸術



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この１年間に文化芸術活動を行ったことが「ある」（24.9％）は２割台半ばとなっている。

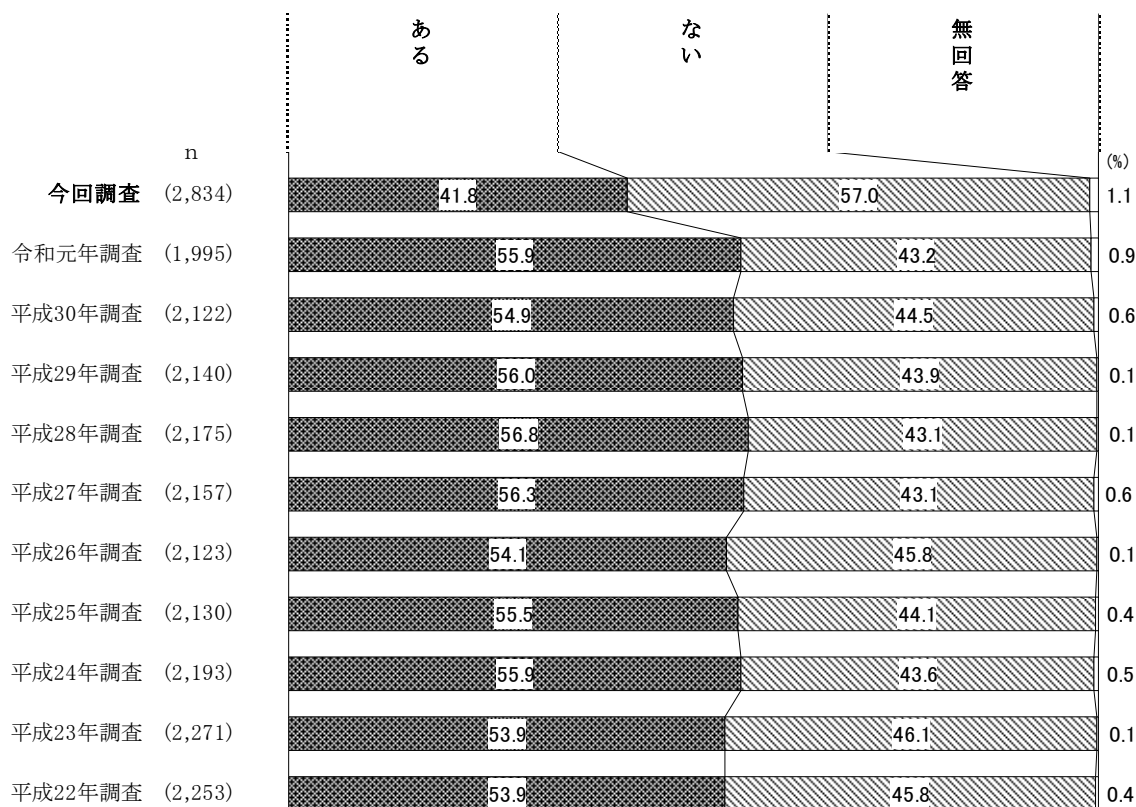
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、「ある」は7.4ポイント減少して、2年前の平成30年調査（24.4％）と同レベルとなっている。

（３）文化芸術活動の鑑賞

◇文化芸術活動の鑑賞は「ある」41.8%、「ない」57.0%

問６（３） あなたは、この１年間に、文化芸術活動（※）を鑑賞したことがありますか。
（○は１つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

この１年間で、文化芸術活動を鑑賞したことが「ある」(41.8%)は4割強となっており、「ない」(57.0%)を15.2ポイント下回っている。

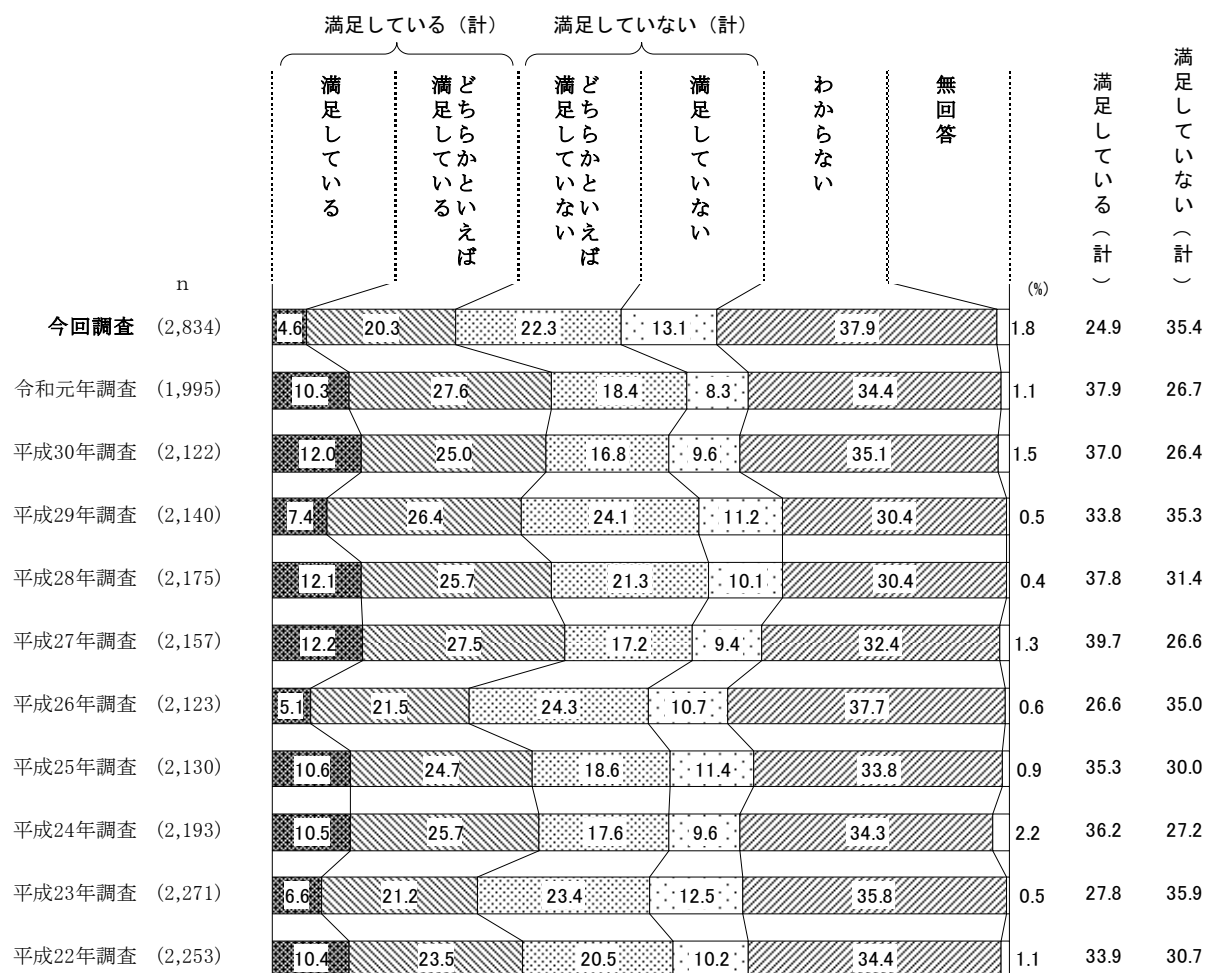
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べると、「ある」は14.1ポイントも減少しており、新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるイベントの中止や外出自粛の影響を強く受けたと思われる結果となっている。

（４）文化芸術活動の機会や環境の満足度

◇『満足している（計）』は24.9%。一方『満足していない（計）』は35.4%

問６（４） あなたは、日常生活の中で文化芸術活動（※）を鑑賞したり、文化芸術活動を行ったりする機会や環境について、満足していますか。（○は１つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

日常生活の中での文化芸術活動の機会や環境の満足度は、「どちらかといえば満足していない」（22.3%）が2割強で最も多くなっており、これに「満足していない」（13.1%）を合わせた『満足していない（計）』（35.4%）が3割台半ばを占めており、一方の「満足している」（4.6%）と「どちらかといえば満足している」（20.3%）を合わせた『満足している（計）』（24.9%）を10.5ポイント上回っている。また、「わからない」（37.9%）も3割台半ばを超えて多くなっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『満足している（計）』が13.0ポイントも減少し、逆に『満足していない（計）』が8.7ポイント増加して、今年度は3年ぶりに『満足していない（計）』が『満足している（計）』を上回る回答比率となっている。

(5) スポーツ・レクリエーション活動の実施とその頻度

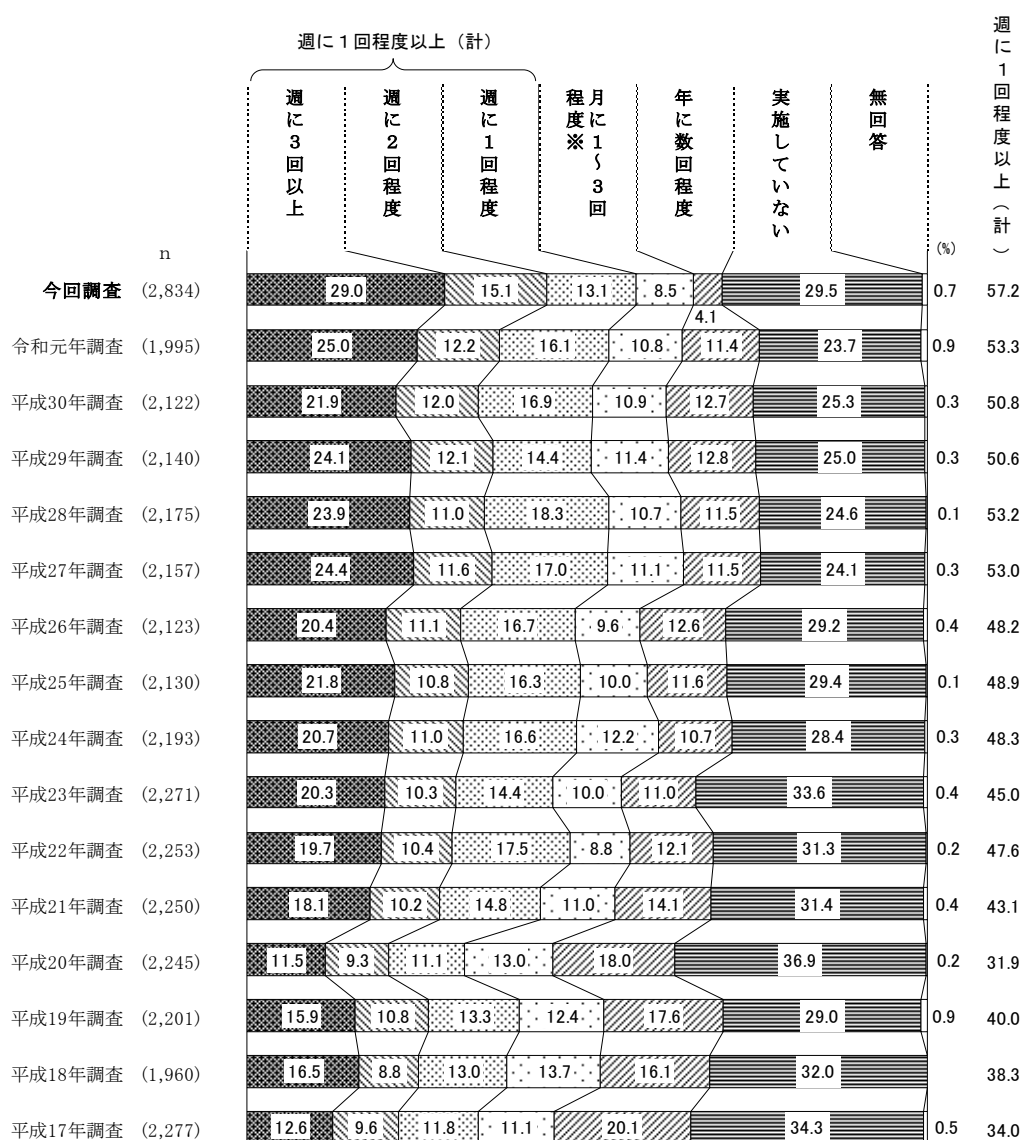
◇『週に1回以上』は全体の57.2%

問7 埼玉県では、週に1回以上スポーツをすることを推奨しています。あなたは、過去1年間に、散歩やウォーキング、軽い体操や日常生活の中で意識的に体を動かすことなどをはじめ、スポーツ・レクリエーション活動(※)をしましたか。(○は1つだけ)

問7-1 (問7で「1した」場合に)それはどのくらいの頻度でしたか。(○は1つだけ)

※ スポーツ・レクリエーション活動には、以下のような活動も含めます。

散歩・ウォーキング(ぶらぶら歩き、一駅歩きを含む)、子供との体を使った遊び、通勤や家事などの日常生活の中で意識的に体を動かすこと、階段昇降、ジョギング・ランニング、水泳、体操(軽い体操・ラジオ体操を含む)、ヨガ・バレエ、登山(トレッキングを含む)、ハイキング、ボウリング、ゴルフ、トレーニング(筋力・その他運動器具を使った運動)、釣り、自転車・サイクリング、ゲートボール、ダンス(フォークダンス、民謡踊りを含む)など



※選択肢「月に1〜3回程度」は、平成22年から平成26年調査までは「月に1〜2回程度」としていた。

平成24年調査までの選択肢「ない」は、「ない」と「わからない」の合計である。

令和2年調査の「実施していない」は問7の「していない」を問7-1に組み込んだものである。

※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

過去1年間のスポーツ・レクリエーション活動をする頻度を、「していない」(29.5%)と回答した人を含めた全数ベース(n=2,834)でみると、「していない」(29.5%)が約3割で最も多いものの、「実施した」人の中では「週に3回以上」(29.0%)が約3割で最も多く、次いで、「週に2回程度」(15.1%)、「週に1回程度」(13.1%)の順となっている。また、『週に1回以上(計)』(「週に3回以上」(29.0%)、「週に2回程度」(15.1%)、「週に1回程度」(13.1%)の合計57.2%)は5割台半ばを超えている。

【過去調査との比較】

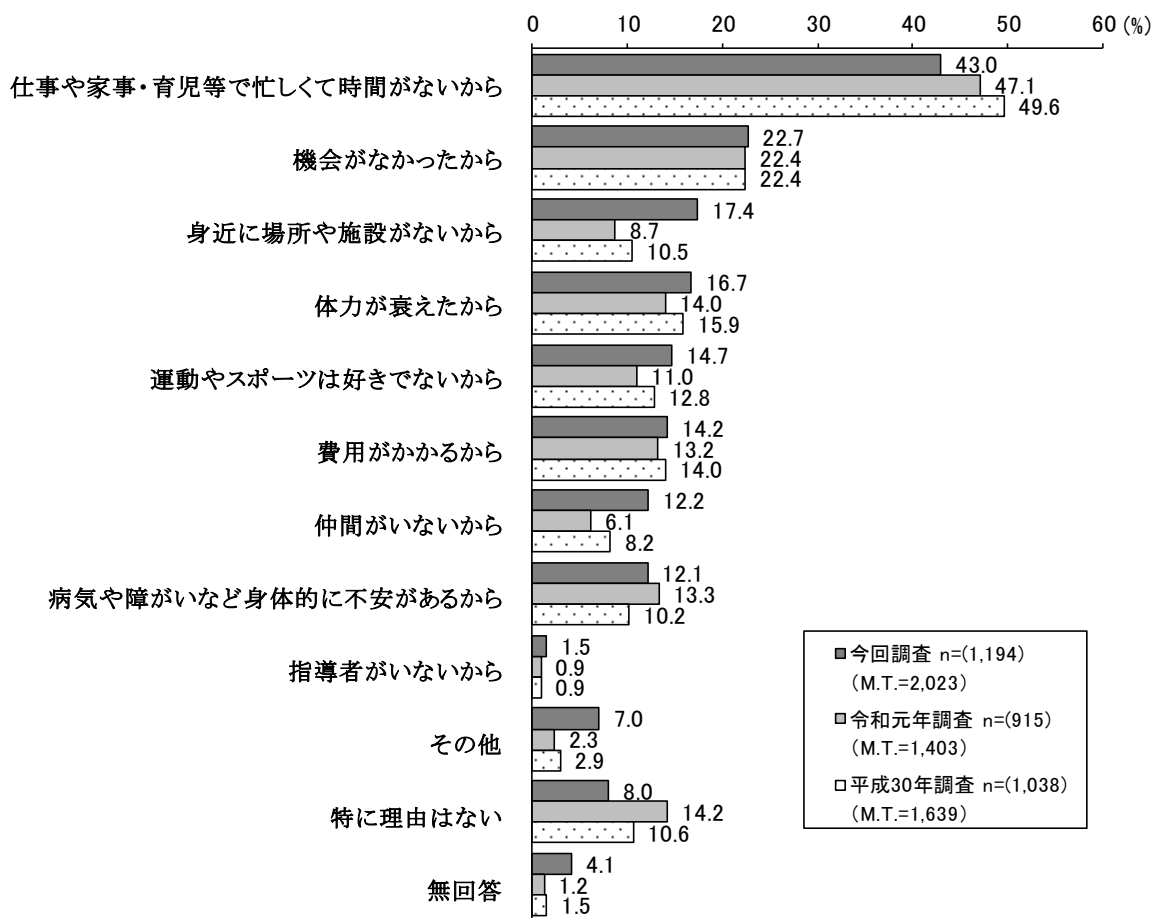
令和元年調査と比べると、『週に1回以上(計)』は3.9ポイント増加しており、その内訳である「週に3回以上」(4.0ポイント増)や「週に2回以上」(2.9ポイント増)も増加している。一方で、「実施していない」も5.8ポイント増加しており、「年に数回程度」(7.3ポイント減)や「月に1～3回程度」(2.3ポイント減)などが減少している。

（５－２）スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由

◇「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」が43.0%

（問７で「２．していない」、及び、問７－１で「４．月に１～３回程度」、「５．年に数回程度」と答えた方に）

問７－２ 週に１回以上活動する機会がなかった理由は何ですか。次の中からあてはまるものをすべて選んでください。（○はいくつでも）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

週に１回以上スポーツ・レクリエーション活動をする機会がなかった理由をみると、「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」(43.0%)が４割強で最も高く、次いで「機会がなかったから」(22.7%)が２割強で続き、以下「身近に場所や施設がないから」(17.4%)、「体力が衰えたから」(16.7%)、「運動やスポーツは好きではないから」(14.7%)、「費用がかかるから」(14.2%) などとなっている。

【過去調査との比較】

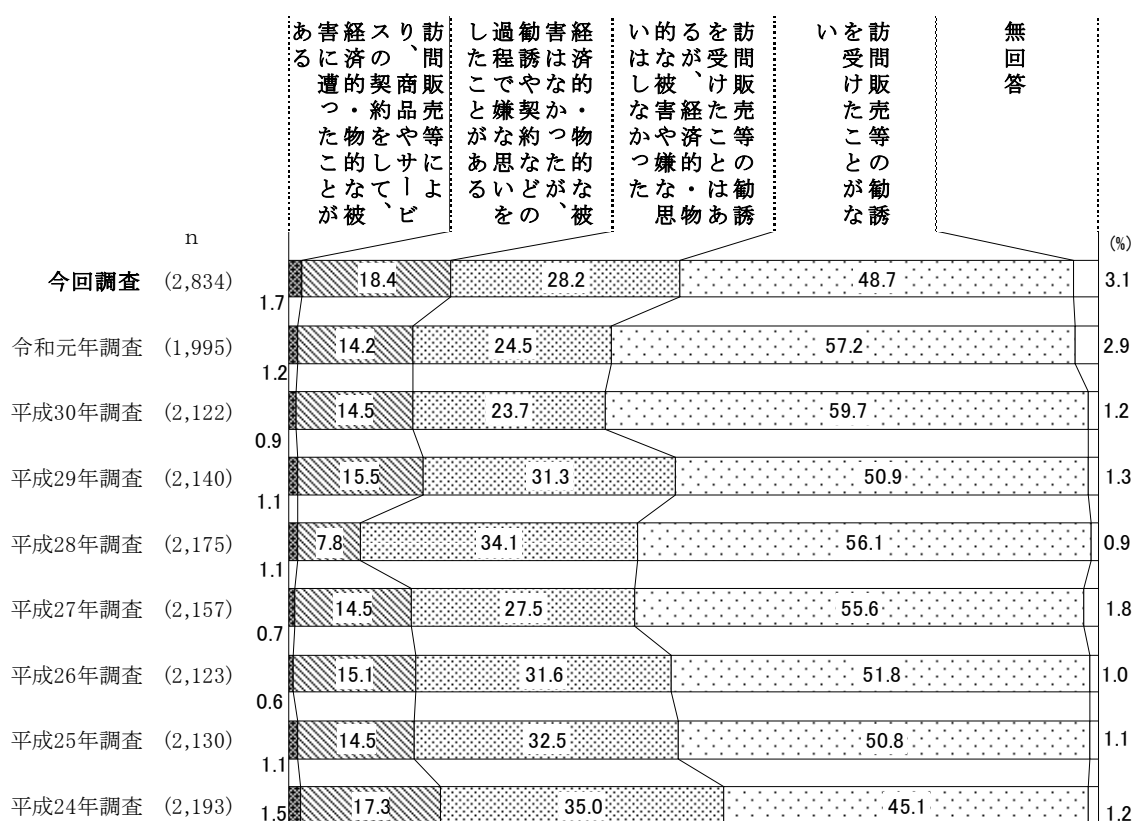
令和元年調査と比べて、トップの「仕事や家事・育児等で忙しくて時間がないから」は4.1ポイント減少しているが、第３位の「身近に場所や施設がないから」は8.7ポイント増と、前年から倍増している。

（６－１）訪問販売、電話勧誘販売、通信販売による経済的・物的な被害

◇「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」が48.7%

問８ 消費生活についておたずねいたします。

（１） あなたは、ここ１年以内に、訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによって、経済的・物的な被害に遭った、または嫌な思いをしたことがありますか。（○は１つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

訪問販売、電話勧誘販売、通信販売などによる経済的・物的な被害は、「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」（48.7％）が５割弱で最も多くなっている。訪問販売等を受けたことがある中では、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」（28.2％）が３割弱で最も高くなっている。また、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」（18.4％）は２割弱となっており、「訪問販売等により、商品やサービスの契約をして、経済的・物的な被害に遭ったことがある」（1.7％）は極めて低くなっている。

【過去調査との比較】

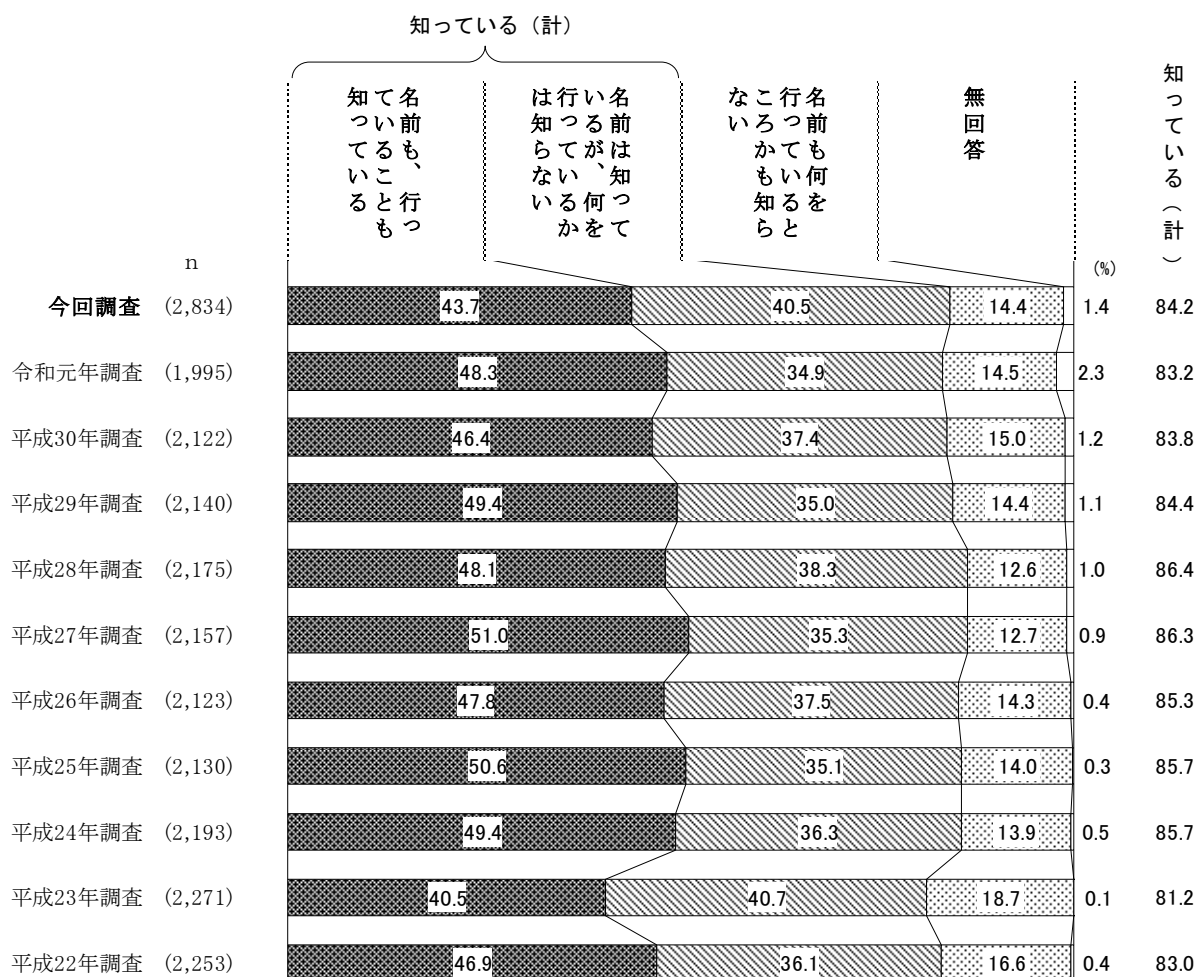
「訪問販売等の勧誘を受けたことがない」は令和元年調査と比べて、8.5ポイント減少しており、２年続けて減少傾向にある。一方で、「経済的・物的な被害はなかったが、勧誘や契約などの過程で嫌な思いをしたことがある」は4.2ポイント増加しており、「訪問販売等の勧誘を受けたことはあるが、経済的・物的な被害や嫌な思いはしなかった」も3.7ポイント増加している。

（６－２）消費生活センターの認知度

◇『知っている（計）』が84.2%

問８ 消費生活についておたずねいたします。

（２） あなたは契約トラブルの相談・助言や商品テストを行っている消費生活センター（または、消費生活相談窓口）を知っていますか。（○は１つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

消費生活センター（または消費生活相談窓口）の認知度は、「名前も、行っていることも知っている」（43.7%）が4割強で最も多く、これに次いで多い「名前は知っているが、何を行っているかは知らない」（40.5%）を合わせた『知っている（計）』（84.2%）は8割台半ばを占めている。一方で、「名前も何を行っているところかも知らない」（14.4%）は1割台半ばとなっている。

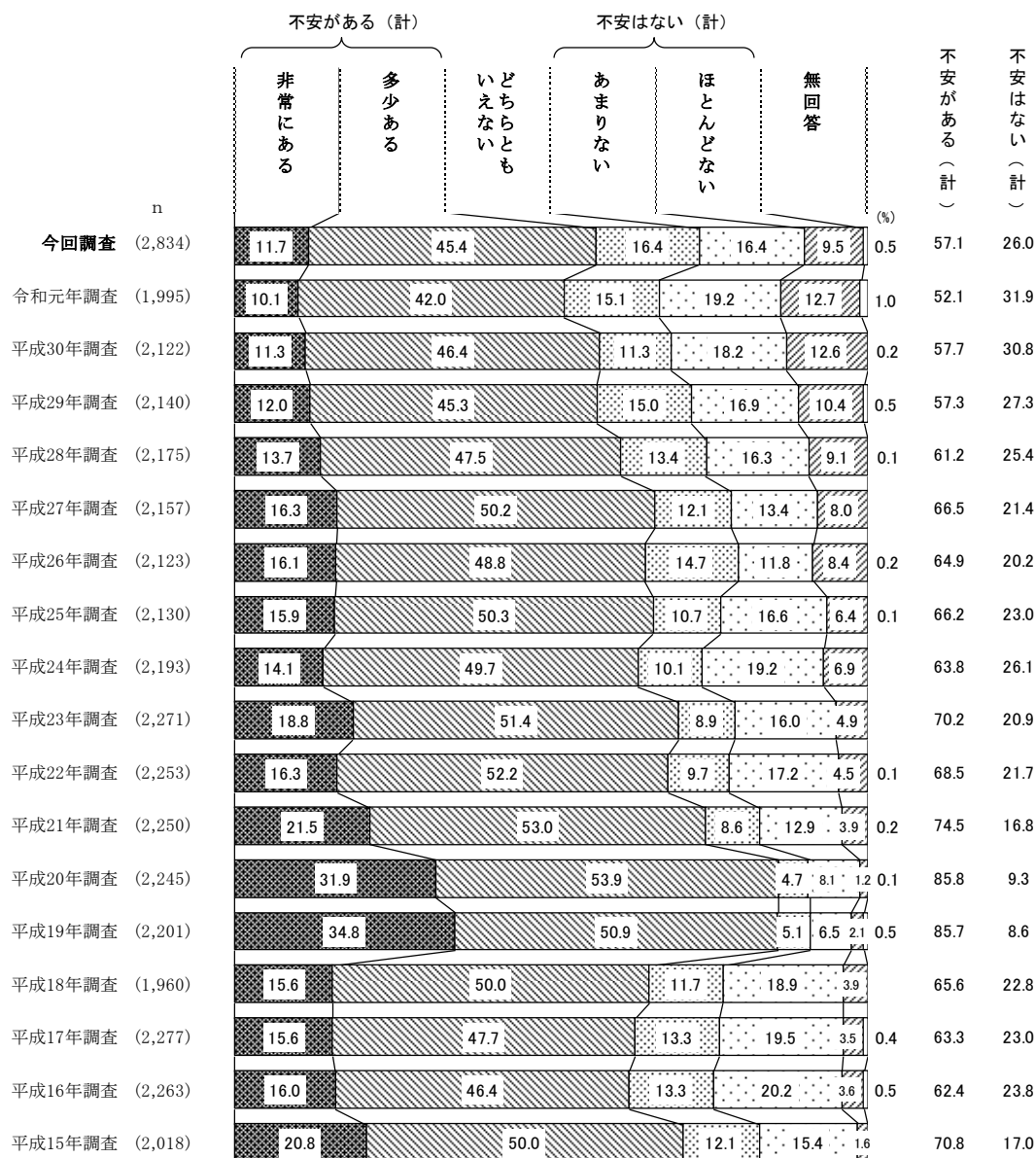
【過去調査との比較】

「名前も、行っていることも知っている」は令和元年調査から4.6ポイント減少したが、『知っている（計）』は1.0ポイント増加した。

（７）食品の安全性に対する意識

◇『不安がある（計）』が57.1%

問９ 食品の安全性についておたずねいたします。
あなたは、食品の安全性に不安がありますか。（○は１つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

食品の安全性に関して、不安が「多少ある」（45.4%）が4割台半ばと最も多く、これに「非常にある」（11.7%）を合わせた『不安がある（計）』（57.1%）は5割台半ばを超えている。一方で、不安が「ほとんどない」（9.5%）と「あまりない」（16.4%）を合わせた『不安はない（計）』（26.0%）は2割台半ばを超えている。

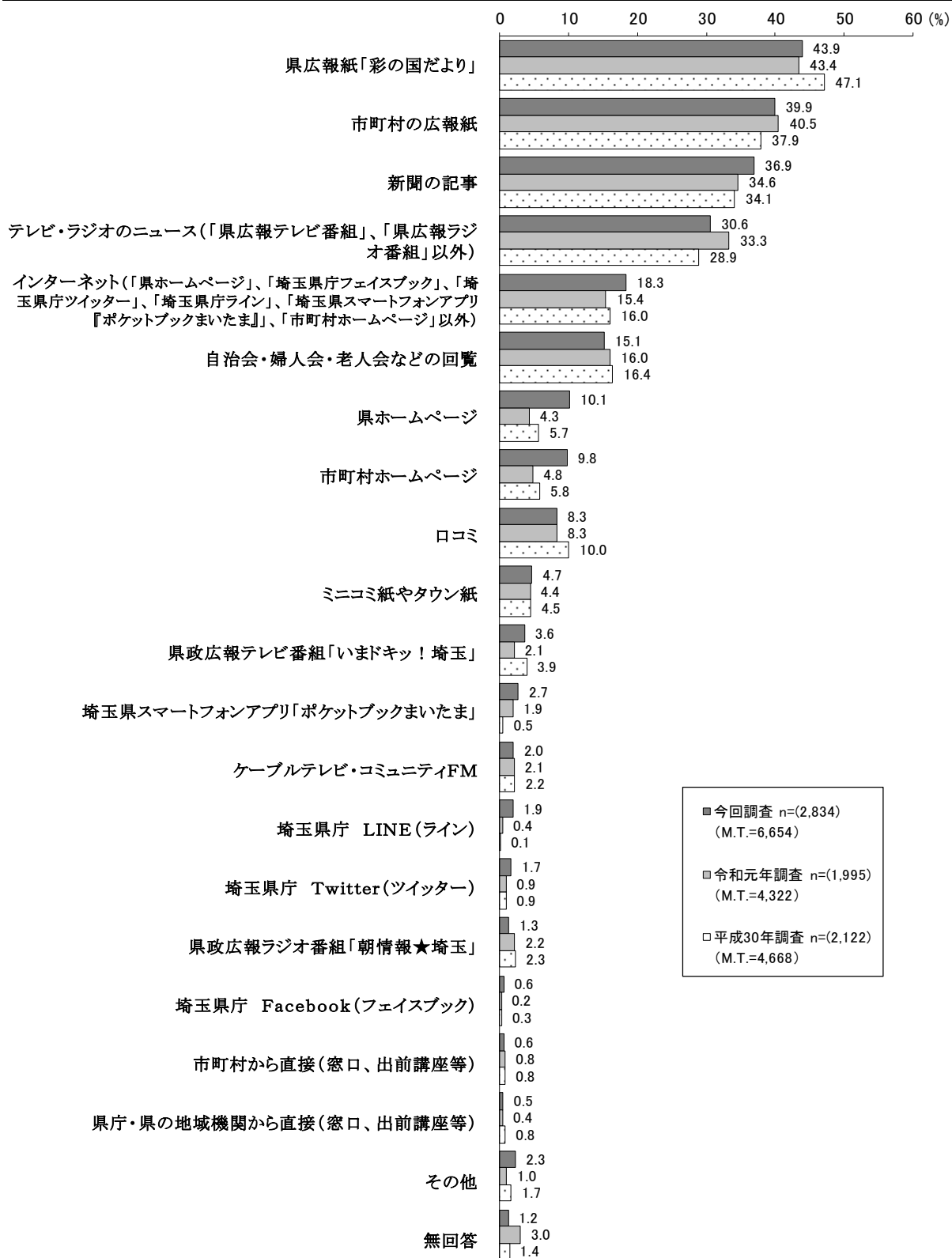
【過去調査との比較】

『不安がある（計）』の割合は、令和元年調査と比べて5.0ポイント増加している。

(8) 埼玉県に関する情報の入手先

◇「県広報紙「彩の国だより」」が43.9%

問10 あなたは、埼玉県に関する情報を主にどこから入手していますか。次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)



※ 今回調査から番組変更に伴い、「県広報ラジオ番組『FM NACK5 モーニングスクエア』」を「県政広報ラジオ番組『朝情報★埼玉』」へ変更した

※ 調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

埼玉県に関する情報の入手先は、「県広報紙「彩の国だより」」（43.9%）が4割強と最も高く、次いで、「市町村の広報紙」（39.9%）が約4割、「新聞の記事」（36.9%）が3割台半ばを超えて上位となっている。以下、「テレビ・ラジオのニュース」（30.6%）、「インターネット」（18.3%）、「自治会・婦人会・老人会などの回覧」（15.1%）、「県ホームページ」（10.1%）などが続いている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、「県ホームページ」が5.8ポイント、「市町村ホームページ」が5.0ポイント、「インターネット」が2.9ポイント増加している。一方で「テレビ・ラジオのニュース」は2.7ポイント減少している。

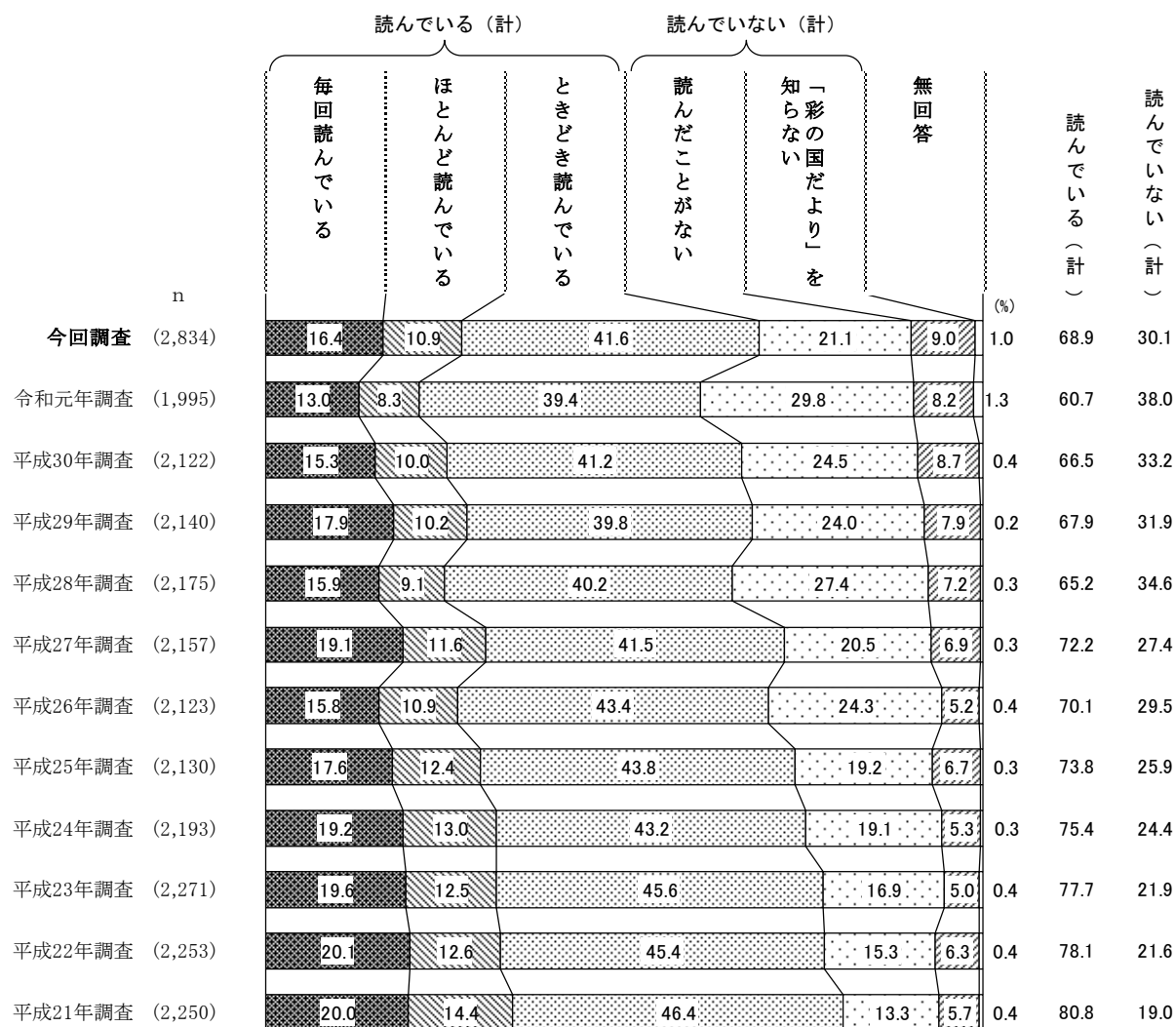
（９－１）県広報紙「彩の国だより」の閲読状況

◇『読んでいる（計）』が68.9%

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

（１） あなたは、県広報紙「彩の国だより」を読んだことがありますか。

（○は1つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県広報紙「彩の国だより」の閲読状況は、「ときどき読んでいる」（41.6％）が4割強と最も多く、これに「毎回読んでいる」（16.4％）と「ほとんど読んでいる」（10.9％）を合わせた『読んでいる（計）』（68.9％）は7割弱となっている。一方で、「読んだことがない」（21.1％）と「「彩の国だより」を知らない」（9.0％）を合わせた『読んでいない（計）』（30.1％）は3割を超えている。

【過去調査との比較】

『読んでいる（計）』は、令和元年調査より8.2ポイント増加して、3年続いた減少傾向に歯止めがかかったかたちとなっている。

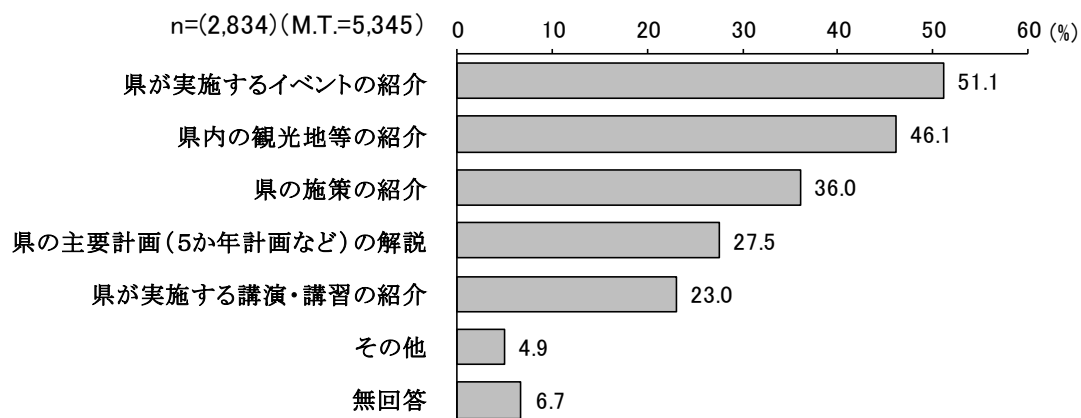
(9-2) 県広報紙「彩の国だより」へ期待する記事

◇「県が実施するイベントの紹介」が51.1%と最も高い

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

(2) あなたは、「彩の国だより」にどのような記事を期待しますか。

(○はいくつでも)



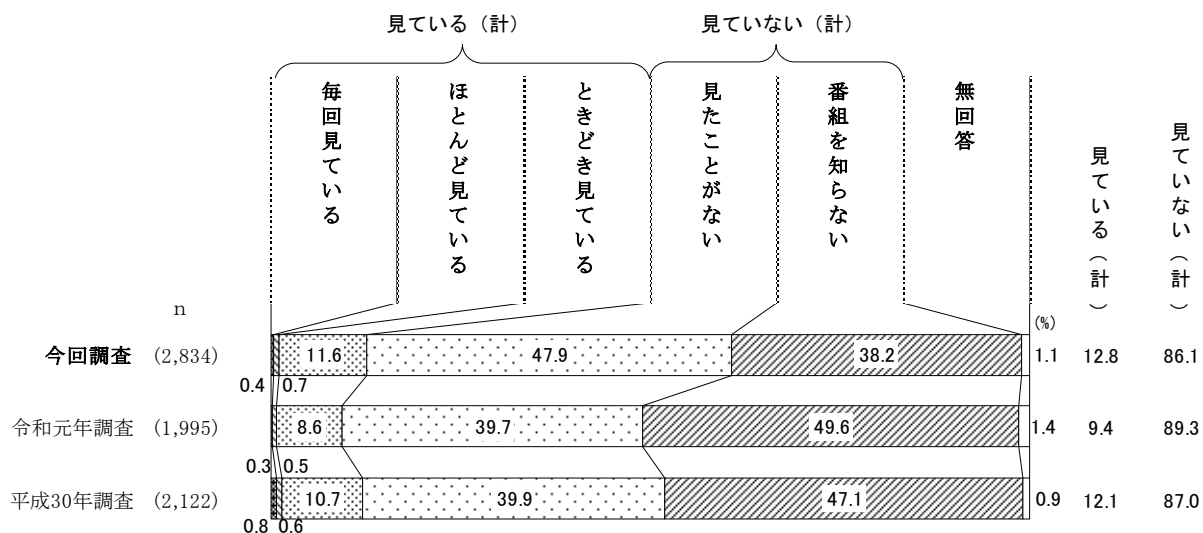
県広報紙「彩の国だより」に期待する記事は、「県が実施するイベントの紹介」(51.1%)が5割強で最も高く、次いで「県内の観光地等の紹介」(46.1%)が4割台半ばを超えて続き、以下「県の施策の紹介」(36.0%)、「県の主要計画(5か年計画など)の解説」(27.5%)、「県が実施する講演・講習の紹介」(23.0%)の順となっている。

（９－３）県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」の視聴状況

◇『見ている（計）』は12.8%、『見ていない（計）』は86.1%

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

（３） あなたは、県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉（テレビ埼玉/土曜朝8:30～9:00）」を見たことがありますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政広報テレビ番組「いまドキッ！埼玉」の視聴状況は、「見たことがない」（47.9%）が4割台半ばを超えて最も多く、これに「番組を知らない」（38.2%）が4割弱で続いて多く、この両者を合わせた『見ていない（計）』（86.1%）は8割台半ばを超えている。一方で、「毎回見ている」（0.4%）と「ほとんど見ている」（0.7%）、「ときどき見ている」（11.6%）を合わせた『見ている（計）』（12.8%）は1割強となっている。

【過去調査との比較】

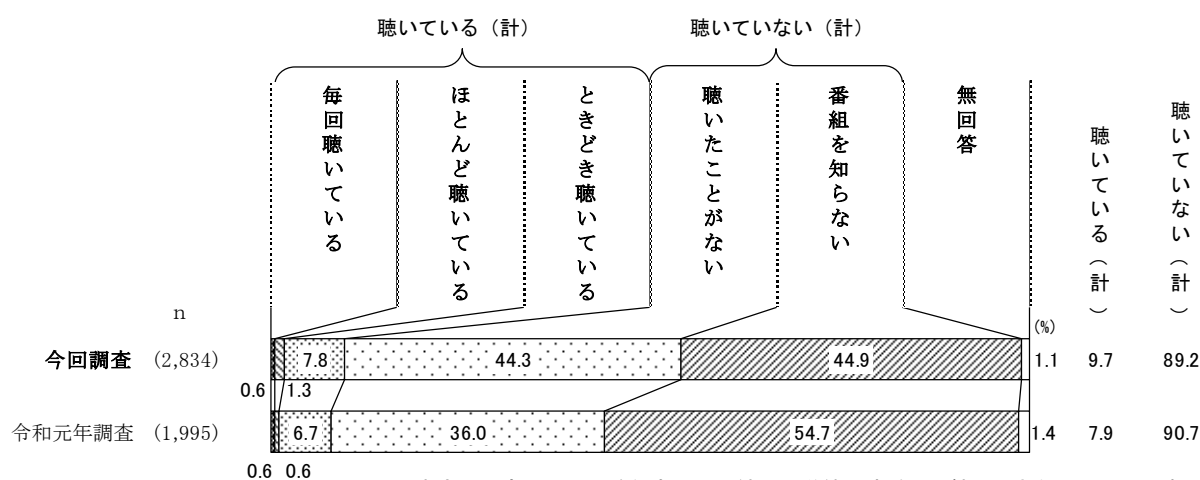
令和元年調査と比べて、『見ている（計）』は3.4ポイント増加し、『見ていない（計）』が3.2ポイント減少しているが、『見ていない（計）』の内訳に大きな増減がみられ、「見たことがない」は8.2ポイント増加し、逆に、「番組を知らない」は11.4ポイント減少している。

(9-4) 県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉」の聴取状況

◇『聴いている(計)』は9.7%で『聴いていない(計)』が89.2%

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

(4) あなたは、県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉(FM NACK5/月～金曜朝8:15～8:25)」を聴いたことがありますか。(○は1つだけ)



県政広報ラジオ番組「朝情報★埼玉」の聴取状況は、「番組を知らない」(44.9%)と「聴いたことがない」(44.3%)がともに4割台半ばで並んで多く、この両者を合わせた『聴いていない(計)』(89.2%)は約9割となっている。一方で、「毎回聴いている」(0.6%)と「ほとんど聴いている」(1.3%)、「ときどき聴いている」(7.8%)を合わせた『聴いている(計)』(9.7%)は約1割となっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査の県政広報ラジオ番組「モーニングスクエア」の聴取状況と比べると、『聴いている(計)』は1.8ポイント増加し、『聴いていない(計)』が1.5ポイント減少している。

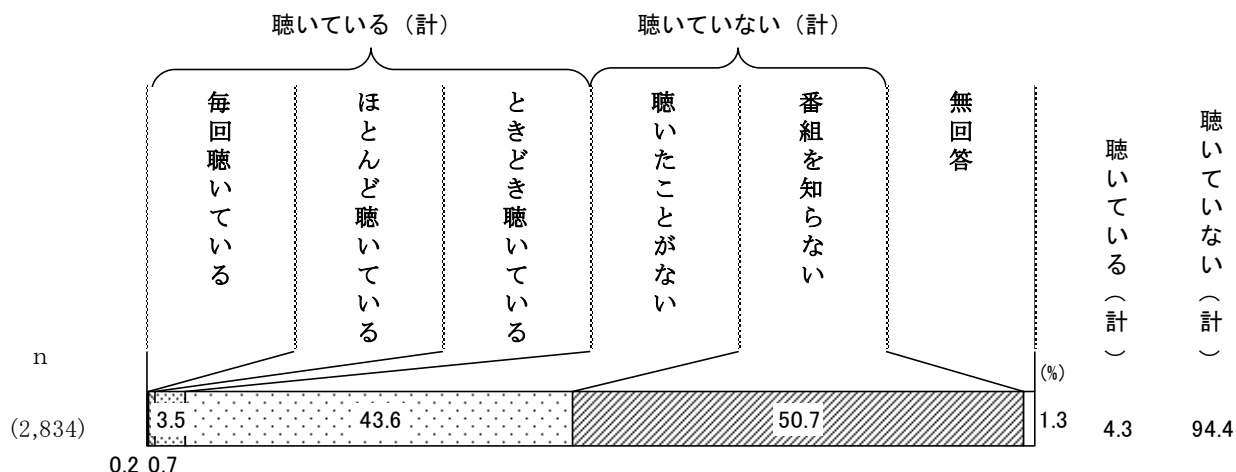
(9-5) ラジオ番組「まとめて！埼玉応援団」の聴取状況

◇『聴いている（計）』は4.3%で『聴いていない（計）』が94.4%

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

(5) あなたは、ラジオ番組「まとめて！埼玉応援団（TBS/土曜朝8:34～8:39）」（「蓮見孝之 まとめて！土曜日」コーナーの一つ）を聴いたことがありますか。

(○は1つだけ)



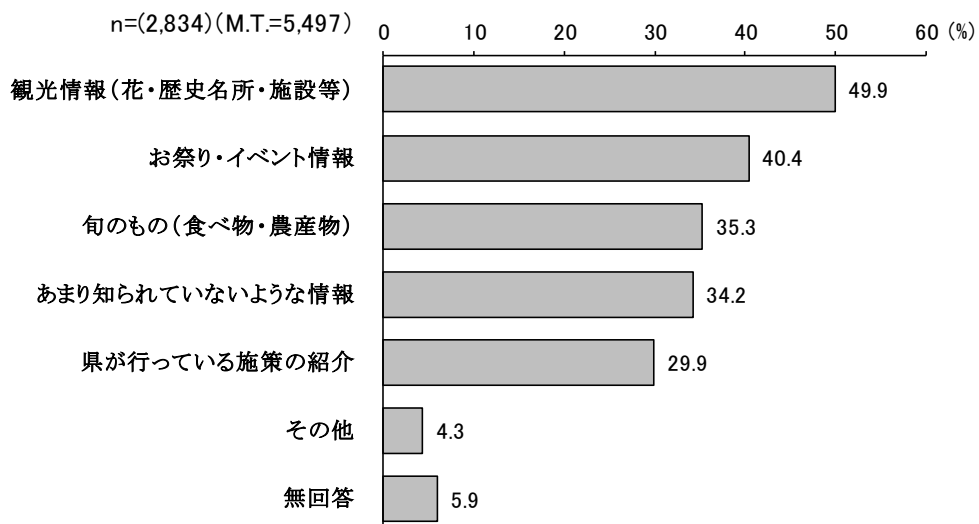
ラジオ番組「まとめて！埼玉応援団」の聴取状況は、「番組を知らない」（50.7%）が5割を超えて最も高く、これに「聴いたことがない」（43.6%）を合わせた『聴いていない（計）』（94.4%）は9割台半ばとなっている。一方で、「毎回聴いている」（0.2%）と「ほとんど聴いている」（0.7%）、「ときどき聴いている」（3.5%）を合わせた『聴いている（計）』（4.3%）は1割未満となっている。

（９－６）県の広報テレビ・ラジオ番組の内容への要望

◇「観光情報」が49.9%でトップ、「お祭り・イベント情報」が40.4%で続く

問11 県の広報紙、広報テレビ番組やラジオ番組についておたずねします。

（６） あなたは、県の広報テレビ・ラジオ番組で、どのような内容を見たり、聴きたいと思いますか。（〇はいくつでも）

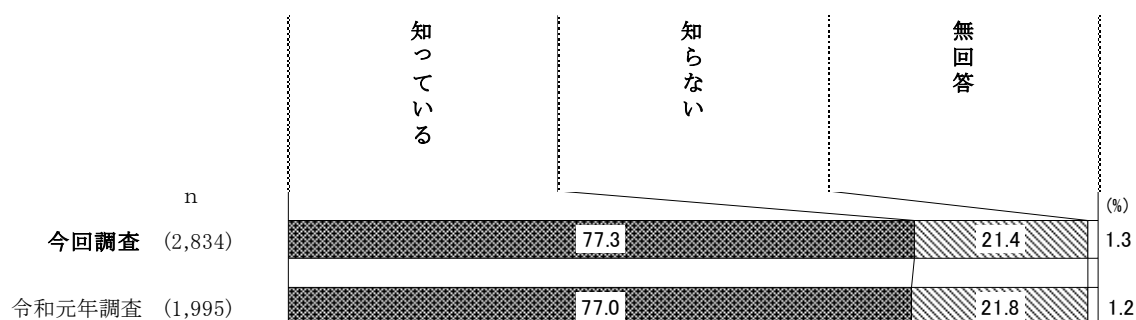


県の広報テレビ・ラジオ番組に求める内容では、「観光情報（花・歴史名所・施設等）」（49.9%）が約5割で最も高く、次いで「お祭り・イベント情報」（40.4%）が4割を超えて続き、以下、「旬のもの（食べ物・農産物）」（35.3%）、「あまり知られていないような情報」（34.2%）、「県が行っている施策の紹介」（29.9%）の順となっている。

(10) 東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内開催の認知度

◇「知っている」が77.3%、「知らない」が21.4%

問12 あなたは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」が埼玉県内で開催されることを知っていますか。(○は1つだけ)



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

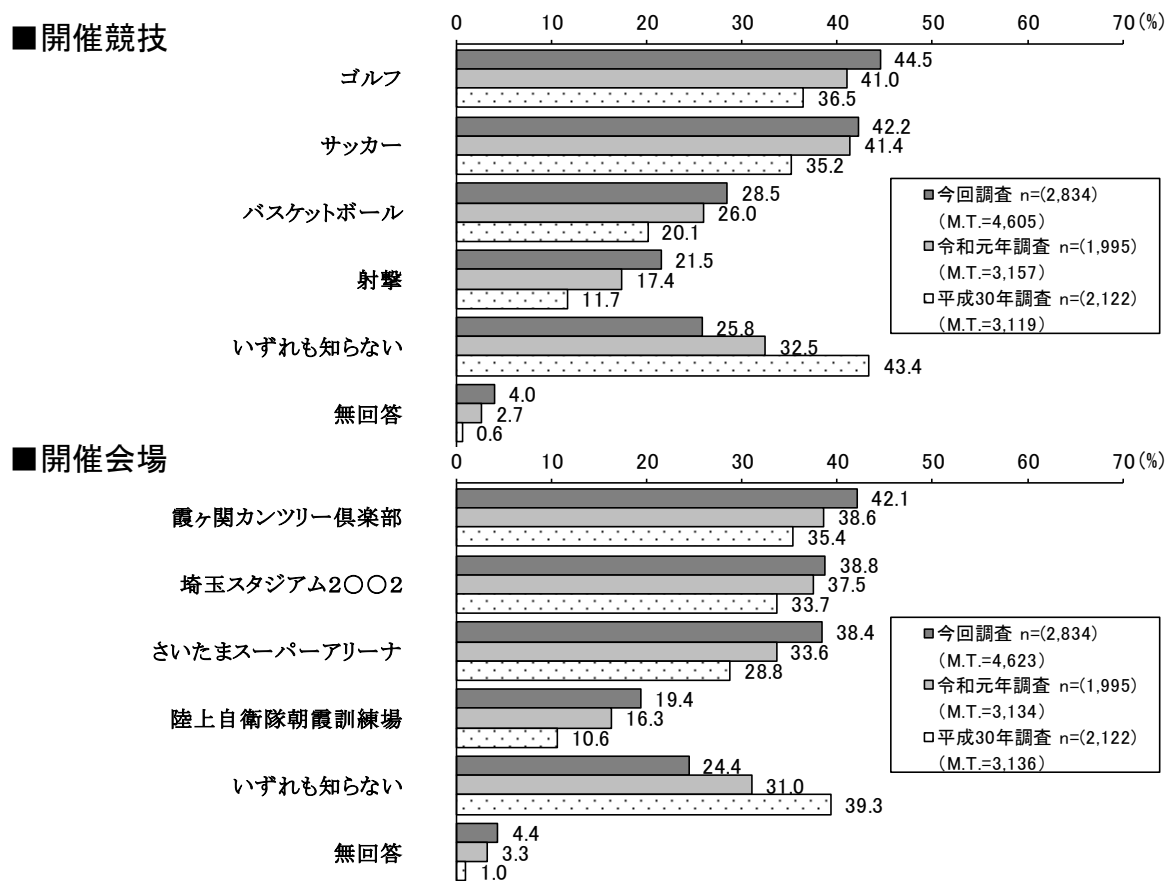
東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内開催の認知度は、「知っている」(77.3%)が7割台半ばを超えており、「知らない」(21.4%)が2割強である。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べても、今回調査の回答分布にほとんど違いはみられない。

(11) 東京2020オリンピック・パラリンピック 埼玉県内の開催競技と開催会場の認知度
 ◇開催競技は「ゴルフ」が44.5%、開催会場は「霞ヶ関カンツリー倶楽部」が42.1%

問13 「東京2020オリンピック・パラリンピック」において、あなたが、埼玉県内で開催される競技と会場で、知っていたものはどれですか。あてはまるものをすべて選んでください。（それぞれ、○はいくつでも）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

東京2020オリンピック・パラリンピックについて、埼玉県内の開催競技と開催会場の認知度を質問した結果は、開催競技では、「ゴルフ」（44.5%）と「サッカー」（42.2%）がともに4割を超えて高く、次いで、「バスケットボール」（28.5%）、「射撃」（21.5%）の順となっている。一方で、「いずれも知らない」（25.8%）は2割台半ばとなっている。

開催会場では、「霞ヶ関カンツリー倶楽部」（42.1%）が4割強と最も高く、これに「埼玉スタジアム2002」（38.8%）と「さいたまスーパーアリーナ」（38.4%）がともに4割弱で続き、次いで、「陸上自衛隊朝霞訓練場」（19.4%）となっている。一方で、「いずれも知らない」（24.4%）は2割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

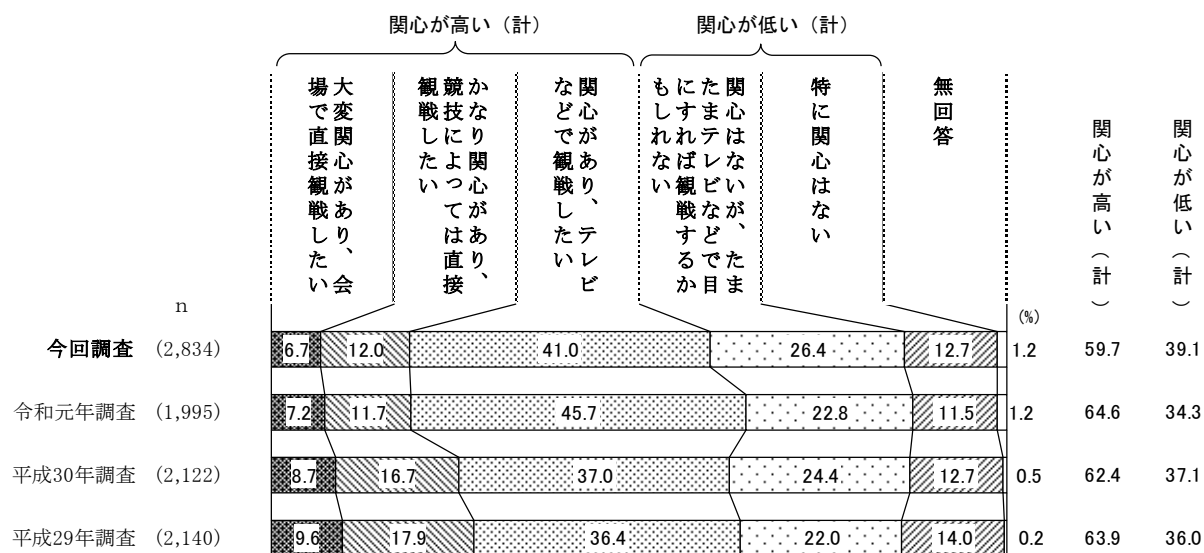
令和元年調査と比べて、開催競技は「射撃」（4.1ポイント増）、「ゴルフ」（3.5ポイント増）など、4競技全て増加しており、「いずれも知らない」は6.7ポイント減少した。

開催会場も「さいたまスーパーアリーナ」（4.8ポイント増）、「霞ヶ関カンツリー倶楽部」（3.5ポイント増）など、4会場全て増加しており、「いずれも知らない」は6.6ポイント減少した。

(12) 東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心度

◇『関心が高い（計）』が59.7%、『関心が低い（計）』が39.1%

問14 「東京2020オリンピック・パラリンピック」に対するあなたの関心は、次のうちどれですか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

東京2020オリンピック・パラリンピックへの関心度は、「関心があり、テレビなどで観戦したい」（41.0%）が4割強と最も多く、これに「かなり関心があり、競技によっては直接観戦したい」（12.0%）、「大変関心があり、会場で直接観戦したい」（6.7%）を合わせた『関心が高い（計）』（59.7%）は約6割となっている。一方で、「関心はないが、たまたまテレビなどで目にすれば観戦するかもしれない」（26.4%）と「特に関心はない」（12.7%）を合わせた『関心が低い（計）』（39.1%）は約4割となっている。

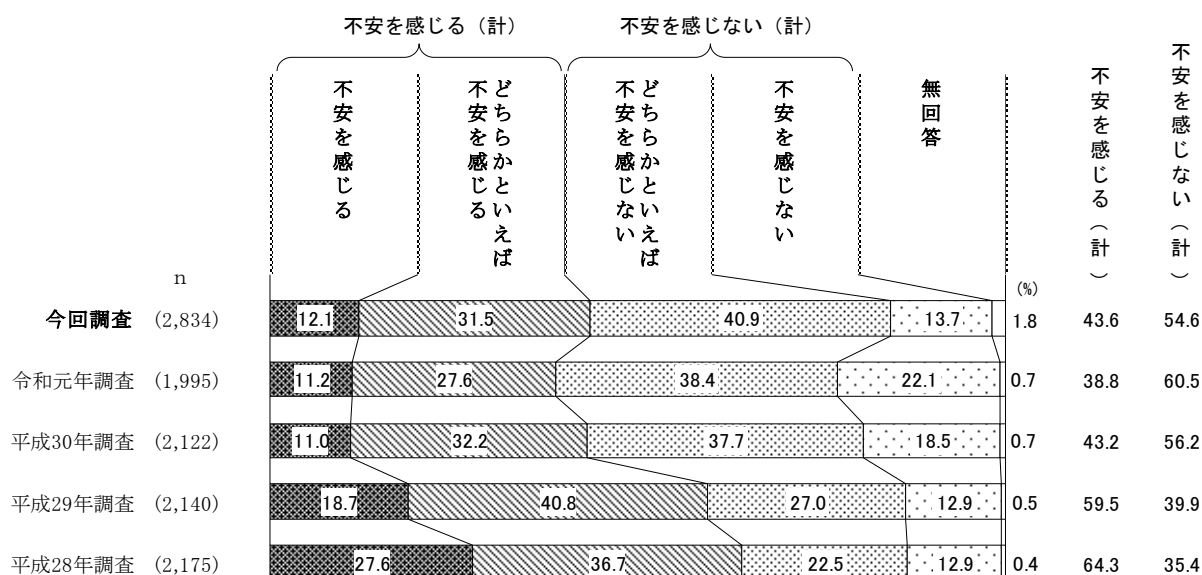
【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『関心が高い（計）』が4.9ポイント減少し、『関心が低い（計）』が4.8ポイント増加している。

(13) オリンピック・パラリンピック開催に伴う県内でのテロ発生への不安

◇『不安を感じる（計）』が43.6%、『不安を感じない（計）』が54.6%

問15 あなたは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」の開催に伴う県内でのテロ発生に不安を感じますか。（○は1つだけ）



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

東京2020オリンピック・パラリンピック開催に伴う県内でのテロ発生への不安は、「どちらかといえば不安を感じる」（31.5%）が3割強となっており、これに「不安を感じる」（12.1%）を合わせた『不安を感じる（計）』（43.6%）は4割強となっている。一方で、4割を超えて最も多い「どちらかといえば不安を感じない」（40.9%）に、「不安を感じない」（13.7%）を合わせた『不安を感じない（計）』（54.6%）は5割台半ばとなっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『不安を感じる（計）』が4.8ポイント増加し、逆に『不安を感じない（計）』が5.9ポイント減少しているが、3年連続で『不安を感じない（計）』が『不安を感じる（計）』を上回っている。

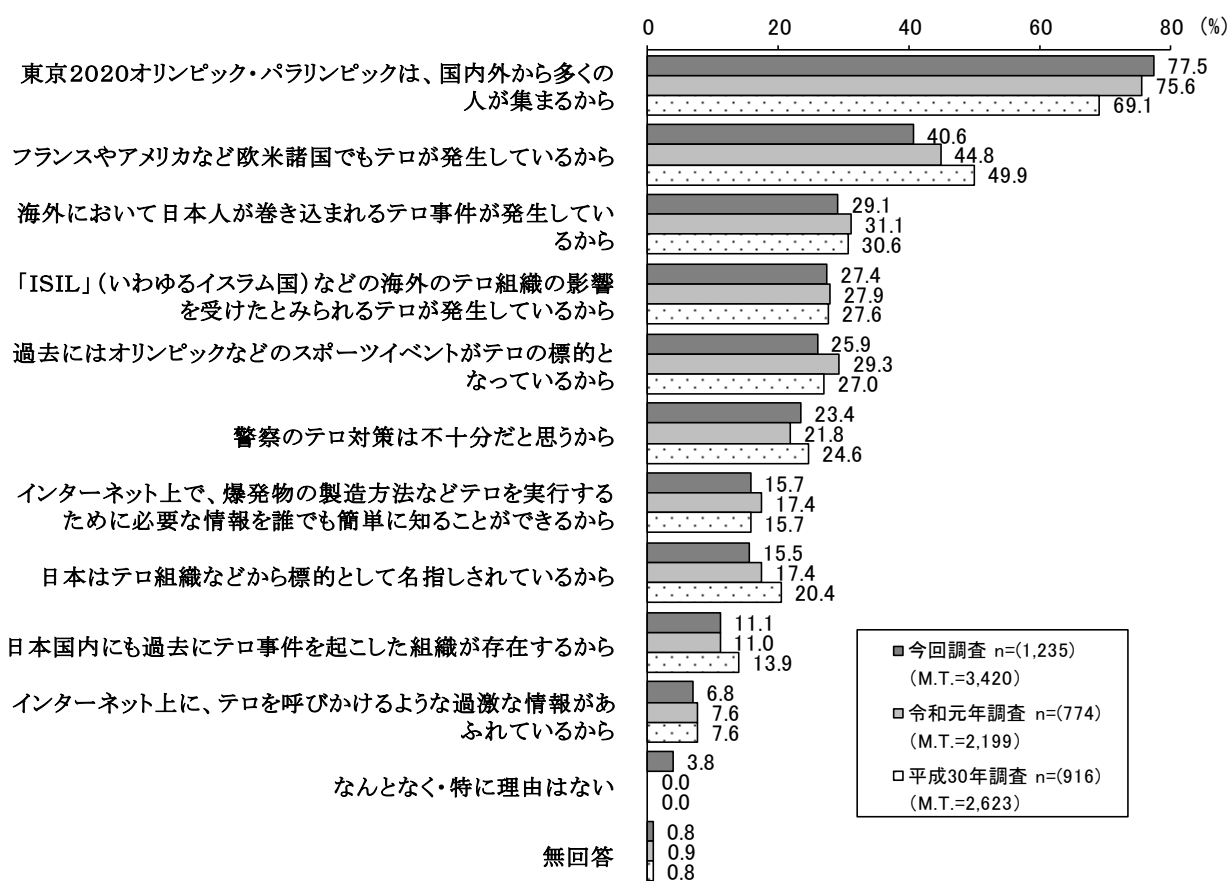
※本設問の質問文は、令和元年調査までは、「東京2020オリンピック・パラリンピック」と「ラグビーワールドカップ2019」を併記して、県内のテロ発生への不安を聴取していたことに留意。

(13-1) 県内においてテロが発生することに不安を感じる理由

◇「東京2020オリンピック・パラリンピックは、国内外から多くの人が集まるから」が77.5%、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」が40.6%

(問15で「不安を感じる」または「どちらかといえば不安を感じる」と答えた方に)

問15-1 あなたが、県内においてテロが発生することに不安を感じる理由は何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。(〇はいくつでも)



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県内においてテロが発生することに不安を感じる理由は、「東京2020オリンピック・パラリンピックは、国内外から多くの人が集まるから」(77.5%)が最も高い。次いで、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」(40.6%)、「海外において日本人が巻き込まれるテロ事件が発生しているから」(29.1%)などとなっている。

【過去調査との比較】

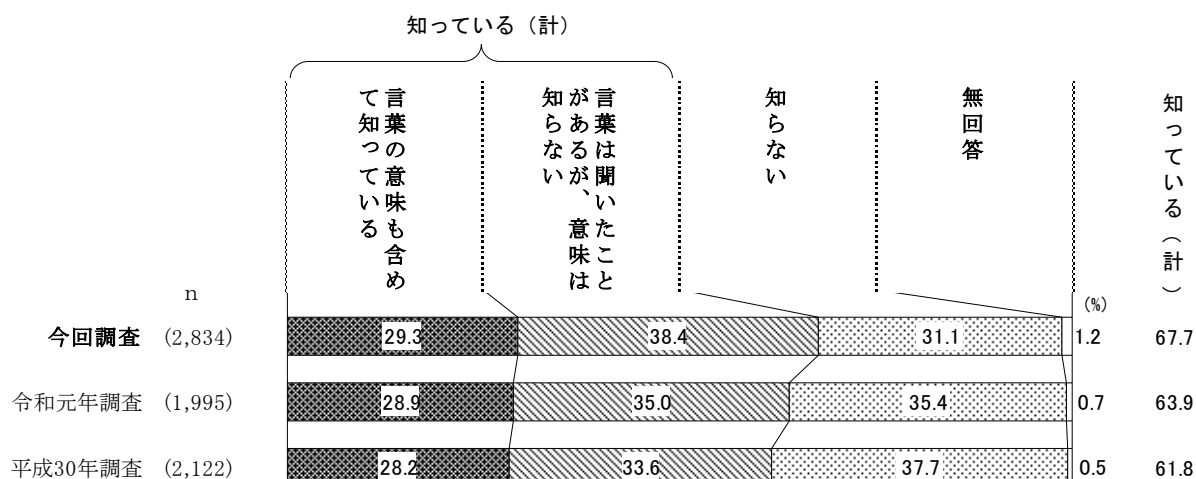
令和元年調査と比べて、「東京2020オリンピック・パラリンピックは、国内外から多くの人が集まるから」(1.9ポイント増)、「警察のテロ対策は不十分だと思うから」(1.6ポイント増)などが増加している。一方で、「フランスやアメリカなど欧米諸国でもテロが発生しているから」(4.2ポイント減)、「過去にはオリンピックなどのスポーツイベントがテロの標的となっているから」(3.4ポイント減)などが減少している。

(14-1) 生物多様性の認知度

◇『知っている（計）』が67.7%

問16 現在、「生物多様性」の保全という、地球上のさまざまな生物やそれらが生息・生育できる環境を守る取組が進められています。また、もともとその地域にいなかったのに、人間によって他の地域から入ってきたアライグマやカミツキガメなど種々の「外来生物」により、地域固有の生物の生態系や自然環境に影響を与える問題が起きています。

(1) あなたは「生物多様性」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)



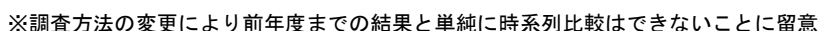
「生物多様性」という言葉の認知度は、「言葉の意味も含めて知っている」（29.3%）が約3割、これに「言葉は聞いたことがあるが、意味は知らない」（38.4%）を合わせた『知っている（計）』（67.7%）は6割台半ばを超えている。一方で、「知らない」（31.1%）は3割強となっている。

【過去調査との比較】

令和元年調査と比べて、『知っている（計）』が3.8ポイント増加している。

◇『知っている（計）』が95.3%

問16 (2) あなたは「外来生物」という言葉を知っていますか。(○は1つだけ)



【過去調査との比較】

- 54 -

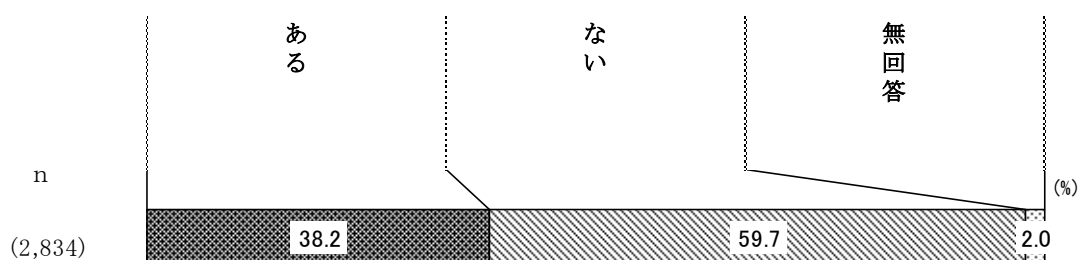
(15)「生涯学習活動」の経験

◇『ある』は38.2%、『ない』は59.7%

問17 あなたは、この1年くらいの間に「生涯学習活動」をしたことがありますか。
(クラブ・サークル活動、体験教室、習いごとなどのほか、個人で行う活動も含みます。)

※ 生涯学習活動とは、以下のような分野での活動（例示）です。（○は1つだけ）

- ・教養的なもの（文学、歴史、語学など）
- ・芸術・文化に関するもの
- ・ボランティアに関するもの
- ・育児・教育に関するもの
- ・就職や転職のために必要な知識・技能
- ・スポーツ・健康に関するもの（各種スポーツ、健康法など）
- ・趣味に関するもの（映画・音楽等の鑑賞、スポーツ観戦、読書など）
- ・家庭生活に関するもの（料理、編み物、園芸など）
- ・学校の正規課程での学習（学校、大学等での講義・調査・研究など）
- ・社会問題に関するもの
- ・パソコン・インターネットに関するもの
- ・自然体験や生活体験に関するもの
- ・大学や高等学校等の公開講座等での学習
- ・職業において必要な知識・技能



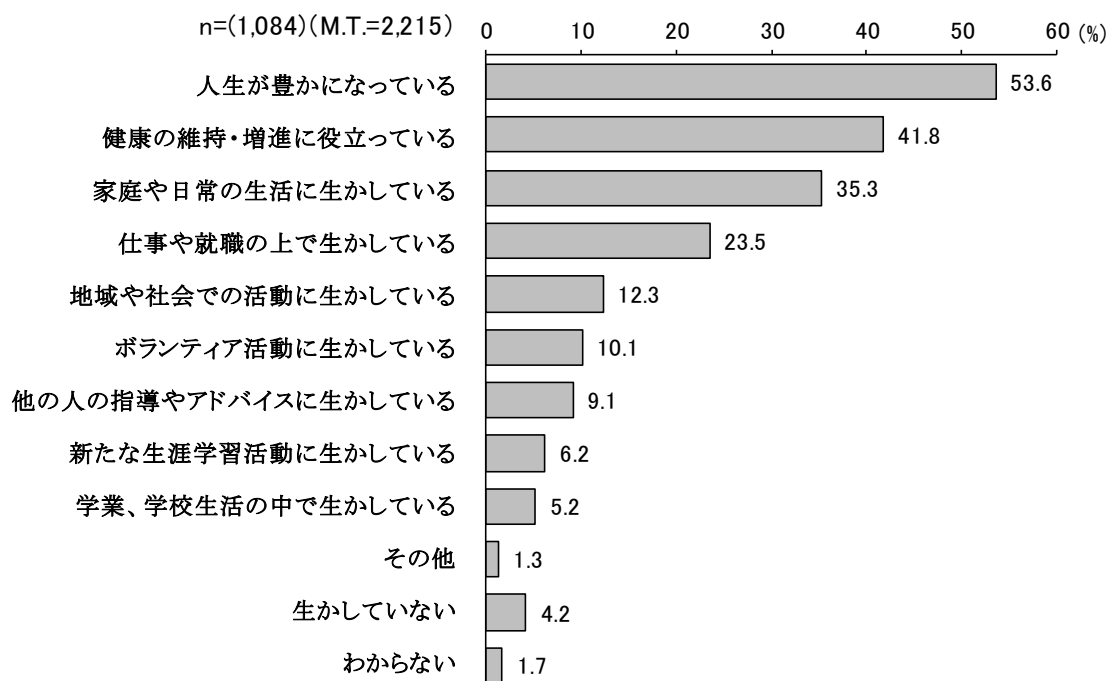
過去1年間の生涯学習活動経験は、「ある」（38.2%）が4割弱、「ない」（59.7%）が約6割となっている。

(15－1) 生かしている知識・技能・経験

◇「人生が豊かになっている」が53.6%、「健康の維持・増進に役立っている」が41.8%

(問17で「1. ある」と答えた方に)

問17－1 あなたは、これまでの「生涯学習活動」で学んだ知識や技能・経験等をどのように生かしていますか。あてはまるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)



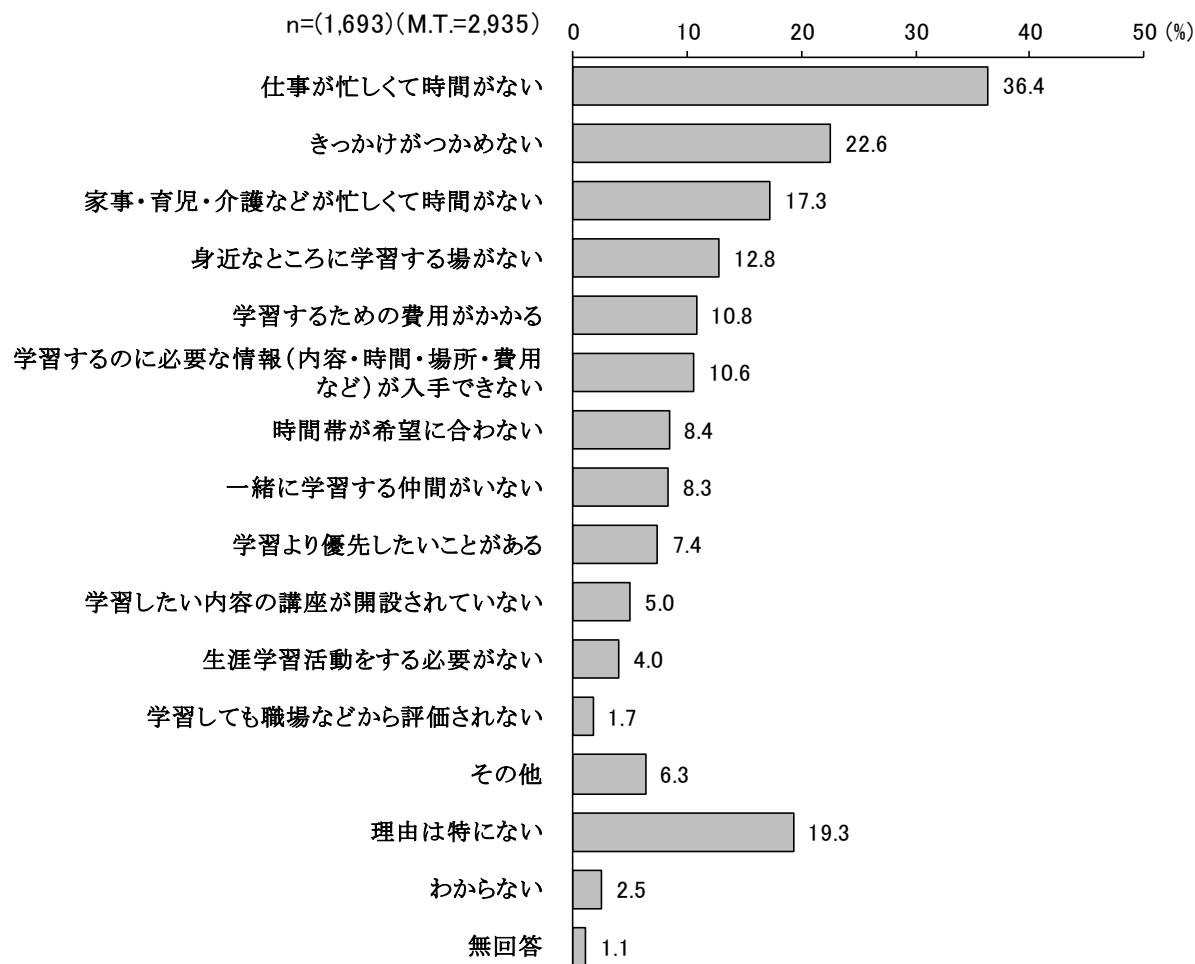
生涯学習活動で学んだ知識や技能・経験等をどのように生かしているかは、「人生が豊かになっている」(53.6%)が5割強で最も高く、次いで、「健康の維持・増進に役立っている」(41.8%)、「家庭や日常の生活に生かしている」(35.3%)、「仕事や就職の上で生かしている」(23.5%)などとなっている。

(15－2) 活動をしていない理由

◇「仕事が忙しくて時間がない」が36.4%、「きっかけがつかめない」が22.6%

(問17で「2. ない」と答えた方に)

問17－2 あなたが、この1年間くらいの間に「生涯学習活動」をしていない理由は何ですか。あてはまるものすべてを選んでください。(〇はいくつでも)

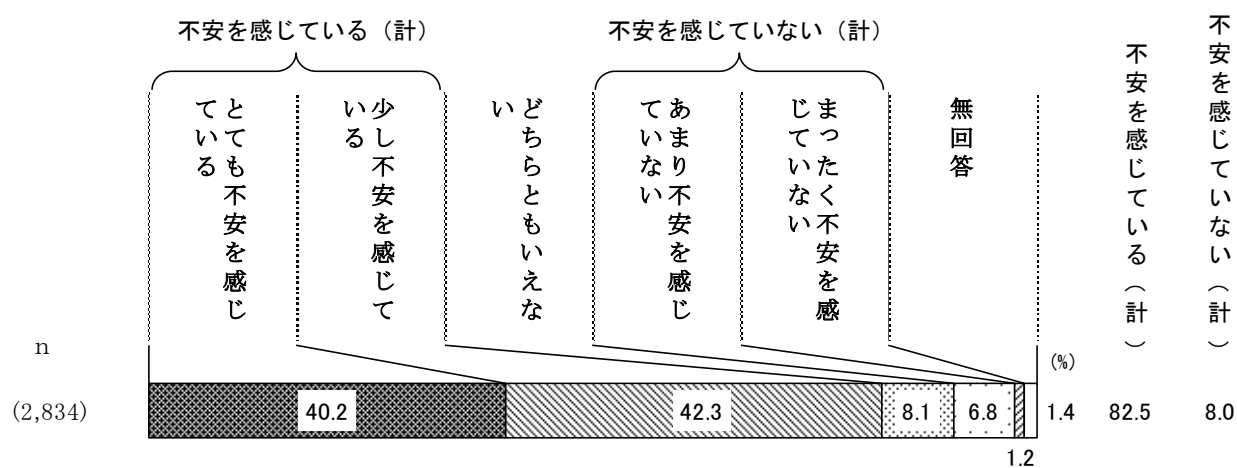


生涯学習活動をしていない理由は、「仕事が忙しくて時間がない」(36.4%)が3割台半ばを超えて最も高く、次いで、「きっかけがつかめない」(22.6%)、「家事・育児・介護などが忙しくて時間がない」(17.3%)、「身近なところに学習する場がない」(12.8%)、「学習するための費用がかかる」(10.8%)などとなっている。

(16) 新型コロナウイルス感染症への不安

◇『不安を感じている（計）』は82.5%

問18 あなたは、ご自分が新型コロナウイルス感染症に感染するのではないかと不安を感じていますか。（○は1つだけ）

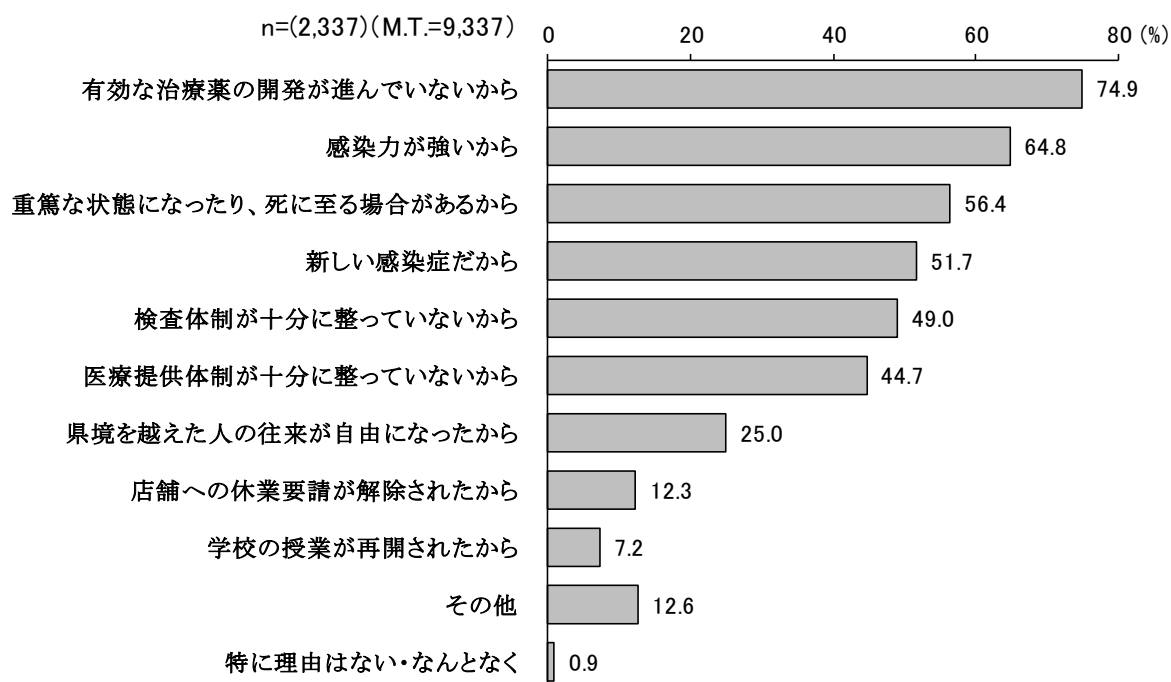


新型コロナウイルス感染症に感染することへの不安は、「少し不安を感じている」（42.3%）が4割強で最も多く、これに「とても不安を感じている」（40.2%）が4割を超えて続き、これら両者を合わせた『不安を感じている（計）』（82.5%）は8割強となっている。一方で、「あまり不安を感じていない」（6.8%）と「まったく不安を感じていない」（1.2%）を合わせた『不安を感じていない（計）』（8.0%）は1割弱となっている。

(16-1) 不安を感じる理由

◇「有効な治療薬の開発が進んでいないから」が74.9%

(問18で「1. とても不安を感じている」「2. 少し不安を感じている」と答えた方に)
問18-1 あなたは、なぜ不安を感じるのですか。(〇はいくつでも)

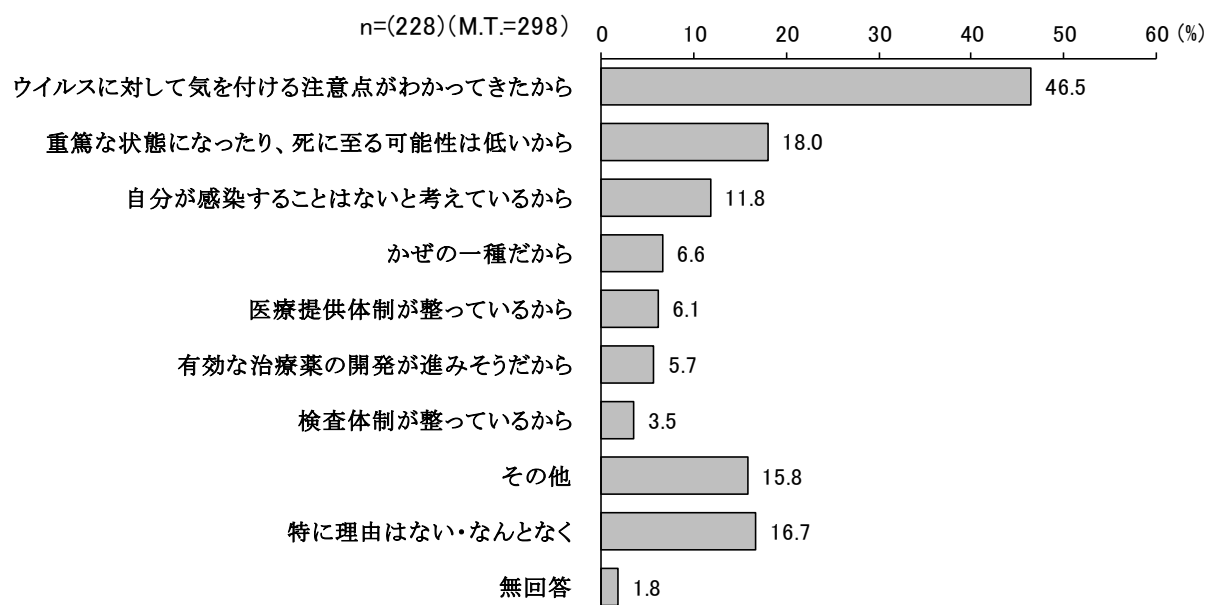


新型コロナウイルス感染症に感染不安を感じる理由は、「有効な治療薬の開発が進んでいないから」(74.9%)が7割台半ばで最も高く、次いで「感染力が強いから」(64.8%)が6割台半ばで続き、以下「重篤な状態になったり、死に至る場合があるから」(56.4%)、「新しい感染症だから」(51.7%)、「検査体制が十分に整っていないから」(49.0%)、「医療提供体制が十分に整っていないから」(44.7%)などとなっている。

(16-2) 不安に感じない理由

◇「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」が46.5%

(問18で「4. あまり不安を感じていない」「5. 全く不安を感じていない」と答えた方に)
問18-2 あなたは、なぜ不安を感じないのですか。(〇はいくつでも)



新型コロナウイルス感染症に感染不安を感じない理由は、「ウイルスに対して気を付ける注意点がわかってきたから」(46.5%)が4割台半ばを超えて最も高く、以下「重篤な状態になったり、死に至る可能性は低いから」(18.0%)が2割弱、「自分が感染することはないと考えているから」(11.8%)が1割強で続き上位となっているが、「特に理由はない・なんとなく」(16.7%)や「その他」(15.8%)もともに1割台半ばから1割台後半となっている

3. 県政への要望

◇「新型コロナウイルス感染症対策を進める」(37.3%)が1位

問19 埼玉県政への要望についておたずねいたします。

県の行政全般の中で、現在、あなたが最も重点をおいてほしいもの、特に必要だと思うものを、次の中から3つまで選んでください。(〇は3つまで)

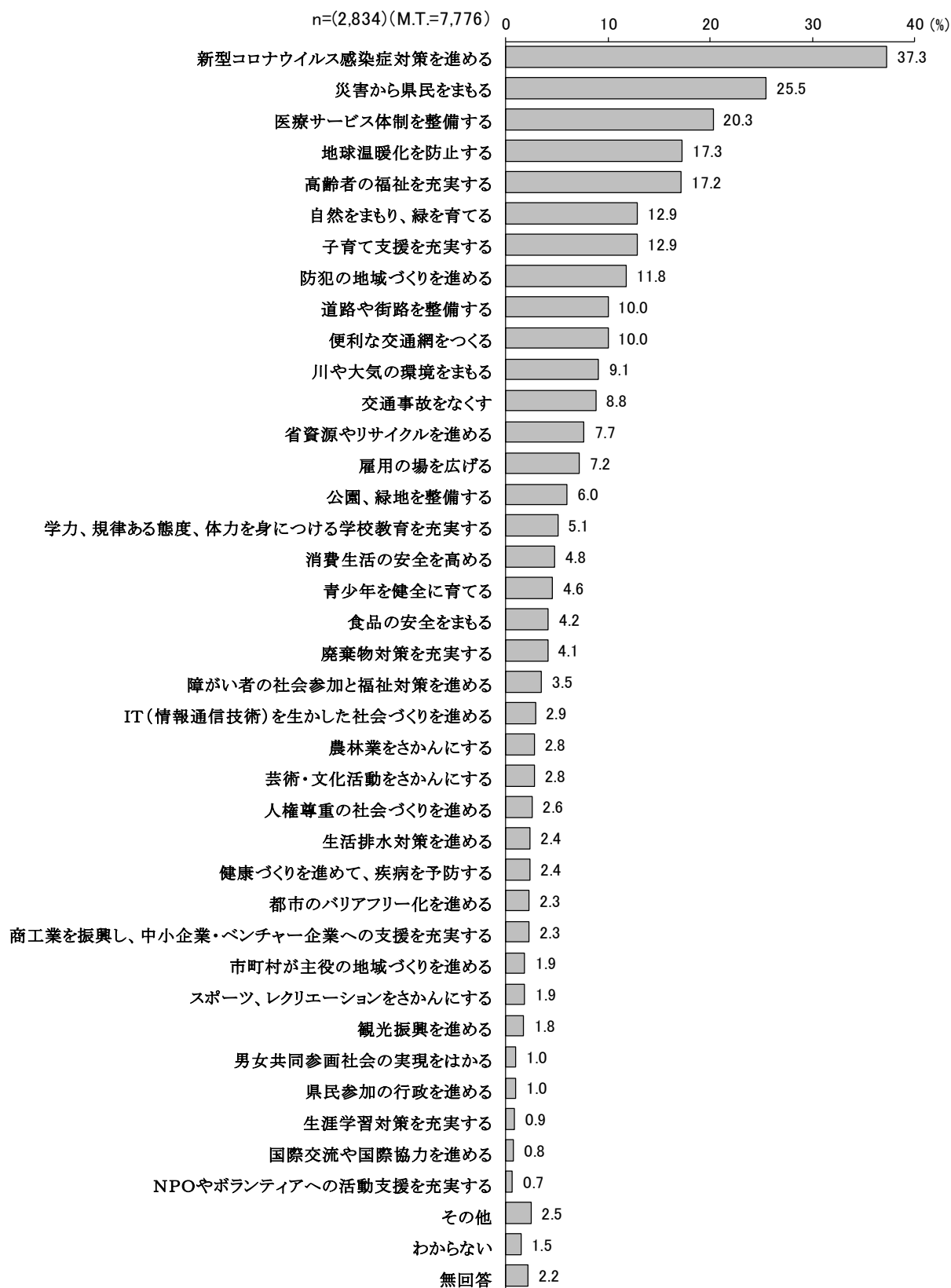
		今 回	前回 (令和元年調査)		増減差
1位	新型コロナウイルス感染症対策を進める	37.3%	—	—	—
2位	災害から県民をまもる	25.5	19.4	(3位)	6.1
3位	医療サービス体制を整備する	20.3	23.4	(2位)	△ 3.1
4位	地球温暖化を防止する	17.3	12.7	(9位)	4.6
5位	高齢者の福祉を充実する	17.2	24.2	(1位)	△ 7.0
6位	自然をまもり、緑を育てる	12.9	12.3	(10位)	0.6
	子育て支援を充実する	12.9	18.5	(4位)	△ 5.6
8位	防犯の地域づくりを進める	11.8	16.7	(5位)	△ 4.9
9位	道路や街路を整備する	10.0	13.4	(7位)	△ 3.4
	便利な交通網をつくる	10.0	12.9	(8位)	△ 2.9

※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

【過去調査との比較】

今回の上位10位と前回の令和元年調査を比べると、今回新設選択肢である「新型コロナウイルス感染症対策を進める」が1位となった。2位の「災害から県民をまもる」は順位を1つ上げ、3位の「医療サービス体制を整備する」は順位を1つ下げており、上位3項目の内容をみると、新型コロナウイルス感染拡大の恐れを感じている中での調査となった影響がうかがえる結果と言えよう。昨年9位の「地球温暖化を防止する」は順位を5つ上げ4位となっている。前回1位の「高齢者の福祉を充実する」は順位を4つ下げ5位となっている。一方で、前回10位の「自然をまもり、緑を育てる」は4つ順位を上げ、前回4位の「子育て支援を充実する」と並び6位となっている。8位の「防犯の地域づくりを進める」は3つ、9位の「道路や街路を整備する」は2つ、同じく9位の「便利な交通網をつくる」は1つ、それぞれ順位を下げている。

前回調査との増減をみると、「災害から県民をまもる」(6.1ポイント増)、「地球温暖化を防止する」(4.6ポイント増)などが増加している。一方で、「高齢者の福祉を充実する」(7.0ポイント減)、「子育て支援を充実する」(5.6ポイント減)、「防犯の地域づくりを進める」(4.9ポイント減)などは減少している。



【平成28年以降の上位10位の推移】

過去5年間の上位10位の推移をみると、今回の令和2年度の1位は今回新設選択肢の「新型コロナウイルス感染症対策を進める」となった。2位の「災害から県民をまもる」（5位→4位→1位→3位→2位）は前回順位を2つ下げたが、今回順位を1つ上げた。3位の「医療サービス体制を整備する」（1位→2位→3位→2位→3位）は今回順位を1つ下げた。4位の「地球温暖化を防止する」（13位→12位→10位→9位→4位）は少しずつ順位を上げて、今回は順位を5つも上げた。5位の「高齢者の福祉を充実する」（2位→1位→2位→1位→5位）は前回まで上位で固定されていたが、今回順位を4つ下げた。6位の「自然をまもり、緑を育てる」（6位→8位→6位→10位→6位）は前回10位に順位を下げたが、今回再び順位を4つ上げた。6位の「子育て支援を充実する」（3位→3位→4位→4位→6位）は前回から2つ下げ、8位の「防犯の地域づくりを進める」（4位→5位→5位→5位→8位）は前回から順位を3つ下げている。9位の「道路や街路を整備する」（8位→7位→7位→7位→9位）は前回順位を維持していたが、今回順位を2つ下げた。9位の「便利な交通網をつくる」（10位→9位→8位→8位→9位）は少しずつ順位を上げていたが、今回順位を1つ下げた。

順位	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
1	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%	高齢者の福祉を充実する 24.2%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 37.3%
2	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%	医療サービス体制を整備する 23.4%	災害から県民をまもる 25.5%
3	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%	災害から県民をまもる 19.4%	医療サービス体制を整備する 20.3%
4	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%	子育て支援を充実する 18.5%	地球温暖化を防止する 17.3%
5	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	高齢者の福祉を充実する 17.2%
6	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 16.6%	自然をまもり、緑を育てる 12.9%
7	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%	道路や街路を整備する 13.4%	子育て支援を充実する 12.9%
8	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.9%	防犯の地域づくりを進める 11.8%
9	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%	地球温暖化を防止する 12.7%	道路や街路を整備する 10.0%
10	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%	自然をまもり、緑を育てる 12.3%	便利な交通網をつくる 10.0%

【上位2位から5位の10年間の推移】

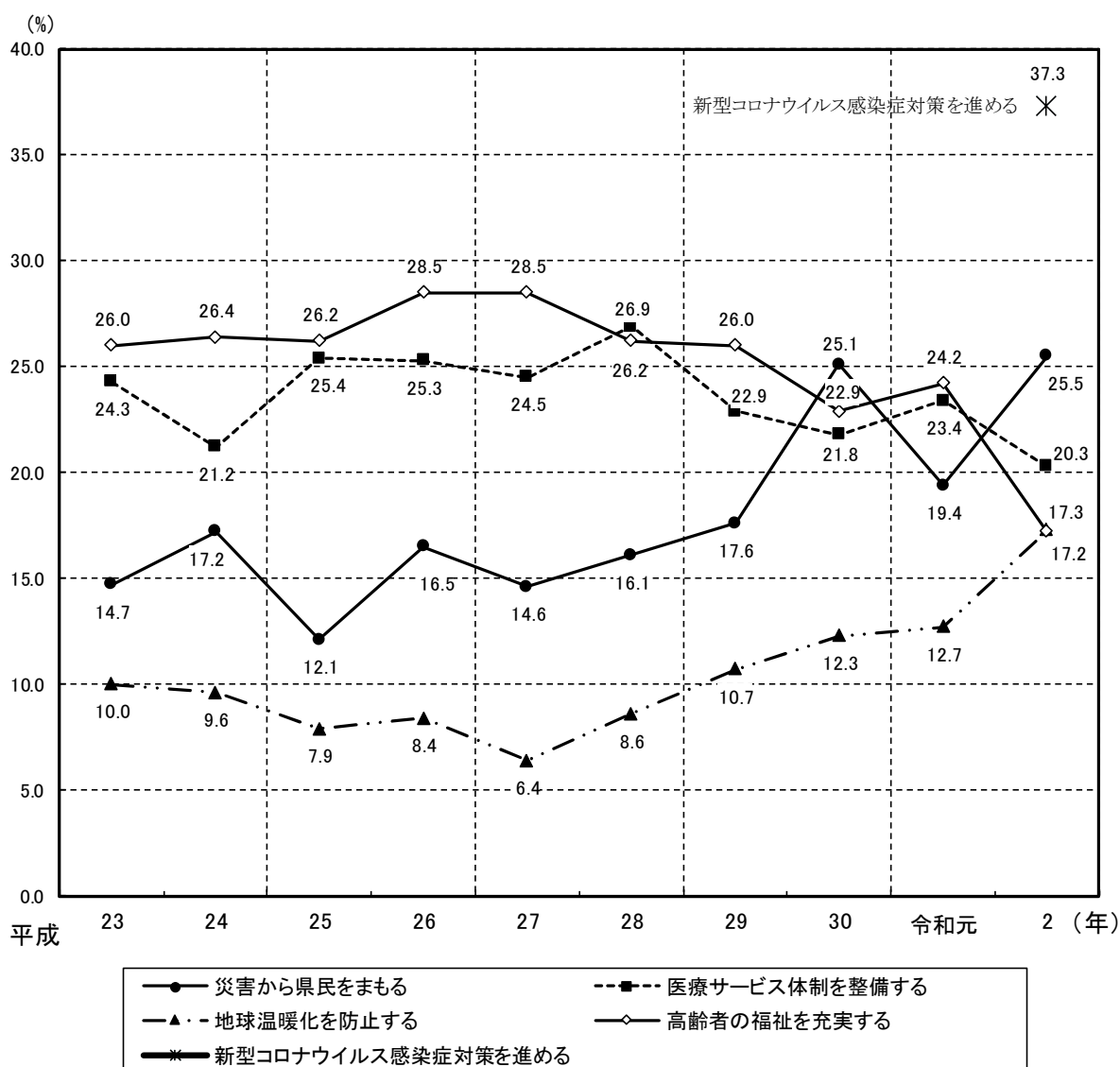
新設選択肢の「新型コロナウイルス感染症対策を進める」を除いて、今回調査で上位となった「災害から県民をまもる」、「医療サービス体制を整備する」、「地球温暖化を防止する」、「高齢者の福祉を充実する」の4項目について、平成23年以降の直近10年間の推移をみると次のようになっている。

まず、2位の「災害から県民をまもる」は平成23年以降12～18%程度の間で推移し、前々回に2割台半ばを記録したが、前回約2割に減少し、今回は再び2割台半ばと増加に転じている。

3位の「医療サービス体制を整備する」は平成28年に直近10年間の最高値を記録したものの、平成29年、平成30年と減少し、今回はやや増加したが、今回は約2割と再び減少している。

4位の「地球温暖化を防止する」は平成23年から平成27年まで減少傾向だったが、平成27年以降は緩やかな増加傾向を続け、今回は1割台半ばを超えて最高値を記録している。

5位の「高齢者の福祉を充実する」は、平成23年以降おおむね26～28%程度の間で推移し、前々回の2割強から今回は2割台半ばと増加したが、今回は1割台後半と最低値を記録した。



※調査方法の変更により前年度までの結果と単純に時系列比較はできないことに留意

県政への要望 10年間の推移(平成23年度～令和2年度)

	H23	H24	H25	H26	H27
1	高齢者の福祉を充実する 26.0%	高齢者の福祉を充実する 26.4%	高齢者の福祉を充実する 26.2%	高齢者の福祉を充実する 28.5%	高齢者の福祉を充実する 28.5%
2	医療サービス体制を整備する 24.3%	医療サービス体制を整備する 21.2%	医療サービス体制を整備する 25.4%	医療サービス体制を整備する 25.3%	医療サービス体制を整備する 24.5%
3	食品の安全をまもる/ 22.3%	自然をまもり、緑を育てる 19.7%	子育て支援を充実する 20.0%	子育て支援を充実する 17.3%	子育て支援を充実する 23.4%
4	自然をまもり、緑を育てる 18.6%	防犯の地域づくりをすすめる 17.6%	防犯の地域づくりをすすめる 16.9%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	防犯の地域づくりをすすめる 17.4%
5	防犯の地域づくりをすすめる 14.8%	雇用の場を広げる 17.3%	雇用の場を広げる 15.7%	災害から県民をまもる 16.5%	災害から県民をまもる 14.6%
6	災害から県民をまもる/ 17.2%	災害から県民をまもる 17.3%	食品の安全をまもる 15.2%	雇用の場を広げる 15.3%	食品の安全をまもる 13.4%
7	雇用の場を広げる 14.7%	子育て支援を充実する 16.6%	自然をまもり緑を育てる 15.0%	交通事故をなくす 14.2%	道路や街路を整備する 13.0%
8	子育て支援を充実する 14.1%	食品の安全をまもる 14.2%	災害から県民をまもる 12.1%	食品の安全をまもる 13.8%	雇用の場を広げる 12.8%
9	交通事故をなくす 10.7%	交通事故をなくす 13.2%	交通事故をなくす 11.6%	自然をまもり緑を育てる 13.0%	自然をまもり緑を育てる 12.4%
10	道路や街路を整備する 10.4%	地球温暖化を防止する 9.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 11.2%	便利な交通網をつくる 11.7%	便利な交通網をつくる 12.0%
11	地球温暖化を防止する 10.0%	道路や街路を整備する 8.4%	道路や街路を整備する/ 11.2%	道路や街路を整備する 11.1%	交通事故をなくす 10.4%
12	便利な交通網をつくる 9.0%	便利な交通網をつくる 8.2%	便利な交通網をつくる 9.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 9.5%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 10.4%
13	省資源やリサイクルをすすめる/ 8.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 8.0%	川や大気環境をまもる 8.6%	川や大気環境をまもる 8.7%	青少年を健全に育てる 7.9%
14	川や大気環境をまもる 8.6%	省資源やリサイクルをすすめる/ 8.0%	地球温暖化を防止する 7.9%	地球温暖化を防止する 8.4%	川や大気環境をまもる 6.6%
15	消費生活の安全を高める 7.6%	青少年を健全に育てる 7.8%	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 7.3%	地球温暖化を防止する 6.4%
16	学力、規律ある態度、体力を身につける 学校教育を充実する 7.4%	川や大気環境をまもる 6.5%	省資源やリサイクルをすすめる 5.9%	省資源やリサイクルをすすめる 6.6%	公園、緑地を整備する 6.4%
17	公園、緑地を整備する 7.3%	消費生活の安全を高める 6.0%	公園、緑地を整備する 5.8%	消費生活の安全を高める 6.5%	消費生活の安全を高める 6.3%
18	青少年を健全に育てる 5.7%	公園、緑地を整備する 5.3%	消費生活の安全を高める 5.1%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 5.9%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 5.6%
19	障がい者の社会参加と 福祉対策をすすめる 3.9%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 4.7%	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 4.8%	公園、緑地を整備する 5.2%	省資源やリサイクルをすすめる 5.1%
20	廃棄物対策を充実する 3.7%	廃棄物対策を充実する 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%	障がい者の社会参加と 福祉対策をすすめる 4.2%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.3%
21	健康づくりをすすめて 疾病を予防する 3.5%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 4.1%	廃棄物対策を充実する/ 3.8%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.5%	障がい者の社会参加と 福祉対策をすすめる 3.7%
22	生活排水対策をすすめる 3.2%	障がい者の社会参加と 福祉対策をすすめる 3.8%	障がい者の社会参加と 福祉対策をすすめる 3.7%	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.4%
23	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 3.1%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 3.7%	廃棄物対策を充実する 3.0%	生活排水対策をすすめる 3.2%
24	スポーツ・レクリエーションを さかんにする/ 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる/ 2.4%	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.4%	都市のバリアフリー化をすすめる/ 2.9%	廃棄物対策を充実する 3.1%
25	都市のバリアフリー化をすすめる 2.4%	農林業をさかんにする 2.7%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.3%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.9%	市町村が主役の地域づくりをすすめる /
26	市町村が主役の 地域づくりをすすめる 2.3%	生活排水対策をすすめる/ 2.2%	農林業をさかんにする 2.2%	生活排水対策をすすめる 2.8%	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%
27	芸術・文化活動をさかんにする 2.2%	市町村が主役の 地域づくりをすすめる 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする 2.1%	芸術・文化活動をさかんにする/ 2.4%	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.6%
28	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.9%	芸術・文化活動をさかんにする/ 2.2%	観光振興をすすめる 1.9%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.4%	農林業をさかんにする 2.4%
29	農林業をさかんにする 1.8%	スポーツ・レクリエーションを さかんにする 2.2%	生活排水対策をすすめる/ 2.1%	農林業をさかんにする 2.1%	生涯学習対策を充実する 2.1%
30	観光振興をすすめる 1.5%	観光振興をすすめる 2.1%	生涯学習対策を充実する/ 0.8%	県民参加の行政をすすめる 1.7%	観光振興をすすめる 2.0%
31	県民参加の行政をすすめる 1.2%	県民参加の行政をすすめる 2.0%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.8%	観光振興をすすめる 1.6%	人権尊重の社会づくりをすすめる 1.6%
32	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する 1.1%	生涯学習対策を充実する 1.8%	県民参加の行政をすすめる 1.4%	生涯学習対策を充実する 1.6%	男女共同参画社会の実現をはかる/ 1.0%
33	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりをすすめる/ 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりをすすめる 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりをすすめる 1.3%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.2%	県民参加の行政をすすめる 1.0%
34	生涯学習対策を充実する/ 1.0%	NPOやボランティアへの 活動支援を充実する/ 0.9%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	NPOやボランティアへの活動支援を充 実する 1.2%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりをすすめる 0.9%
35	国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	男女共同参画社会の実現をはかる/ 0.8%	IT(情報通信技術)を生かした 社会づくりをすすめる/ 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%
36	男女共同参画社会の実現をはかる 0.5%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充 実する 0.8%	国際交流や国際協力をすすめる 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充 実する 0.8%
37	- -	- -	- -	- -	- -

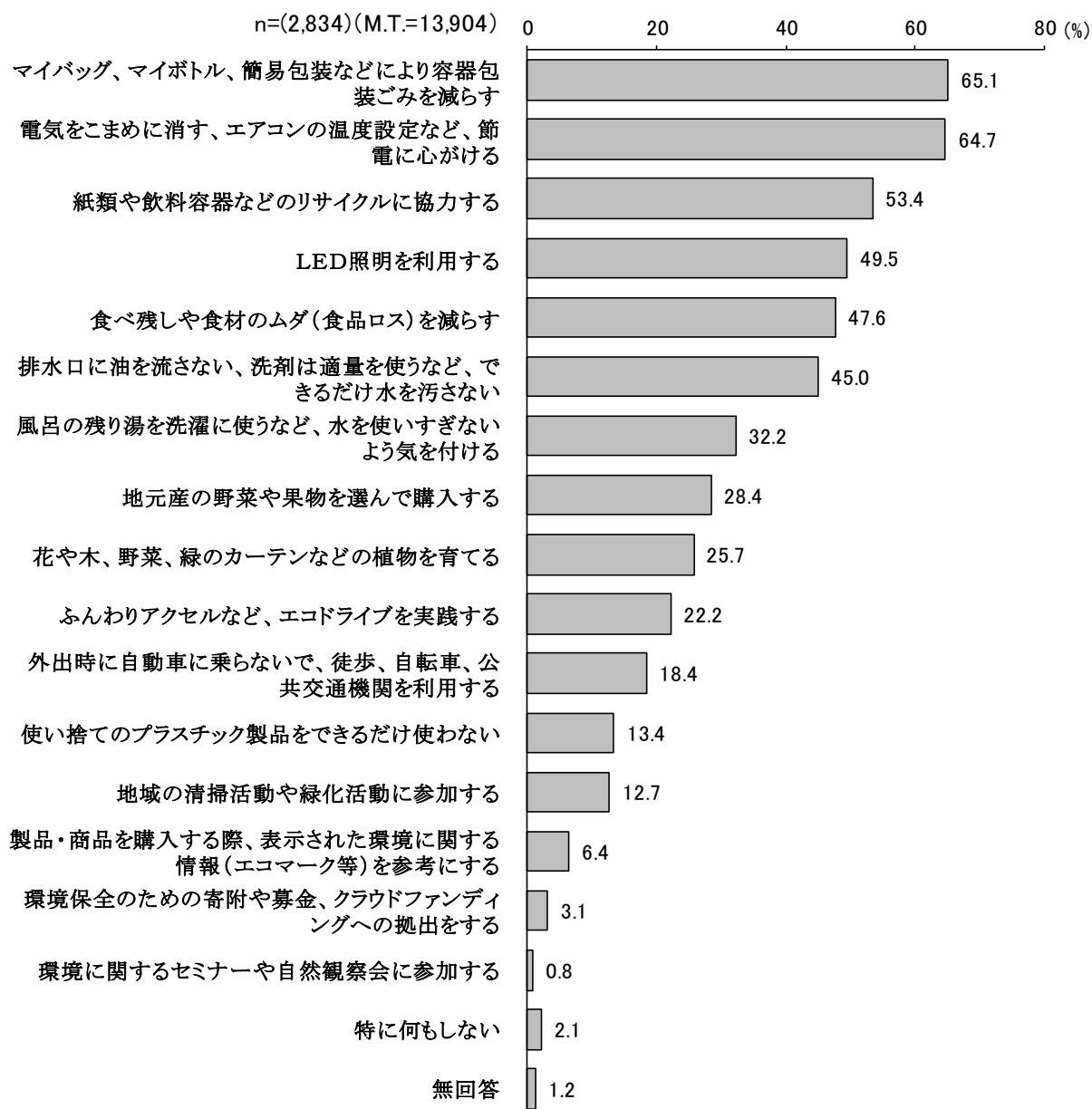
	H28	H29	H30	R1	R2
1	医療サービス体制を整備する 26.9%	高齢者の福祉を充実する 26.0%	災害から県民をまもる 25.1%	高齢者の福祉を充実する 24.2%	新型コロナウイルス感染症対策を進める 37.3%
2	高齢者の福祉を充実する 26.2%	医療サービス体制を整備する 22.9%	高齢者の福祉を充実する 22.9%	医療サービス体制を整備する 23.4%	災害から県民をまもる 25.5%
3	子育て支援を充実する 23.0%	子育て支援を充実する 22.5%	医療サービス体制を整備する 21.8%	災害から県民をまもる 19.4%	医療サービス体制を整備する 20.3%
4	防犯の地域づくりをすすめる 17.9%	災害から県民をまもる 17.6%	子育て支援を充実する 21.1%	子育て支援を充実する 18.5%	地球温暖化を防止する 17.3%
5	災害から県民をまもる 16.1%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 14.7%	防犯の地域づくりをすすめる 16.7%	高齢者の福祉を充実する 17.2%
6	自然をまもり緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 13.6%	自然をまもり、緑を育てる 13.4%	交通事故をなくす 16.6%	自然をまもり、緑を育てる／ 子育て支援を充実する 防犯の地域づくりを進める 道路や街路を整備する／ 便利な交通網をつくる
7	雇用の場を広げる 12.8%	道路や街路を整備する 12.8%	道路や街路を整備する 12.7%	道路や街路を整備する 13.4%	
8	道路や街路を整備する 12.0%	自然をまもり、緑を育てる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.6%	便利な交通網をつくる 12.9%	
9	食品の安全をまもる 11.9%	便利な交通網をつくる 12.0%	交通事故をなくす 12.5%	地球温暖化を防止する 12.7%	
10	便利な交通網をつくる 11.7%	食品の安全をまもる 11.4%	地球温暖化を防止する 12.3%	自然をまもり、緑を育てる 12.3%	便利な交通網をつくる 10.0%
11	交通事故をなくす 9.9%	雇用の場を広げる 10.8%	食品の安全をまもる 11.9%	雇用の場を広げる 9.6%	川や大気の状態をまもる 9.1%
12	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.8%	地球温暖化を防止する 10.7%	雇用の場を広げる 8.6%	食品の安全をまもる 9.3%	交通事故をなくす 8.8%
13	地球温暖化を防止する 8.6%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 9.2%	川や大気の状態をまもる 8.4%	省資源やリサイクルをすすめる 8.4%	省資源やリサイクルを進める 7.7%
14	川や大気の状態をまもる 8.0%	川や大気の状態をまもる 8.0%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 7.4%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 8.1%	雇用の場を広げる 7.2%
15	青少年を健全に育てる 6.9%	青少年を健全に育てる 6.8%	青少年を健全に育てる 6.7%	川や大気の状態をまもる 7.9%	公園、緑地を整備する 6.0%
16	公園、緑地を整備する 5.4%	公園、緑地を整備する 5.8%	省資源やリサイクルをすすめる／ 消費生活の安全を高める／	青少年を健全に育てる 7.2%	学力、規律ある態度、体力を身につける学校教育を充実する 5.1%
17	省資源やリサイクルをすすめる／ 消費生活の安全を高める	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 5.5%	消費生活の安全を高める／ 公園、緑地を整備する	公園、緑地を整備する 5.6%	消費生活の安全を高める 4.8%
18	消費生活の安全を高める 5.2%	消費生活の安全を高める 5.2%		消費生活の安全を高める 5.5%	青少年を健全に育てる 4.6%
19	健康づくりをすすめて疾病を予防する 4.8%	省資源やリサイクルをすすめる／ 健康づくりをすすめて、疾病を予防する	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.7%	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.9%	食品の安全をまもる 4.2%
20	障がい者の社会参加と福祉対策をすすめる 4.7%	健康づくりをすすめて、疾病を予防する 4.6%	廃棄物対策を充実する／ 健康づくりをすすめて疾病を予防する	廃棄物対策を充実する 4.7%	廃棄物対策を充実する 4.1%
21	廃棄物対策を充実する／ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する	都市のバリアフリー化をすすめる 4.3%	健康づくりをすすめて疾病を予防する 4.1%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.8%	障がい者の社会参加と福祉対策を進める 3.5%
22	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.4%	廃棄物対策を充実する 3.5%	都市のバリアフリー化をすすめる 3.5%	健康づくりをすすめて疾病を予防する 3.4%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりを進める 2.9%
23	都市のバリアフリー化をすすめる 3.3%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.3%	観光振興をすすめる／ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する	都市のバリアフリー化をすすめる 3.1%	農林業をさかんにする／ 芸術・文化活動をさかんにする
24	生活排水対策をすすめる／ スポーツ・レクリエーションをさかんにする	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.9%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 3.0%	生活排水対策をすすめる 3.0%	芸術・文化活動をさかんにする 2.8%
25	スポーツ・レクリエーションをさかんにする 3.1%	生活排水対策をすすめる 2.8%	スポーツ、レクリエーションをさかんにする 2.7%	観光振興をすすめる 2.9%	人権尊重の社会づくりを進める 2.6%
26	芸術・文化活動をさかんにする／ 生涯学習対策を充実する	人権尊重の社会づくりをすすめる／ 市町村が主役の地域づくりをすすめる	生活排水対策をすすめる 2.5%	芸術・文化活動をさかんにする 2.6%	生活排水対策を進める／ 健康づくりを進めて、疾病を予防する
27	生涯学習対策を充実する 2.3%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.6%	農林業をさかんにする 2.3%	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.5%	健康づくりを進めて、疾病を予防する 2.4%
28	人権尊重の社会づくりをすすめる 2.2%	芸術・文化活動をさかんにする 2.5%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 2.2%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.1%	都市のバリアフリー化を進める／ 商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する
29	市町村が主役の地域づくりをすすめる 2.1%	観光振興をすすめる 2.4%	人権尊重の社会づくりをすすめる／ 芸術・文化活動をさかんにする	農林業をさかんにする 2.0%	商工業を振興し、中小企業・ベンチャー企業への支援を充実する 2.3%
30	農林業をさかんにする／ 観光振興をすすめる	農林業をさかんにする 1.9%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.9%	生涯学習対策を充実する／ スポーツ、レクリエーションをさかんにする	市町村が主役の地域づくりを進める／ スポーツ、レクリエーションをさかんにする
31	観光振興をすすめる 1.8%	生涯学習対策を充実する 1.8%	市町村が主役の地域づくりをすすめる 1.9%	生涯学習対策を充実する／ スポーツ、レクリエーションをさかんにする	市町村が主役の地域づくりを進める／ スポーツ、レクリエーションをさかんにする
32	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.1%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.6%	生涯学習対策を充実する 1.6%	IT(情報通信技術)を生かした社会づくりをすすめる 1.8%	観光振興を進める 1.8%
33	県民参加の行政をすすめる／ 国際交流や国際協力をすすめる	国際交流や国際協力をすすめる 1.2%	国際交流や国際協力をすすめる 1.4%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	男女共同参画社会の実現をはかる／ 県民参加の行政を進める
34	国際交流や国際協力をすすめる 0.9%	県民参加の行政をすすめる 1.1%	男女共同参画社会の実現をはかる 1.1%	国際交流や国際協力をすすめる 1.0%	県民参加の行政を進める 1.0%
35	男女共同参画社会の実現をはかる 0.8%	男女共同参画社会の実現をはかる 0.7%	県民参加の行政をすすめる 0.8%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.8%	生涯学習対策を充実する 0.9%
36	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.7%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.6%	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.5%	県民参加の行政をすすめる 0.6%	国際交流や国際協力を進める 0.8%
37	－ －	－ －	－ －	－ －	NPOやボランティアへの活動支援を充実する 0.7%

4. 県民の環境への関心と行動について

(1) ご家庭で行っている環境への取組

◇「マイバッグ、マイボトル、簡易包装などにより容器包装ごみを減らす」が65.1%、「電気をこまめに消す、エアコンの温度設定など、節電に心がける」が64.7%で、これらが上位2項目

問20 次の環境への取組について、あなたのご家庭で取り組んでいるものは何ですか。あてはまるものをすべて選んでください。なお、新型コロナウイルス感染症の影響を受けている場合には、その影響がないものとして、お答えください。(〇はいくつでも)

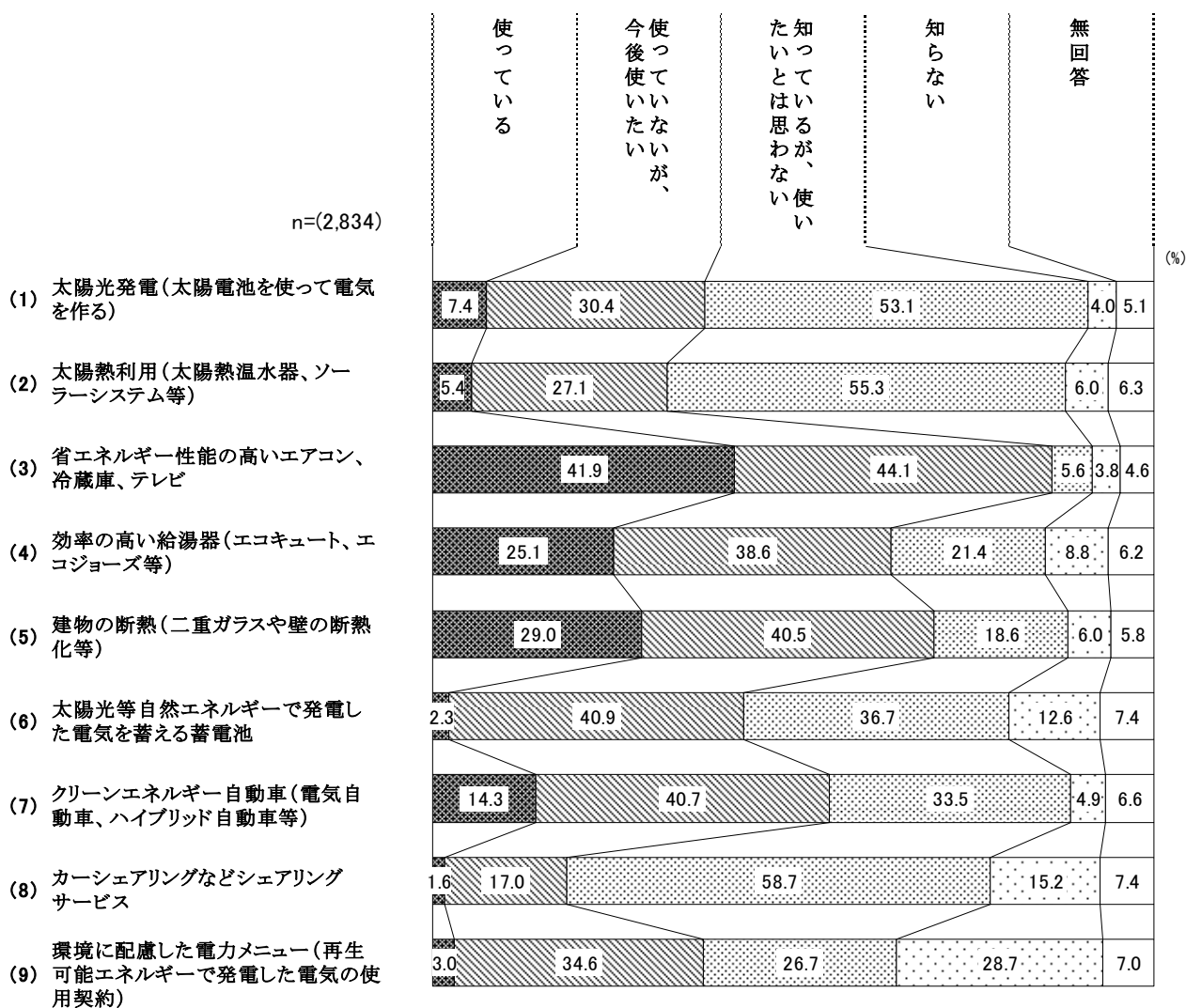


家庭で行っている環境への取組は、「マイバッグ、マイボトル、簡易包装などにより容器包装ごみを減らす」(65.1%)と「電気をこまめに消す、エアコンの温度設定など、節電に心がける」(64.7%)が6割台半ばで並んで最も高くなっている。

（２）環境に配慮した製品や設備、サービスの利用状況

◇＜省エネルギー性能の高いエアコン、冷蔵庫、テレビ＞を「使っている」が41.9%で最も多い

問21 次の環境に配慮した製品や設備、サービスについて、あなたのご家庭での利用状況について教えてください。（各項目それぞれ〇は1つずつ）



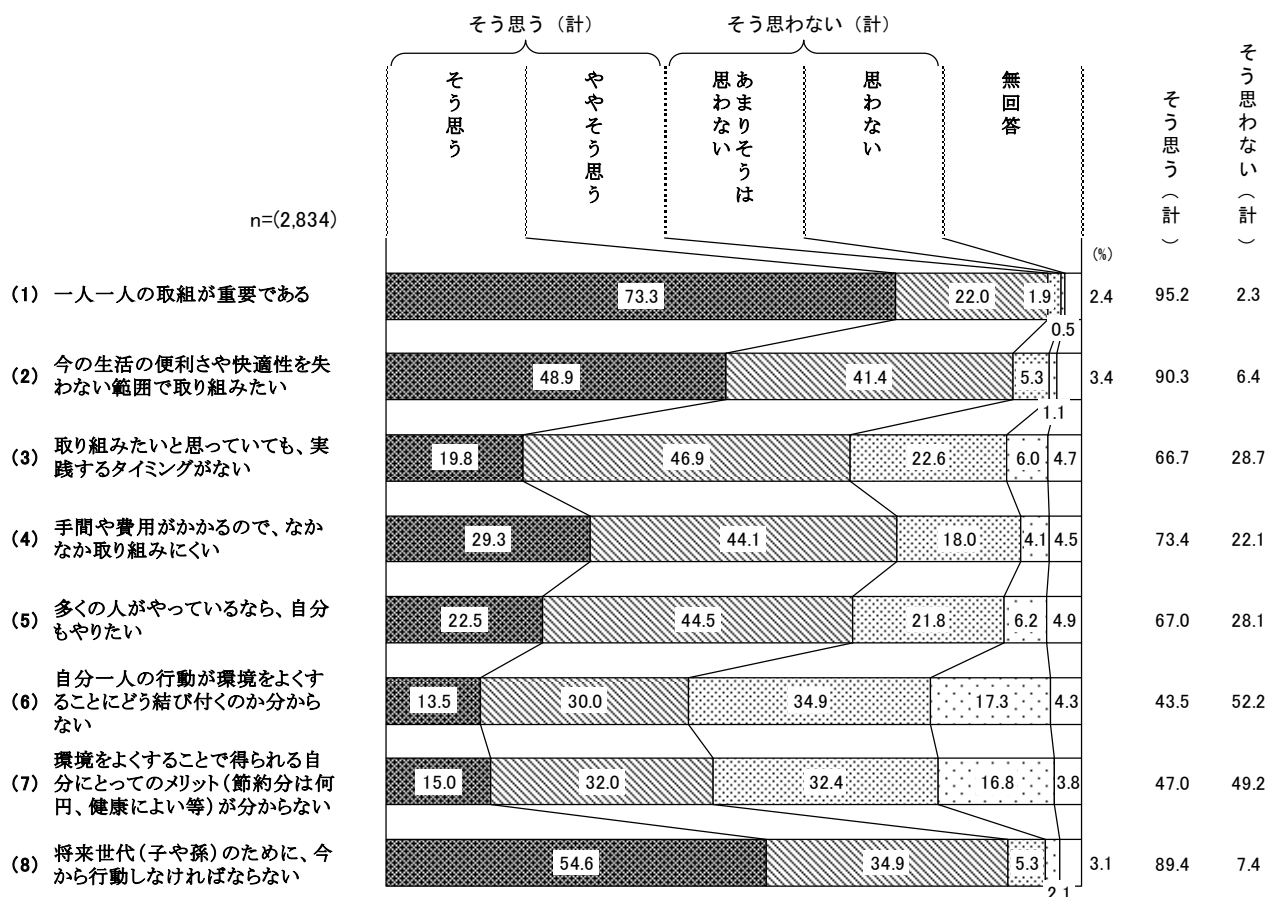
環境に配慮した製品や設備、サービスの利用状況では、「使っている」は＜（３）省エネルギー性能の高いエアコン、冷蔵庫、テレビ＞（41.9%）が4割強で最も多く、＜（５）建物の断熱（二重ガラスや壁の断熱化等）＞（29.0%）が約3割、＜（４）効率の高い給湯器（エコキュート、エコジョーズ等）＞（25.1%）が2割台半ばと多くなっている。一方で、「知らない」は＜（９）環境に配慮した電力メニュー（再生可能エネルギーで発電した電気の使用契約）＞（28.7%）が3割弱で最も多く、＜（８）カーシェアリングなどシェアリングサービス＞（15.2%）が1割台半ばと多くなっている。

（３）環境に対する取組についての考えや意見

◇＜一人一人の取組が重要である＞に『そう思う（計）』が95.2%で最も多い

問22 環境に対する取組について、次のような意見や考えがあります。それぞれについて、あなたの考えや意見に最も近いものに○をつけてください。

（各項目それぞれ○は1つずつ）

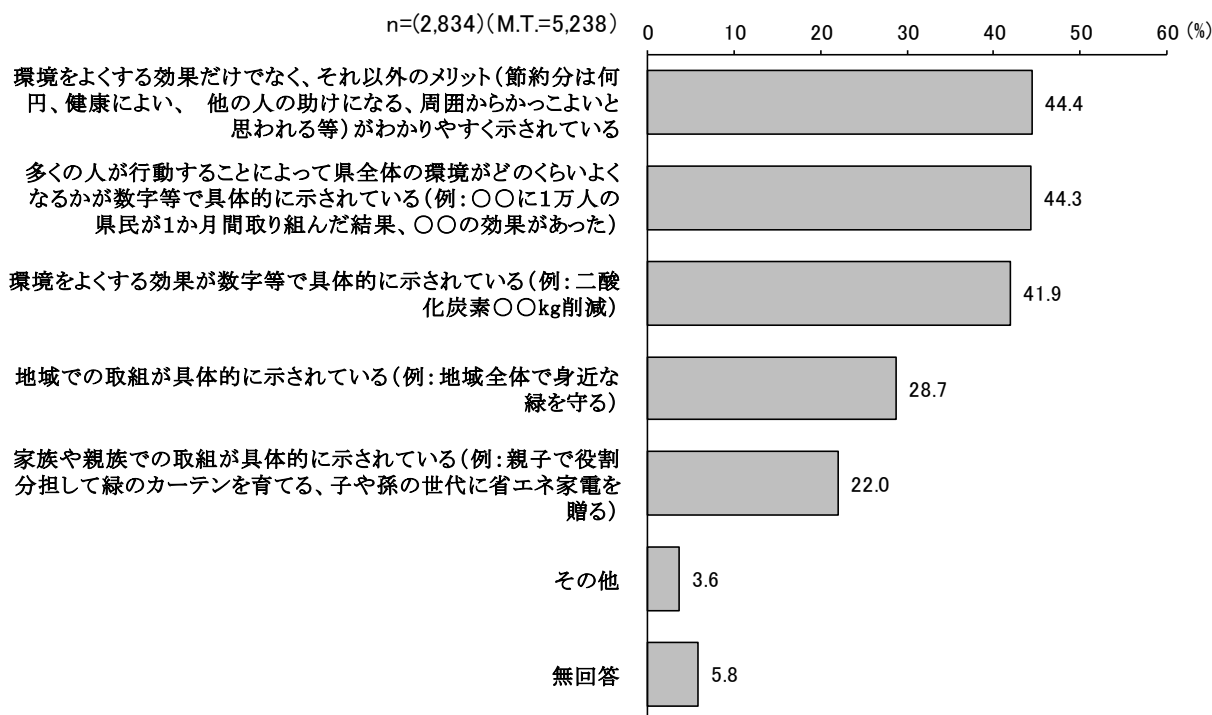


環境に対する取組についての考えや意見は、「そう思う」と「ややそう思う」を合わせた『そう思う（計）』が＜（１）一人一人の取組が重要である＞（95.2%）で9割台半ばと最も多くなっている。次いで、＜（２）今の生活の便利さや快適性を失わない範囲で取り組みたい＞（90.3%）が9割を超え、＜（８）将来世代（子や孫）のために、今から行動しなければならない＞（89.4%）が約9割で続いている。一方で、「あまりそう思わない」と「思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、＜（６）自分一人の行動が環境をよくすることにどう結び付くのか分からない＞（52.2%）で5割強と多くなっている。

(4) 環境配慮に取り組むきっかけになるメッセージ

◇「環境をよくする効果だけでなく、それ以外のメリット（節約分は何円、健康によい、他の人の助けになる、周囲からかっこよいと思われる等）がわかりやすく示されている」が44.4%

問23 あなたが環境配慮に取り組むきっかけになるのは、どのような内容のメッセージですか。あなたの考えにあてはまるものに、いくつでも○をつけてください。
(○はいくつでも)



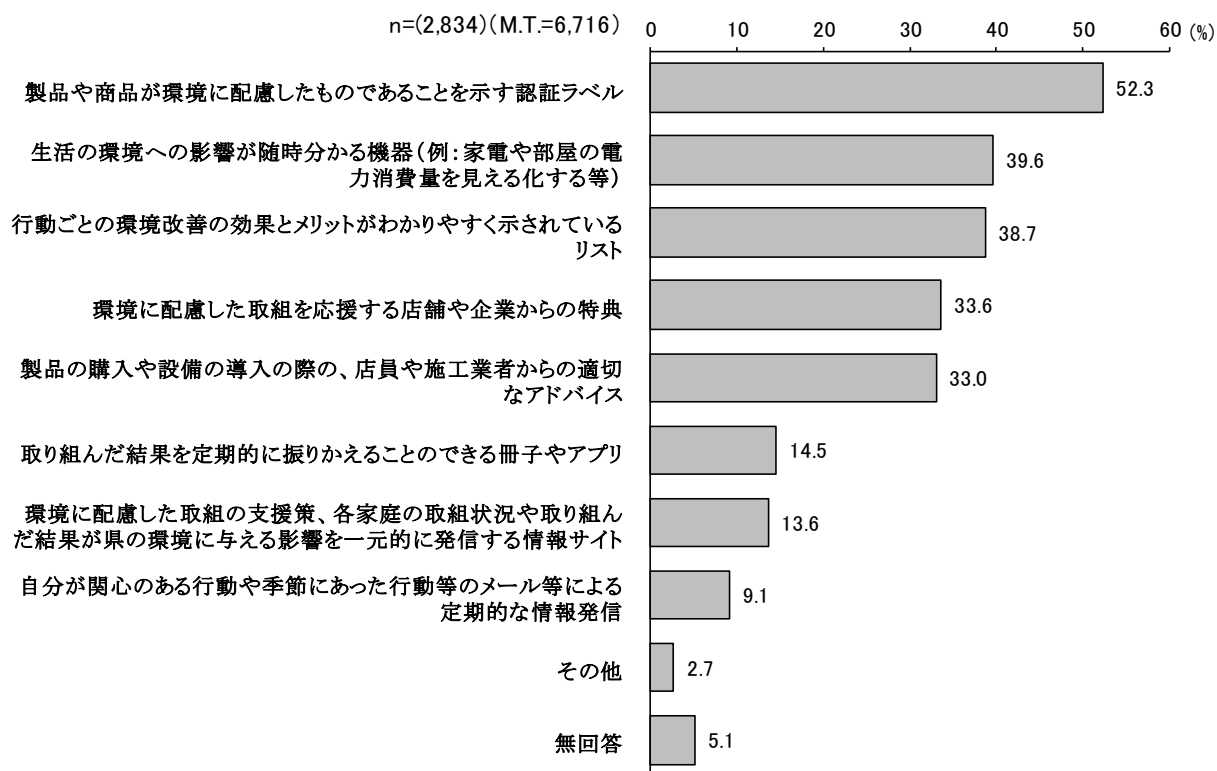
環境配慮に取り組むきっかけになるメッセージは、「環境をよくする効果だけでなく、それ以外のメリット（節約分は何円、健康によい、他の人の助けになる、周囲からかっこよいと思われる等）がわかりやすく示されている」（44.4%）と「多くの人が行動することによって県全体の環境がどのくらいよくなるかが数字等で具体的に示されている（例：〇〇に1万人の県民が1か月間取り組んだ結果、〇〇の効果があつた）」（44.3%）の2項目が4割台半ばで並んで高くなっている。

（５）環境に配慮した行動に取り組みやすい支援

◇「製品や商品が環境に配慮したものであることを示す認証ラベル」が52.3%でトップ

問24 あなたは、どのような支援があれば環境に配慮した行動により取り組みやすいですか。
あなたの考えにあてはまるものに、いくつでも○をつけてください。

（○はいくつでも）

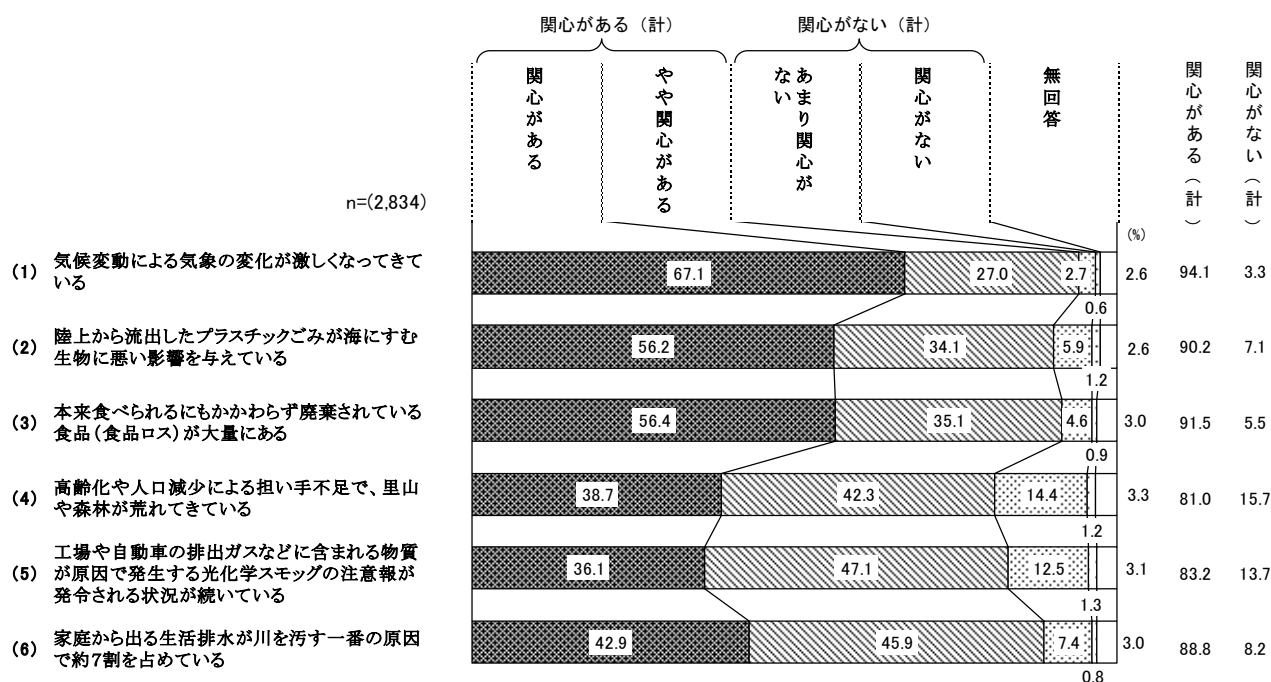


環境に配慮した行動に取り組みやすい支援は、「製品や商品が環境に配慮したものであることを示す認証ラベル」（52.3%）が5割強と最も高くなっている。次いで「生活の環境への影響が随時分かる機器（例：家電や部屋の電力消費量が見える化する等）」（39.6%）が約4割、「行動ごとの環境改善の効果とメリットがわかりやすく示されているリスト」（38.7%）が4割弱と高くなっている。

（６）環境問題への関心について

◇＜気候変動による気象の変化が激しくなっている＞に『関心がある（計）』が94.1%でトップ

問25 あなたは、次にあげた環境問題について、どの程度関心がありますか。それぞれについて、あなたの考えに最も近いものに○をつけてください。
（各項目それぞれ○は1つずつ）

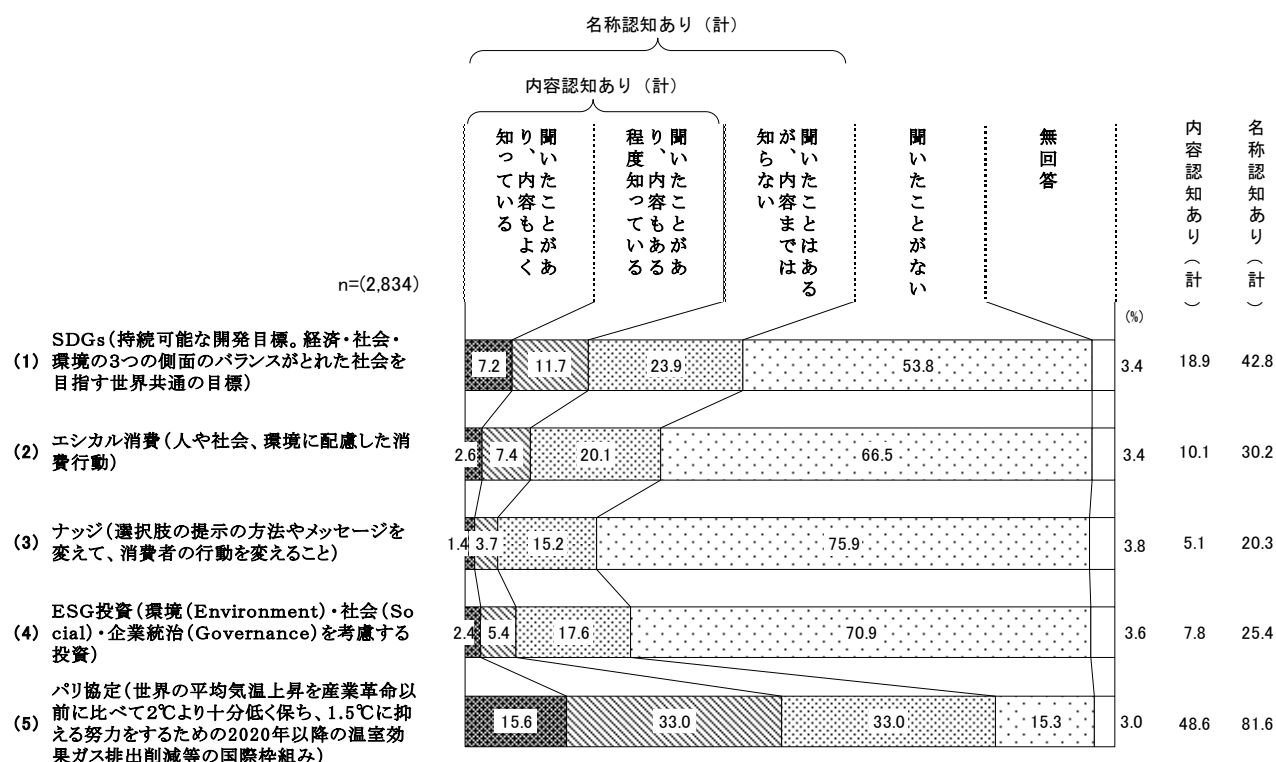


環境問題への関心について、「関心がある」と「やや関心がある」を合わせた『関心がある（計）』は、＜気候変動による気象の変化が激しくなっている＞（94.1%）が9割台半ばで最も多くなっている。次いで＜本来食べられるにもかかわらず廃棄されている食品（食品ロス）が大量にある＞（91.5%）が9割強、＜陸上から流出したプラスチックごみが海にすむ生物に悪い影響を与えている＞（90.2%）が9割を超えて続いて上位となっている。一方で、「あまり関心がない」と「関心がない」を合わせた『関心がない（計）』では、＜高齢化や人口減少による担い手不足で、里山や森林が荒れてきている＞（15.7%）が1割台半ばで最も多くなっている。

（７）環境に関する話題の認知

◇パリ協定（世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするための2020年以降の温室効果ガス排出削減等の国際枠組み）で『内容認知あり（計）』が48.6%と最も多い

問26 あなたは、環境に関する次の話題について知っていますか。それぞれについて、あなたの状況に最も近いものに○をつけてください。（各項目それぞれ○は1つずつ）



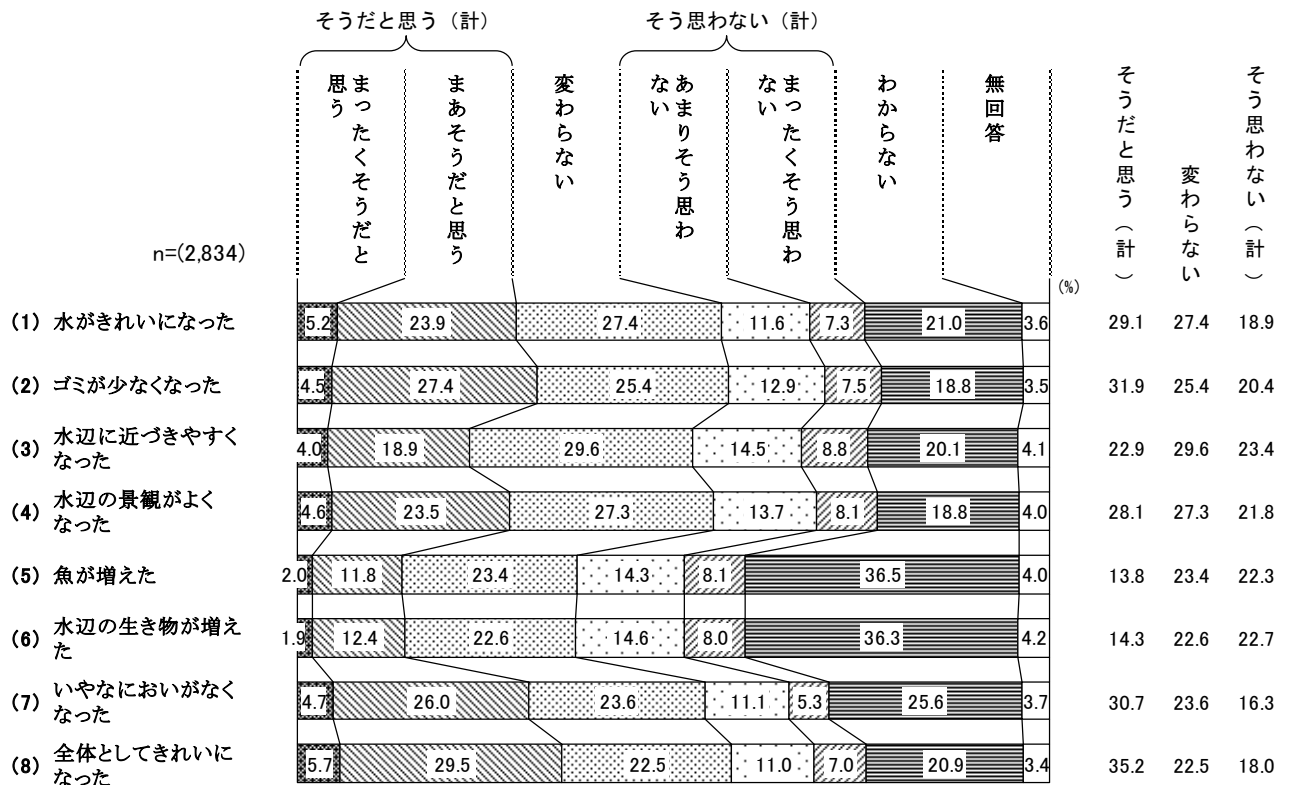
環境に関する話題の認知で、「聞いたことがあり、内容もよく知っている」と「聞いたことがあり、内容もある程度知っている」を合わせた『内容認知あり（計）』はく（１）パリ協定（世界の平均気温上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保ち、1.5℃に抑える努力をするための2020年以降の温室効果ガス排出削減等の国際枠組み）＞（48.6%）が5割弱と最も多く、これに「聞いたことはあるが、内容までは知らない」（33.0%）も合わせた『名称認知あり（計）』（81.6%）は8割強を占めている。

5. 川の再生について

(1) 10年くらい前との比較

◇「全体としてきれいになった」に35.2%が『そうだと思う（計）』と回答

問27 あなたは、お住まいの近くの川について、10年くらい前と比べて現在どのように感じていますか。次の（１）から（８）までのそれぞれの項目について、あなたの考えに近いものを選んでください。（各項目それぞれ〇は１つずつ）

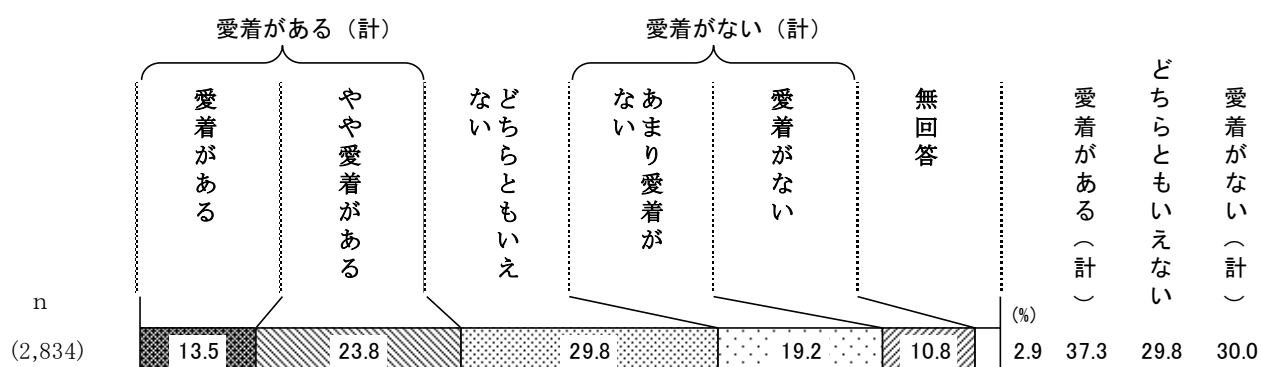


住まい近くの川の状況を、項目ごとに、10年くらい前の状況と比較してもらった結果を、「まったくそうだと思う」と「まあそうだと思う」を合わせた『そうだと思う（計）』でみると、全体評価である「(8) 全体としてきれいになった」(35.2%)では3割台半ばとなっている。全体評価以外の7項目の結果をみると『そうだと思う（計）』の割合は、「(2) ゴミが少なくなった」(31.9%)と「(7) いやなにおいがなくなった」(30.7%)の2項目がともに3割を超えて高くなっている。一方で、「あまりそう思わない」と「まったくそう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』では、「(3) 水辺に近づきやすくなった」(23.4%)が2割強と最も高くなっている。

（２）川への愛着

◇『愛着がある（計）』が37.3%、『愛着がない（計）』は30.0%

問28 あなたは、お住まいの近くの川への愛着について、どのように感じていますか。
（○は1つだけ）

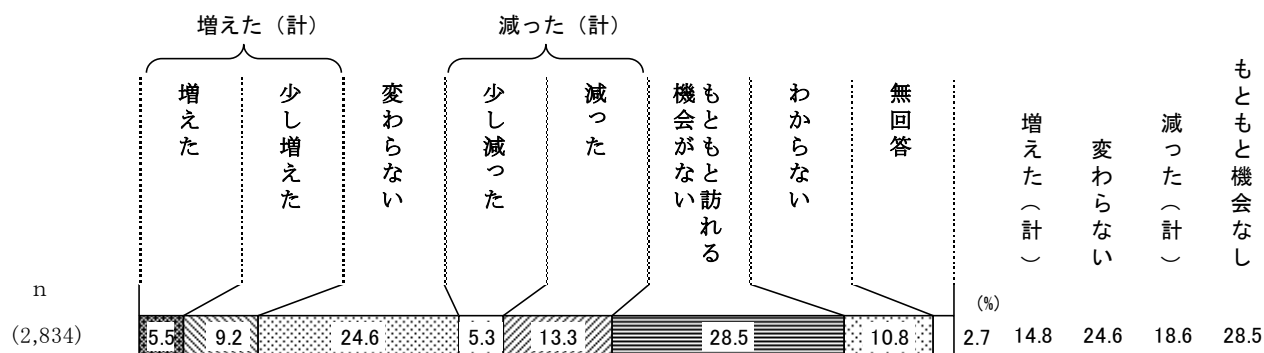


住まいの近くの川への愛着は、「どちらともいえない」（29.8%）が約3割で最も多いものの、次いで多いのは、2割強の「やや愛着がある」（23.8%）で、これに「愛着がある」（13.5%）を合わせた『愛着がある（計）』（37.3%）は3割台半ばを超えている。一方で、「あまり愛着がない」（19.2%）と「愛着がない」（10.8%）を合わせた『愛着がない（計）』（30.0%）は3割となっており、『愛着がある（計）』の方が『愛着がない（計）』を7.3ポイント上回って多くなっている。

(3) 川を訪れる機会

◇『増えた（計）』は14.8%、『減った（計）』は18.6%で、「もともと機会なし」が28.5%で最多

問29 あなたは、お住まいの近くの川を散歩やサイクリング、釣り、川遊びなどで訪れる機会について、10年くらい前と比べてどのようになりましたか。（○は1つだけ）

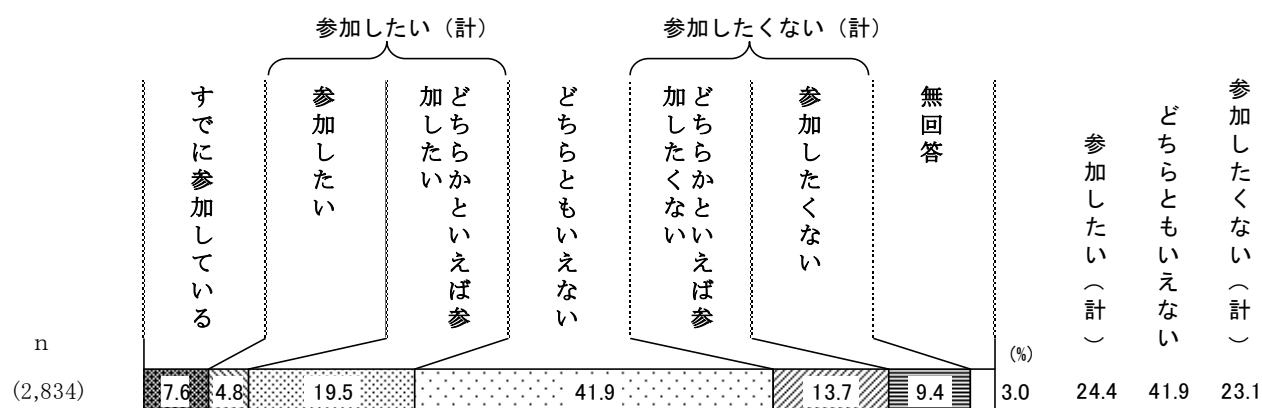


住まいの近くの川を訪れる機会について、10年くらい前と比べてもらった結果は、「もともと訪れる機会がない」（28.5%）が2割台後半で最も多く、これに「変わらない」（24.6%）が2割台半ばで続いて多く、この両者で過半数を占めている。一方で、「増えた」（5.5%）と「少し増えた」（9.2%）を合わせた『増えた（計）』（14.8%）は1割台半ばで、「減った」（13.3%）と「少し減った」（5.3%）を合わせた『減った（計）』（18.6%）は2割弱となっており、『減った（計）』の方が『増えた（計）』を3.8ポイント上回って多くなっている。

（４）川の美化活動への参加について

◇『参加したい（計）』は24.4%、『参加したくない（計）』は23.1%

問30 あなたは、川の美化活動（ゴミ拾い、草刈りなど）への参加について、どのように思いますか。（○は1つだけ）

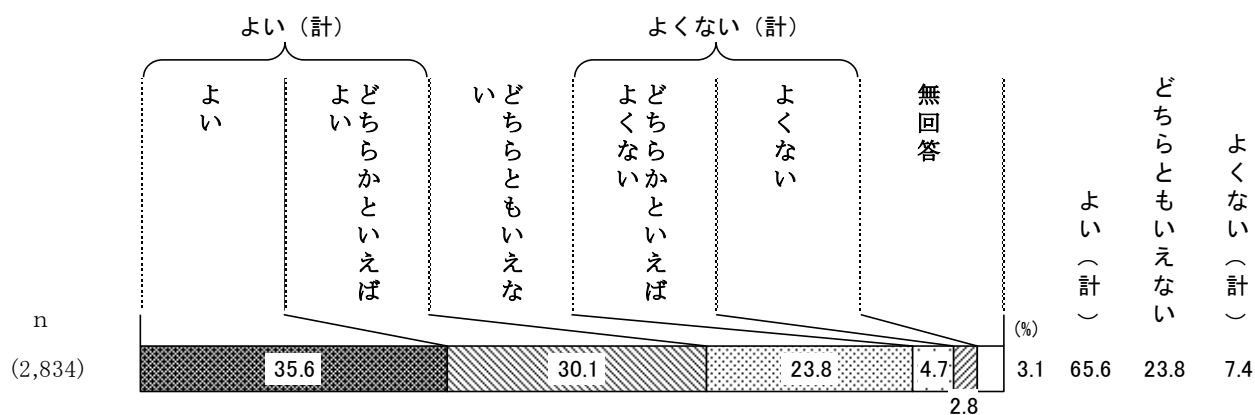


川の美化活動（ゴミ拾い、草刈りなど）への参加については、「どちらともいえない」（41.9%）が4割強で最も多く、次いで「どちらかといえば参加したい」（19.5%）が約2割で続き、これに「参加したい」（4.8%）を合わせた『参加したい（計）』（24.4%）は2割台半ばとなっている。一方で、「どちらかといえば参加したくない」（13.7%）と「参加したくない」（9.4%）を合わせた『参加したくない（計）』（23.1%）は2割強となっており、『参加したい（計）』（24.4%）と『参加したくない（計）』（23.1%）の両者の比率は1.3ポイント差で拮抗している。なお「既に参加している」（7.6%）は1割未満となっている。

（５）河川空間を有効活用する取組について

◇『よい（計）』が65.6%、『よくない（計）』は7.4%

問31 あなたは、地域の資源として河川空間を有効活用する取組について、どのように思いますか。（○は1つだけ）

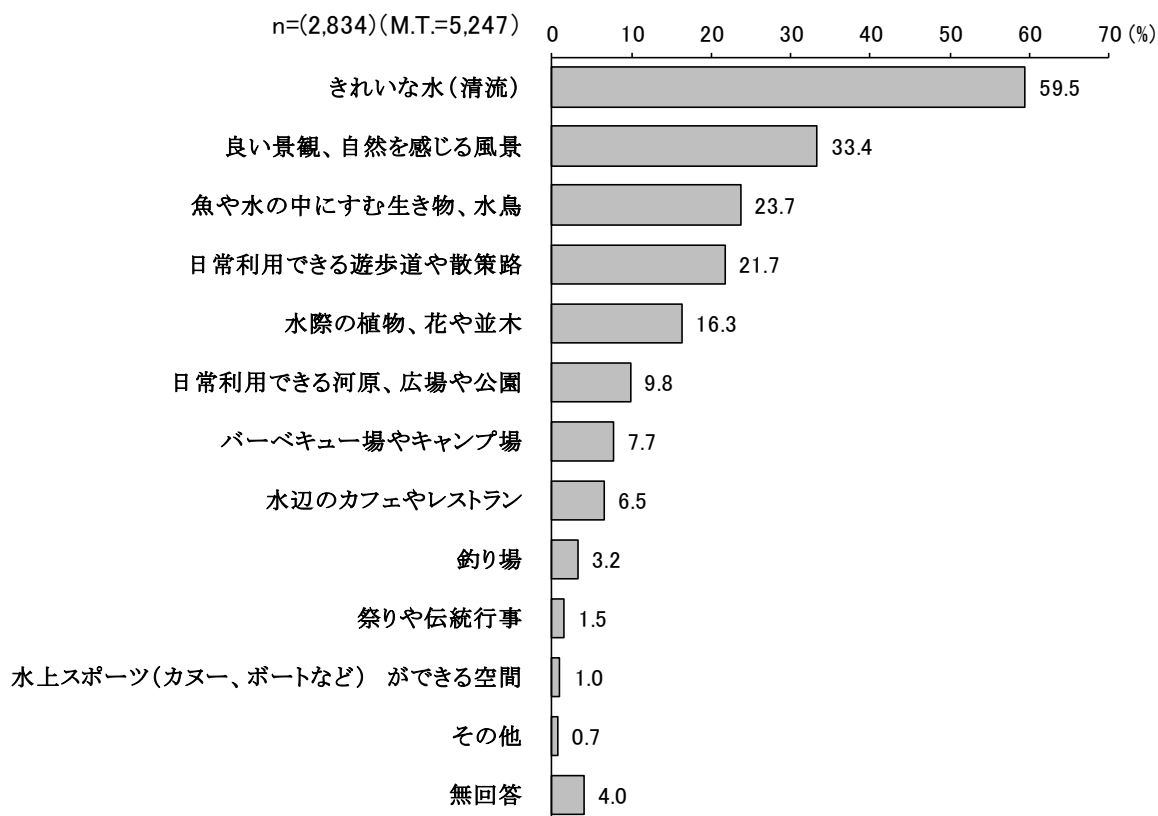


地域の資源として河川空間を有効活用する取組については、「よい」（35.6%）が3割台半ばで最も多く、これに「どちらかといえばよい」（30.1%）が3割を超えて続く。この両者を合わせた『よい（計）』（65.6%）が6割台半ばを占めて、「どちらかといえばよくない」（4.7%）と「よくない」（2.8%）を合わせて1割未満にとどまる『よくない（計）』（7.4%）を大きく上回っている。なお「どちらともいえない」（23.8%）という回答も2割強みられる。

（６）川や水辺に求めるもの、魅力を感じるもの

◇「きれいな水（清流）」が59.5%

問32 あなたが、川や水辺（湖、調節池、ため池など）に求めるもの、魅力を感じるものを、次の中から2つまで選んでください。（○は2つまで）

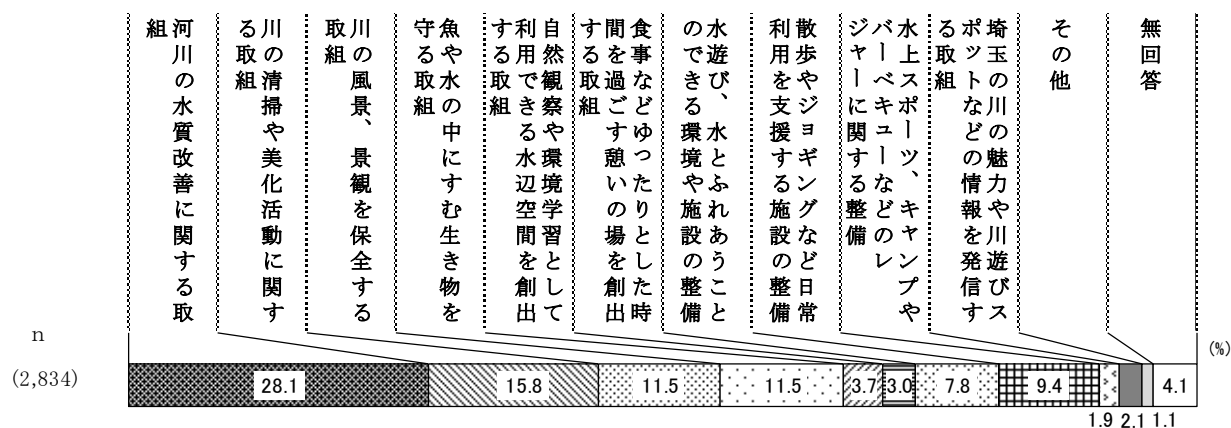


川や水辺（湖、調整池、ため池など）に求めるもの、魅力を感じるものでは、「きれいな水（清流）」（59.5%）が約6割で最も高く、次いで「良い景観、自然を感じる風景」（33.4%）が3割強で続き、以下、「魚や水の中にすむ生き物、水鳥」（23.7%）、「日常利用できる遊歩道や散策路」（21.7%）がともに2割強、「水際の植物、花や並木」（16.3%）が1割台半ばを超えている。

（７）「川の再生」の取組最重点項目

◇「河川の水質改善に関する取組」が28.1%

問33 県が行う「川の再生」の取組で、あなたが最も重点を置いたらよいと思うものを、次の中から1つだけ選んでください。（○は1つだけ）

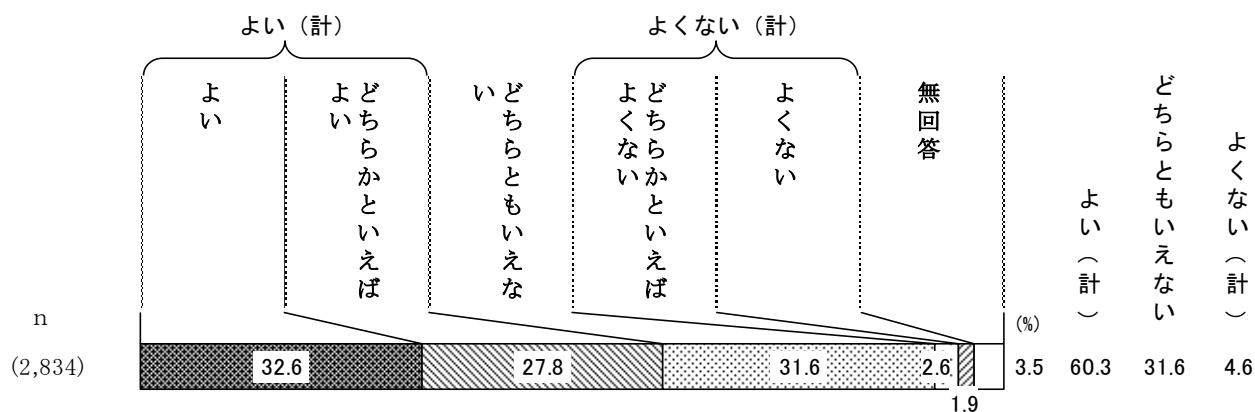


県が行う「川の再生」の取組で最も重点を置いたらよい点を単数回答で答えてもらった結果は、「河川の水質改善に関する取組」（28.1%）が2割台後半で最も多く、「川の清掃や美化活動に関する取組」（15.8%）が1割台半ばと次点で、以下「川の風景、景観を保全する取組」と「魚や水の中にすむ生き物を守る取組」（ともに11.5%）、「散歩やジョギングなど日常利用を支援する施設の整備」（9.4%）が1割前後で続き、これらが上位となっている。

(8)「川の再生」の取組全般について

◇『よい(計)』が60.3%、『よくない(計)』は4.6%

問34 あなたは、県が進める「川の再生」の取組全般について、どのように思いますか。
(○は1つだけ)



県が進める「川の再生」の取組全般についての評価は、「よい」(32.6%)が3割強で最も多く、これに2割台後半の「どちらかといえばよい」(27.8%)を合わせた『よい(計)』(60.3%)が6割を超えて、「どちらかといえばよくない」(2.6%)と「よくない」(1.9%)を合わせて1割未満にとどまる『よくない(計)』(4.6%)を大きく上回っている。なお「どちらともいえない」(31.6%)という回答も3割強みられる。

世論調査実施状況

(参考資料)

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
1	昭和43年度	8月16日～9月2日	県政全般(県政への関心、暮らし向き、青少年、教育、保健、スポーツ、社会福祉、住宅、環境等)	1,500	個別面接聴取法	84.0%
2	昭和44年度	7月15日～31日	県政全般(自治意識、暮らし向き、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、環境、消費生活等)	1,500	個別面接聴取法	81.3%
3	昭和45年度	9月20日～10月10日	県政全般(自治意識、青少年、教育、保健、社会福祉、住宅、公害、消費生活、農業等)	1,500	個別面接聴取法	86.5%
4		11月9日～24日	広報、具体的な広報の媒体、広聴	1,500	個別面接聴取法	89.1%
5	昭和46年度	9月20日～10月3日	近隣社会、居住環境	1,500	個別面接聴取法	90.7%
6		11月26日～12月9日	大災害に関すること(一般的関心、地震、防火、避難、近隣組織、職場・外出先での対策、地震に対する備えについて)	1,500	個別面接聴取法	86.6%
7	昭和47年度	10月26日～11月4日	県政全般(公害・交通問題、県民の健康とくらし、教育・文化・スポーツを伸ばす等)	1,500	個別面接聴取法	82.5%
8	昭和48年度	11月14日～26日	県政全般(広報、自然環境と開発、福祉、消費生活、ごみ処理、保健、商工、農林、労働、都市環境、教育等)	1,500	個別面接聴取法	84.7%
9	昭和49年度	8月15日～27日	県政全般(現在の住まい、広報、公害、交通、健康、県民のくらし、学校教育、自然保護等)	1,500	個別面接聴取法	80.9%
10	昭和50年度	8月上旬～中旬	県政全般(公害、交通安全、災害、警察、医療、福祉、教育、自然保護と開発、水、住宅、ごみ、商工、農林等)	1,500	個別面接聴取法	77.1%
11		3月9日～18日	学校教育、生活環境、自然環境	1,500	個別面接聴取法	83.0%
12	昭和51年度	7月20日～31日	水問題、福祉問題、コミュニティ問題	1,500	個別面接聴取法	83.9%
13	昭和52年度	6月15日～30日	地域社会、地域福祉、文化活動、医療、献血、暴走族、県政への満足度、県民討論会、県政全般	1,500	個別面接聴取法	83.6%
14	昭和53年度	7月14日～26日	文化の問題、婦人の問題、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.1%
15	昭和54年度	7月10日～26日	みどりの環境、地震災害、県政全般	1,500	個別面接聴取法	81.9%
16	昭和55年度	7月25日～8月11日	老人福祉、21世紀のまちづくり、地価及び宅地問題、県政全般	1,500	留置記入依頼法	87.5%
17	昭和56年度	7月25日～8月14日	水問題、障害者福祉、県政全般	1,500	個別面接聴取法	84.1%
18	昭和57年度	7月23日～8月12日	交通安全、行政改革、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	82.5%
19	昭和58年度	7月20日～8月14日	21世紀の県民生活、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	83.7%
20	昭和59年度	7月20日～8月12日	みどり、快適な環境、文化活動、サービス業、県税、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	80.4%
21	昭和60年度	7月18日～8月11日	高齢化社会、コミュニティ、学校教育、平和、生活意識、県政への要望	1,500	個別面接聴取法	78.4%
22	昭和61年度	7月9日～8月14日	国際交流、健康、快適な環境、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.1%
23	昭和62年度	6月1日～30日	住環境、景観、交通網、生涯学習、ボランティア活動、社会意識、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	80.2%
24	昭和63年度	7月1日～31日	県民生活、土地問題、ごみ処理、文化活動、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.7%
25	平成元年度	6月23日～7月23日	高度情報化施策、男女平等意識、青少年健全育成、埼玉コロシアム・埼玉メッセ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
26	平成2年度	7月4日～29日	環境保全、交通安全、県税、お墓、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	78.1%
27	平成3年度	7月5日～8月4日	スポーツ・レクリエーション活動、道路整備、ペット問題、商品包装、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.5%
28	平成4年度	6月26日～7月26日	住宅問題、防災、高度情報化施策、個人情報の保護、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	75.0%

回	年度	調査時期	テーマ	標本数	調査方法	回収率
29	平成5年度	7月9日～8月4日	新しいくにつくり、人と環境にやさしいリサイクル県づくり、国際化とまちづくり、住みよさ、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	77.2%
30	平成6年度	7月8日～8月10日	消費生活、ボランティア活動・福祉活動への参加について、子どもと家族、県の広報について、生活意識、県政への要望	2,000	個別面接聴取法	76.4%
31	平成7年度	7月1日～31日	21世紀の彩の国さいたまの将来像、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	78.3%
32	平成8年度	7月10日～8月11日	ごみ減量化について、身近な自然について、健康と医療サービスについて、高度情報化施策について、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.3%
33	平成9年度	8月16日～9月15日	県政情報、安全な暮らし(防災、高齢者の交通安全、犯罪)、墓地、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.8%
34	平成10年度	7月10日～8月9日	国民体育大会、青少年問題、公園、高齢者福祉、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.9%
35	平成11年度	7月9日～8月8日	埼玉県の緑、子育て支援、ボランティア活動、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
36	平成12年度	7月8日～8月7日	環境全般・環境学習について、公害問題について、廃棄物問題・リサイクルについて、有害な化学物質について、地球温暖化について、環境保全活動について、今後の県の取り組み、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	76.7%
37	平成13年度	6月30日～7月30日	保健・医療、文化・芸術、国際交流・国際協力、生活意識、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	77.2%
38	平成14年度	7月6日～8月5日	農林業の役割、屋外照明による生活環境への影響、日常生活、生活意識、住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.3%
39	平成15年度	7月15日～8月5日	防犯、水環境、食の安全、日常生活、生活意識、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	67.3%
40	平成16年度	7月13日～8月10日	生活意識、日常生活、森林環境、地球温暖化、子どもの虐待、スポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.4%
41	平成17年度	7月2日～8月1日	生活意識、日常生活、子育て支援、みどりの環境税制、消費生活、まちづくり・住みよさ、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.9%
42	平成18年度	7月8日～8月14日	生活意識、日常生活、生活範囲とまちづくり、外国人との共生、団塊世代等の人材活用、定住意向、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	65.3%
43	平成19年度	7月13日～8月6日	生活意識、日常生活、消費生活、子どもの安全対策、県民のスポーツ振興、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.4%
44	平成20年度	7月11日～8月8日	生活意識、日常生活、住みよさ、みどりと川の再生、大学と地域の連携、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	74.8%
45	平成21年度	7月10日～8月3日	生活意識、日常生活、定住意向、スポーツ振興、水道の未来づくり、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.0%
46	平成22年度	7月9日～8月2日	生活意識、日常生活、消費生活、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.1%
47	平成23年度	7月8日～8月1日	生活意識、日常生活、住みよさ、自転車利用、生涯学習、買い物弱者、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	75.7%
48	平成24年度	7月6日～29日	生活意識、日常生活、定住意向、健康長寿埼玉、震災前後における省エネ・創エネに関する意識と行動の変化、県教育行政、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	73.1%
49	平成25年度	7月5日～28日	生活意識、日常生活、個人情報保護と活用、埼玉県ホームページの利用状況、生涯学習、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.0%
50	平成26年度	7月4日～27日	生活意識、日常生活、住みよさ、埼玉版ウーマノミクスプロジェクト、治水対策、食品ロスの削減、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.8%
51	平成27年度	7月3日～26日	生活意識、日常生活、定住意向、人口減少問題、大地震への備え、川の再生、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.9%
52	平成28年度	7月8日～31日	生活意識、日常生活、スポーツ振興、認知症、水道の利用、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	72.5%
53	平成29年度	7月7日～31日	生活意識、日常生活、シニアの社会参加、性的少数者(LGBT)、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	71.3%
54	平成30年度	7月6日～31日	生活意識、日常生活、受動喫煙防止対策、社会貢献活動における寄附、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	70.7%
55	令和元年度	7月5日～31日	生活意識、日常生活、大地震に備えた取組について、生涯現役に向けた定年後の準備、就労希望等について、県政への要望	3,000	個別面接聴取法	66.5%
56	令和2年度	8月8日～28日	生活意識、日常生活、住みよさ、新型コロナウイルス感染症への不安、環境への関心と行動、川の再生、県政への要望	5,000	郵送法	56.7%

本報告書の調査データを引用された場合は、
掲載資料 1 部を下記の担当課へ送付願います。

令和 2 年度

埼玉県政世論調査

令和 2 年12月発行

埼玉県県民生活部広聴広報課

〒330-9301

埼玉県さいたま市浦和区高砂 3 - 15 - 1



埼玉県マスコット「コバトン&さいたまっち」